

# 町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅳ

洲崎館跡内外分布調査  
比石館跡内外分布調査  
字向浜地区分布調査

2001 ・ 3  
上ノ国町教育委員会



# 序

行きつ戻りつした遅い春もようやく渡島半島の西南、日本海を臨む海岸部に達し、春の山菜目当ての人々がリュックを背負い、国道228号線の路傍をそぞろ歩く姿が目につく季節になりました。

今年度の分布調査は、二級河川天野川の河口にあったと推される潟湖（ラグーン）縁辺の向浜地区を皮切りに、洲崎館跡の一角を占める北村地区の砂館神社（前身は毘舎門天王社）周辺、石崎地区の比石館跡、最後はまた洲崎館跡に戻るといふ、車に調査用の器材を積みながら町の南北を往還した調査でありました。

この間、文化庁記念物課をはじめ関係各機関の諸先生、上ノ国町史跡整備検討委員会の渡辺定夫、仲野浩、宮本長二郎、田中哲雄、榎森進、鈴木亘の各先生には遠路お越しいただきご指導、ご助言を賜りました。心より御礼申し上げます。また調査を進めるにあたり、北村、向浜、石崎地区の土地所有者をはじめ多くの地域住民の皆様のご支援、ご協力を賜りました。衷心より厚く感謝申し上げます。

さて、洲崎館が築かれたと同時代に町場が形成されたのではないかとわれてきた向浜地区の調査は、江戸から明治にかけての遺構と遺物しか検出できない結果に終わりましたが、二級河川天野川河口右岸の北村から向浜にかけて広がる砂丘列の成立とその消長について、自然地理学の観点から精査すべきとの貴重なご助言も頂戴いたしました。

同じく、潟湖の縁辺に位置すると推される洲崎館跡では、中世の陶磁器をはじめとした遺物や柱穴、竪穴建物跡を検出したところですが、館跡の本体と考えられてきた丘陵部（実は砂丘）からではなく、二級河川天野川水系目名川付近の平地から多数検出されました。館跡の範囲は更なる拡がりを見せてくれそうです。

長禄元年（1457）のコシャマインの戦いで陥落したと松前家の家記類に伝わる比石館跡は、二級河川石崎川の河口に聳える岬状の台地がその遺跡と伝えられてきましたが、期待した15世紀代の遺構や遺物は検出されず、16世紀末から17世紀初頭の遺構、遺物しか発見されないという結果に終わりました。比石館跡が別の場所にあった可能性も捨てきれず、石崎川河口右岸にも視野を移し、再検証する必要があるようです。

松前藩政下の和入地や、中世の蝦夷地の乏しい文献資料の空白を埋めるべく進められている考古学による地域史の検証も、松前家を中心とした既知の文献資料や、地元の伝承との間で微妙な食い違いを見せつつあり、意外な方向に進む予感を感じさせるものがあります。

今後とも精進を重ね、身近な地域史の創造に向けた取り組みを地道に進めて参りたいと考えておりますので、関係各機関、諸先生方にはより一層のご助言、ご叱正を賜りますようお願い申し上げます、刊行の挨拶といたします。

平成13年3月

北海道檜山郡上ノ国町教育委員会

教育長 上野秀勝

## 本文目次

序

本文目次／挿図目次／表目次／写真図版目次  
例言／引用参考文献

### 洲崎館跡内外分布調査

#### I 調査の概要

1. 調査の経緯 ..... 2
2. 調査の方法 ..... 2
3. 調査の経過 ..... 2
4. 基本層序 ..... 2

#### II 調査

1. 調査区 ..... 4
2. 出土遺物の概要 ..... 30

#### III 小括 ..... 45

#### IV まとめ ..... 46

### 比石館跡内外分布調査

#### I 調査の概要

1. 調査の経緯 ..... 49
2. 調査の方法 ..... 49
3. 調査の経過 ..... 49
4. 基本層序 ..... 49

#### II 調査

1. 調査区 ..... 50
2. 出土遺物の概要 ..... 64

#### III 小括 ..... 64

#### IV まとめ ..... 65

### 字向浜地区分布調査

#### I 調査の概要

1. 調査の経緯 ..... 67
2. 調査の方法 ..... 67
3. 調査の経過 ..... 67
4. 基本層序 ..... 67

#### II 調査

1. 調査区 ..... 68
2. 出土遺物の概要 ..... 82

#### III まとめ ..... 89

#### 報告書抄録 ..... 90

## 挿図目次

### 洲崎館跡内外分布調査

- 第1図 遺跡位置図 ..... 1
- 第2図 洲崎館跡内外分布調査  
調査区位置図 ..... 3
- 第3図 調査区土層堆積図 ..... 6
- 第4図 調査区土層堆積図他 ..... 7
- 第5図 調査区土層堆積図他 ..... 8
- 第6図 第50調査区遺構配置図 ..... 9
- 第7図 第50調査区遺構配置図他 ..... 11
- 第8図 第50調査区竪穴建物跡平面図他 ..... 13
- 第9図 第52調査区遺構配置図他 ..... 15
- 第10図 調査区土層堆積図他 ..... 17
- 第11図 第57調査区炭化物範囲1平面図他 ..... 19
- 第12図 調査区出土遺物 ..... 31
- 第13図 調査区出土遺物 ..... 32
- 第14区 調査区出土遺物 ..... 33
- 第15図 調査区出土遺物 ..... 34
- 第16図 調査区出土遺物 ..... 35
- 第17図 調査区出土遺物 ..... 36
- 第18図 調査区出土遺物 ..... 37
- 第19図 調査区出土遺物 ..... 38
- 第20図 調査区出土遺物 ..... 39
- 第21図 調査区出土遺物 ..... 40
- 第22図 調査区出土遺物 ..... 41

### 比石館跡内外分布調査

- 第23図 調査区土層堆積図他 ..... 52
- 第24図 調査区土層堆積図他 ..... 53
- 第25図 第5調査区土層堆積図他 ..... 55
- 第26図 第5調査区土壌3平面図他 ..... 56
- 第27図 第5調査区礎石建物跡平面図他 ..... 57
- 第28図 調査区出土遺物 ..... 62

### 字向浜地区分布調査

- 第29図 調査区土層堆積図他 ..... 70
- 第30図 調査区土層堆積図他 ..... 71
- 第31図 第12調査区 遺構平面図他 ..... 73
- 第32図 第13調査区 土層堆積図他 ..... 74
- 第33図 第13調査区 土壌3平面図他 ..... 75
- 第34図 第13調査区 遺構平面図他 ..... 76
- 第35図 調査区出土遺物 ..... 84
- 第36図 調査区出土遺物 ..... 85
- 第37図 調査区出土遺物 ..... 86
- 第38図 調査区出土遺物 ..... 87

## 表目次

### 洲崎館跡内外分布調査

表1	調査区土層観察表	21
表2	調査区土層観察表	22
表3	調査区土層観察表	23
表4	調査区土層観察表	24
表5	調査区土層観察表	25
表6	調査区土層観察表	26
表7	調査区土層観察表	27
表8	調査区土層観察表	28
表9	遺構土層観察表	28
表10	遺構土層観察表	29
表11	遺構土層観察表	30
表12	遺構土層選別表	42
表13	出土遺物観察表(陶磁器)	43
表14	出土遺物観察表(鉄製品他)	44
表15	出土遺物集計表(鉄製品)	44
表16	出土遺物集計表(銅銭)	44
表17	出土遺物観察表(銅銭)	45
表18	出土遺物集計表(陶磁器他)	47

### 比石館跡内外分布調査

表19	調査区土層観察表	57
表20	調査区土層観察表	58
表21	調査区土層観察表	59
表22	調査区土層観察表	60
表23	遺構土層観察表	61
表24	出土遺物観察表(陶磁器)	61
表25	出土遺物観察表(銅製品他)	61
表26	出土遺物集計表(銅銭)	62
表27	出土遺物観察表(銅銭)	62
表28	出土遺物集計表(鉄製品)	62
表29	遺構土層選別表	63
表30	出土遺物集計表(陶磁器他)	63

### 字向浜地区分布調査

表31	調査区土層観察表	76
表32	調査区土層観察表	77
表33	調査区土層観察表	78
表34	調査区土層観察表	79
表35	遺構土層観察表	80
表36	遺構土層観察表	81
表37	出土遺物観察表(陶磁器)	81
表38	出土遺物観察表(銅製品他)	82
表39	出土遺物集計表(陶磁器他)	82

表40	遺構土層選別表	83
表41	出土遺物集計表(銅銭)	89
表42	出土遺物観察表(銅銭)	89

## 写真図版

PL. 1	洲崎館跡遠景他	
PL. 2	洲崎館跡内外分布調査	遺構及び遺物検出状況
PL. 3	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 4	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 5	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 6	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 7	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 8	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 9	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL.10	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL.11	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL.12	比石館跡遠景他	
PL.13	比石館跡内外分布調査	遺構・遺物検出状況
PL.14	比石館跡内外分布調査	遺構・遺物検出状況
PL.15	比石館跡内外分布調査	遺物出土状況・出土遺物
PL.16	字向浜地区遠景他	
PL.17	字向浜地区分布調査	遺構・遺物検出状況
PL.18	字向浜地区分布調査	出土遺物
PL.19	字向浜地区分布調査	出土遺物
PL.20	字向浜地区分布調査	出土遺物
附図1	洲崎館跡内外分布調査・字向浜地区分布調査	調査区位置図
附図2	比石館跡内外分布調査	調査区位置図及び周辺地形図

## 例 言

1. 本書は平成11・12年度に実施した遺跡周辺分布調査事業の概要をまとめたものである。

2. 発掘調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 上ノ国町教育委員会

教育長 上野秀勝

指導 史跡上之國勝山館跡調査研究専門員

東大名誉教授 石井進

神奈川大学特任教授 網野善彦

東北学院大学教授 榎森進

東北芸術工科大学特任教授 仲野浩

上ノ国町史跡整備検討委員会

東北芸術工科大学名誉教授 仲野浩

東北芸術工科大学 田中哲雄

東北芸術工科大学 宮本長二郎

東北学院大学教授 榎森進

工学院大学教授 渡辺定夫

文化学院講師 鈴木亘

主管 上ノ国町教育委員会文化財課

課長 渡部孝之

主任学芸員 松崎水穂

文化財係長 斉藤邦典

博物館整備係・学芸員 松田輝哉

博物館整備係 笠谷将人

(～平成12年3月31日)

淵田俊一郎

(平成12年4月1日～)

嘱託調査員 三浦英俊

臨時事務補 徳光志保

(～平成12年3月31日)

小林真澄

(平成12年5月1日～)

発掘担当者 斉藤邦典

調査員 三浦英俊

平成11年度 洲崎館跡内外分布調査

作業員 青木千秋、大谷弓子、川村恵司、

笹浪竹志、八田綾子、森恵美子

平成12年度 字向浜地区分布調査 洲崎館跡

内外分布調査 比石館跡内外分布調査

作業員 青木千秋、浅原スミ、板井ユリカ、

大谷弓子、川合冴子、川村恵司、杉山稲

子、八田綾子、森恵美子、森美奈子

3. 本書の編集、執筆は斉藤、三浦が協議の上、次のとおり分担し、文末に担当者名を記した。

・洲崎館跡内外分布調査

Ⅱ-1 調査区、Ⅳ まとめ：斉藤

Ⅰ 調査の概要、Ⅱ 調査、Ⅲ 小括：三浦

・比石館跡内外分布調査

Ⅱ-1 調査区、Ⅳ まとめ：斉藤

Ⅰ 調査の概要、Ⅱ 調査、Ⅲ 小括：三浦

・字向浜地区詳細遺跡分布調査

Ⅱ-1 調査区

Ⅰ 調査の概要、Ⅱ 調査、Ⅲ まとめ：三浦

浦

4. 挿図の作成は担当者、調査員の指示により作業員が行った。

5. 土層の土色は「新盤標準土色帳」（農林水産技術会議事務局）を、遺物の色調名は「標準色彩図表」（日本色彩社）を用い、目測で比定した。

6. 本書に掲載の調査時の写真は斉藤、三浦が、遺物写真は三浦が撮影した。

7. 本書に掲載の各遺跡の調査ならびに本書の作成にあたり、次の関係機関ならびに各位に御指導、御援助賜った。御芳名を記し、厚く感謝申し上げる。文化庁記念物課 加藤真二

榎宜田佳男、佐賀県教育庁文化財課 大橋康

二、青森県立郷土館 大湯卓二、北海道教育

庁文化課 木村尚俊 千葉英一 貫井隆三

高橋優 多田博昭 吉田種榮、北海道埋蔵文

化財センター 熊谷仁志 越田賢一郎 佐

藤和雄 田口尚 田中哲郎 中田祐香 石井

淳平 三浦正人、檜山教育局 中澤幸美、北

海道開拓記念館 山田悟郎 小林幸雄、八戸

市博物館 佐々木浩一 大野亨、市浦村教育

委員会 榎原滋高、南茅部町教育委員会 阿

部千春 福田裕二、乙部町教育委員会 森広

樹 藤田巧、江別市教育委員会 野中一宏

稲垣和幸 佐藤一志、平取町教育委員会 森

岡健治 長田佳宏、上磯町教育委員会 森靖

裕、タナカコンサル 豊原熙司

8. 字向浜地区分布調査、洲崎館跡内外分布調査及び比石館跡内外分布調査の調査の実施にあたり、土地所有者の皆様にも多大な御理解と御

協力を頂戴しました。ご迷惑をおかけしたこ

とをお詫び申し上げ、深く感謝申し上げます。

## 引用参考文献

- 【厚谷家禄】  
「福山秘府 全」『新撰北海道史 第五卷』 1936年 北海道廳  
【上ノ国村史】 1956年 松崎岩穂  
【福山秘府年曆部全（和田本）】 1960年  
【新羅之記録】『新北海道史 第七卷』 1969年 北海道  
【角川日本史事典】 1974年 角川書店  
【松前町史 資料編 第一卷】 1974年 松前町  
【新北海道史 第九卷】 1980年 北海道  
【浪岡城Ⅳ】 1980年 浪岡町教育委員会  
【奥尻青苗遺跡】 1981年 奥尻町教育委員会  
【北海道の研究 第2巻 考古篇Ⅱ】 1984年 清文堂  
【浪岡城Ⅷ】 1984年 浪岡町教育委員会  
【札前】 1985年 松前町教育委員会  
【史跡松前藩戸切地陣屋跡】 1984年 上磯町教育委員会  
【肥前地区古窯跡調査報告書 第2集 百間窯・樋口窯】 1985年 佐賀県立九州陶磁文化館  
【サクシュコトニ川遺跡 本文編、図版編】 1986年 北海道大学埋蔵文化財調査室  
【上ノ国漁港遺跡 -昭和58・60年度発掘調査報告書-】 1987年 上ノ国町教育委員会  
【別冊太陽 古伊万里】 1988年 平凡社  
【大阪城 Ⅲ】 1988年 財団法人大阪市文化財協会  
【史跡福山城Ⅴ～Ⅸ】 1988年～1994年 松前町教育委員会  
【伊万里市文化財調査報告書 第27集 瓶屋窯跡・瓶屋遺跡・餅田窯跡】 1989年 伊万里市教育委員会  
【特別史跡 五稜郭】 1990年 函館市教育委員会  
【肥前の色絵「その始まりと変遷」展】 1991年 佐賀県立九州陶磁文化館  
【夷王山墳墓群 Ⅱ】 1991年 上ノ国町教育委員会  
【佐賀県有田町 谷窯跡の発掘調査】 1992年 有田町教育委員会  
【鍋・釜】 1993年 朝岡康二  
【考古学ライブラリー55 肥前陶磁】 1993年 大橋康二  
【瀬戸市史陶磁史篇四】 1993年 瀬戸市教育委員会  
【美濃窯の焼き物】 1993年 多治見市教育委員会  
【波佐見町文化財調査報告書 第4～9集 波佐見町内古窯跡群調査報告書】 1993～1997年 波佐見町教育委員会  
【よみがえる江戸の華 -くらしのなかのやきもの-】 1994年 佐賀県立九州陶磁文化館  
【日本出土銭総覧】 1996年 兵庫埋蔵調査会  
【名品図録】 1996年 佐賀県立九州陶磁文化館  
【笹浪屋敷遺跡】 1996年 上ノ国町教育委員会  
【柴田コレクション(Ⅵ)】 1998年 佐賀県立九州陶磁文化館  
【北方史史料集成 第4巻】 1998年 北海道出版企画センター  
【出土銭貨の研究】 1999年 鈴木公雄  
【史跡上之國勝山館跡Ⅰ～Ⅺ】 1980年～2000年 上ノ国町教育委員会  
【中世の葬送・墓制】 1991年 水藤真





第1図 遺跡位置図

# 洲崎館跡内外分布調査

## I 調査の概要

### 1. 調査の経過

洲崎館跡は西に日本海をのぞむ砂丘上に位置している。南西に天ノ川が流れ、さらに南西方向、やや南寄りに国指定史跡上之国花沢館跡、やや西寄りに国指定史跡上之国勝山館跡をのぞむ。史跡指定範囲内には砂館神社が建つ。

洲崎館跡は長祿元年（1456年）、道南一帯を巻き込んで起こったコシヤミンの戦いの際に功績のあった客将、武田信広が翌年築いたと伝えられる館跡である。また寛正3年（1462年）、館内に毘沙門天を祀って毘沙門天社が建立されたがこの社は安永7年（1778年）に焼失してしまう。そして翌々年、新たに建立されたのが現在の砂館神社である。

現在のところ古文書などの記録が発見されていないので館内の詳しい様子は不明である。また洲崎館の終末についても記録は残されていないが文明5年（1473年）、勝山館に館神八幡宮が建立され、武田信広もこのころまでには洲崎館から勝山館に移っていたと考えられる。同じころまでには館としての機能を失っていたと考えられる。

現在は砂館神社を中心にして防風林が植えられている。昭和36年には砂館神社西側の砂丘の町道北村～向浜線にほど近い地点で開元通宝（初鑄年621年）から永樂通宝（初鑄年1408年）までの約2500枚の銅銭が町民によって発見されている。また同じ砂丘からは青磁、白磁などの中世陶磁器の破片が折に触れて採集されている。昭和54年には砂館神社の東側のほど近い砂丘で耕作中に珠洲V～VI期に比定されると考えられるすり鉢を被った人頭骨が発見されるなど洲崎館跡の存在を伺わせる証拠がいくつか発見されている。

今回の分布調査ではトレンチとテストピットによる発掘調査を行い過去に得られた資料と併せて洲崎館の存在と実像を確かめるのが目的である。

### 2. 調査の方法

遺跡内の任意の箇所に幅1～2mのトレンチか一辺が1～2mのテストピットを設定し、検出した遺構、遺物の状況に応じて調査区を拡大した。調査区名は調査に着手した順に第1調査区、第2

調査区...とした。可能なかぎり掘り下げを行い、土層の堆積状況や遺構の調査状況などを実測、写真によって記録した。遺構の覆土についてはできるだけ全量採取し、後日フローテーションを行って目視により選別した。遺物はI層のものは一括して取り上げ、II層以下のものについては平板によって記録し、取り上げた。

### 3. 調査の経過

平成11年7月9日 北村コミュニティセンター裏から調査開始

平成11年8月17日 海岸方面に移動する。

平成11年8月30日 砂館神社西側の砂丘へ移動する。20～22区で白磁などが出土する。

平成11年9月10日 砂館神社境内に移動する。

平成11年10月6日 第50調査区にて竪穴建物跡を検出するが、残された調査期間が少ないのでそのまま埋め戻す。

平成11年10月26日 平成11年度分の調査を終了する。

平成12年7月6日 調査再開。第50調査区竪穴建物跡を再度検出する。

平成12年7月19日 竪穴建物跡調査終了

平成12年8月22日 比石館跡分布調査のためいったん調査を中断する。

平成12年10月4日 調査再開

平成12年11月2日 調査終了

### 4. 基本層序

I層 表土層

II層 7.5YR3/2黒褐色 シルト～細砂 駒ヶ岳D火山灰（Ko-d）を含む層 江戸時代

III層 7.5YR3/1黒褐色 シルト～細砂 中世

IV層 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 中世

V層 7.5YR3/1黒褐色 シルト 白頭山苦小牧火山灰（B-Tm）を含む層 擦文時代

VI層 10YR1.7/1 黒色 シルト

VII層 10YR2/2 黒褐色 シルト

VIII層 7.5YR2/2 黒褐色 シルト～細砂

IX層 10YR2/1 黒色 シルト～細砂

X層 ハードローム

（三浦英俊）



第2図 洲崎館跡内外分布調査 調査区位置図

## II 調査

昨年度から今年度にかけて、洲崎館跡の構造及びその広がりを解明するべく史跡指定範囲内外の分布調査を行った。

### 1. 調査区

#### 第1～3調査区（第2図、附図1）

砂館神社の東側に隣接する標高14.9m幅6mの長さ30mの土塁状の地形がある。この地形が人工的であるかの確認を行うため設定した。このうち第2調査区は土塁状の地形の頂部から南側へ鉤型に土塁を横断する形で1.5m×17mの調査区を設定した。

#### 第2調査区SPA～A' 土層堆積（第2、3図）

土層観察から、基本的にはI～IV層までの自然の堆積をなしており、特に土塁構築等の人為的な痕跡は見られなかった。また土塁頂部においても杭状の掘りこみ等も検出されなかった。

また6m南側の平坦部の広がる第3調査区においてはKo-d等の堆積も見られず、近現代において攪乱されている状態であった。

#### 第4～8調査区（第2～4図、附図1）

砂館神社北東側の標高8m～9mのほぼ平坦部にあたり、西側の海側には東西に標高約14mの砂丘が東側にのびている。この地区は、この両方の砂丘に挟まれた形となっており、西側及び南北からの風は皆無の状態である。またこの平坦部中央部分の道が、これらの砂丘の間を通過して西側の海浜へ伸びており、調査前にはこれらの砂丘が館の主体部の一部分だとすると、この低い部分であるこの地区は空壕の可能性があるとして指摘されてきた箇所である。このためこれら第4～8調査区は空壕の確認を第1の目的とした。

#### 第4調査区（第4図）

海岸へ至る道に長軸を直交する形で、道よりもやや南側に約13m×1.4mの調査区を設定した。土層観察から基本的にはI～IV層までの自然堆積をなしており、中央部がやや窪み形状を呈し、Ko-dの純層も見られるが、明確な掘りこみは見られず、単なる浅い沢地状であった。近代以降の遺物のみ出土した。

#### 第7調査区SPA～A'（第3図）

第4調査区より50m東側で、海岸へ至る道よりもやや北側の箇所。調査の結果、窪地状となってお

らず、ほぼ平坦であった。またIV層（砂層）の発達が余りなく、下部のIX層まで掘り下げたところVII層面に若干の浅いピット、溝状のものが見つかった。面的には縄文時代にあたる。

#### 第8調査区（第4図）

第4、7調査区にて空壕状掘りこみが確認できなかったため、やや東側の地点に1.5m×13mほどの調査区を設定した。I層にて肥前系、唐津の近世陶磁器が廃棄されていた。近代の陶磁器はその10倍ほど廃棄されており、近代においてはこの浅い沢地がごみ廃棄場所であったと考えられる。またKo-dから下部の層は自然堆積であった。

#### 第9調査区（第3図、第2図、附図1）

北村コミュニティセンター裏手の平坦部であるが、V層の上面まで近現代の土が入っており、Ko-dも見られなかった。

#### 第10～13調査区（第2図～第4図、附図1）

史跡指定範囲最北端の海浜に面した砂丘上、及び西側の海浜のそばを平行に走っている町道脇の平坦部である。

#### 第10、11調査区（第3図）

海側の11区では町道脇のためI層最上面が礫等で堅く盛土されており下部の層もやや堅くしまっていたが、10区と同様II層以下は自然の堆積であり、Ko-dも確認できた。遺構、遺物は検出されなかった。

#### 第13区（第4図）

砂丘上である。I、II層面がかなり土が動かされており、砂丘上に現代において防風林が一面に植林されており、これによる土の移動があったと考えられる。

#### 第15～19区（第4図、第2図、附図1）

砂館神社西側の砂丘下の平坦部である。これらの地区では1m×1mの調査区を設定。遺構、遺物とも確認できなかった。17区はII、III層が削平されており、当初はこの砂丘に続く緩斜面であったと考えられる。19区では削平等もなくII、III層が堆積していたが遺構、遺物なし。

#### 第14、第20～30調査区（第4～5図、附図1）

これらの調査区は砂館神社の西側、標高約14mの砂丘地帯に設定した。尚、この砂丘の南側の民家の裏から昭和36年に北宋銭、明銭が2500枚発見

されており、この砂丘上に遺構、遺物の存在が想定された。

#### 第14調査区（第4図、附図1）

砂丘上の西端部であり、海、川に対しての見晴らしが良い箇所であり、見張り場的な遺構の存在を予想したが遺構、遺物とも確認出来なかった。

#### 第20～30調査区（第2図、第4図、第5図、附図1）

第20～30調査区を設定した箇所は防風林が極めて密のため、1m×1mの調査区にせざるを得なかった。

#### 第20調査区（第4図）

Ⅲ層～Ⅳ層上面に集中して15世紀代の青磁、白磁のほか茶白、骨角器の中柄、遺構では焼土が検出された。骨角器は9点出土しており、中柄が主体であるが、うち1点は破片であるが、（第21図130）先端部に刻みが入るものもある。

第22区についてもⅢ層から白磁、珠洲播鉢が検出された。その他26、28区についても中世の遺物は出土している。しかしこれらの地区では明確な柱穴等の遺構は確認できなかった。

#### 第31～37調査区（第5図、第2図、附図1）

この地区は砂館神社北側後方部の標高14mの砂丘一帯である。ここはほぼ史跡指定範囲の中央部の砂丘にあたり、遺構の存在が想定された。

この地区は第20～30調査区設定箇所と同様防風林が極めて密のため1m×1mの調査区にせざるを得なかった。

#### 第31調査区（第5図）

2つの砂丘の間になっており、第4、8、7調査区の付近の海へ抜ける道の延長部分となり、空壕の存在を予想したが、検出されなかった。

#### 第33、35、36調査区（第5図）

これらの調査区は砂丘頂部にあたる。土層堆積によると、Ⅰ層からⅣ層までの基本的な土層堆積であり、削平されている様子もないが、遺構、遺物とも確認されなかった。

#### 第38、41、42調査区（第5図、第2図、附図1）

砂館神社境内である。38区の砂館神社付近は削平されている。42区では近現代の削平を受けておらず、Ⅲ層面での柱穴も確認されている。

#### 第52調査区（第9～10図、第2図、附図1）

砂館神社南側の町道を挟んだ畑地である。ここは従来から中世の青磁等がよく表面採取されているところであり、遺構の存在が想定された。

当初約20m×1.4mの鉤の手状の調査区を設定したが、擦文期堅穴が発見されたため、調査区をさらに南に拡張した。

Ⅱ層近世面では、溝1、柱穴、小ピットが十数基検出されている。溝は幅50cm、深さ50cmの規模であり、内部に小ピットを持ついわゆる布掘といわれているものである。分布状況を見ると、溝と柱穴が重複関係にあり、最低2時期が想定される。Ⅲ層面からは土壌、焼土、柱穴が散見されている。Ⅳ層面は柱穴（P21～28）、炭化物集積範囲が見られ、Ⅴ層には柱穴（P18～20）、擦文期堅穴が見られる。土層堆積図によるとこの地区のⅣ層の堆積はこの地区では西側へ行くほど厚くなる一方、北側へ行くほど薄くなりP18～20付近では殆ど見られない。遺物はⅤ、Ⅵ層、擦文期堅穴覆土を中心として擦文土器、Ⅰ層から中世青磁、近世肥前系、唐津等が検出されている。堅穴建物跡（第10図）は規模は2.4m×2.6m、深さ60cmの隅丸方形。中央部に炭化物が約3cmの厚さで堆積する。覆土全体は基本的にはシルトと白色粘土ブロックの混層であり、強くしまっており、埋め戻されている。

#### 第54、60調査区（第5図、第2図、附図1）

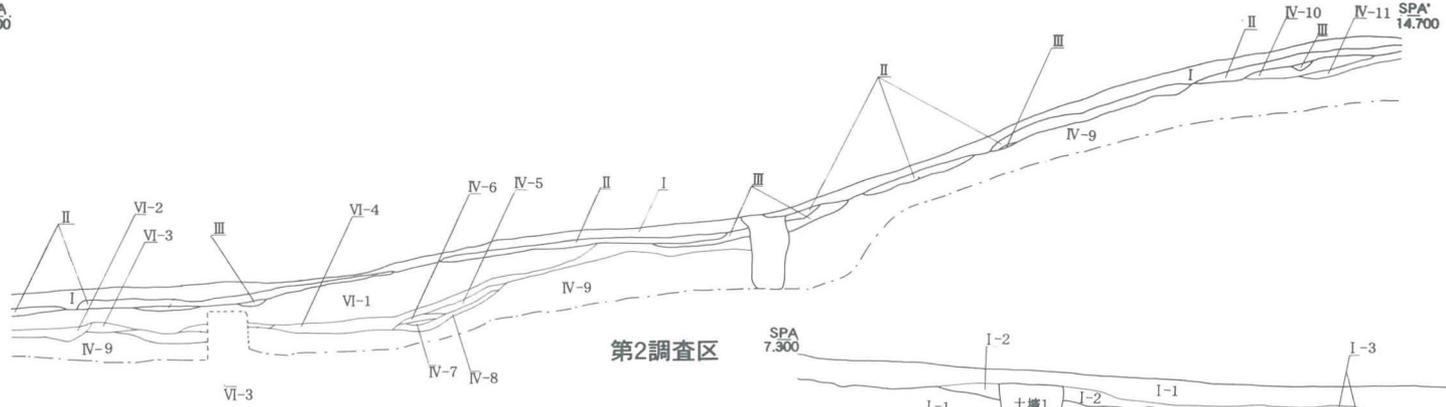
54区は珠洲播鉢が被せられた頭骨が発見された畑の10m程西側の一段高くなった箇所である。遺構、遺物とも検出されず。60区は17区の南西側60mの地点の畑地である。削平等もあまり受けていない箇所であるが、遺構、遺物とも検出されず。

#### 第55、56調査区（第8図、第2図、附図1）

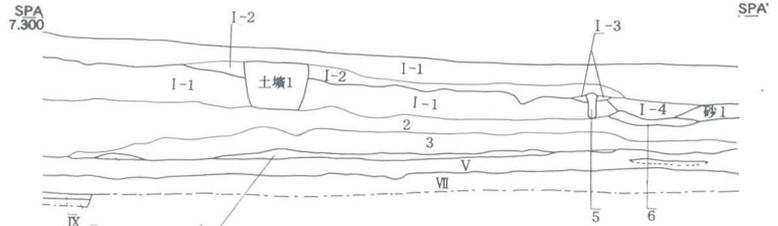
12m×1.3mの調査区を設定した。

史跡指定範囲より外側である。遺物は中世の青磁、白磁、青花、古瀬戸十数点のほか擦文土器13点、中心となるのは近世の唐津、肥前系で百数十点の出土がある。土層はかなりの削平を受けており、中間層であるⅡ～Ⅳ層が存在しなかった。そのため柱穴が検出されたが、すべて掘りこみ面不明である。尚図示していないが、調査区西端部において覆土直上にKo-dが堆積する堅穴状遺構を確認したが、激しい湧水のため調査不能であった。次年度調査予定。56区についてはⅡ層面でKo-dが30cm～40cm程の厚さで堆積していた。そのさらに下部を調査しようとしたが激しい湧水のため調査不能であった。次年度調査予定。出土遺物も55区と同様の傾向を示し、近世唐津、肥前系が多かった。その他土師器や須恵器、擦文土器も出土して

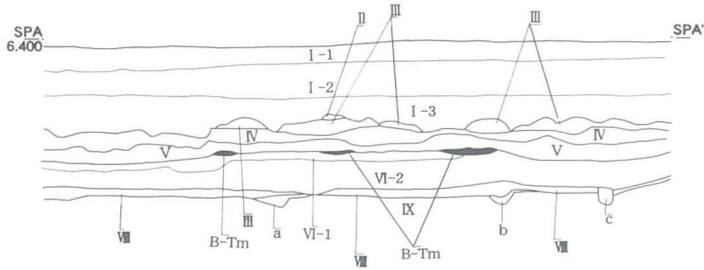
SPA  
14.700



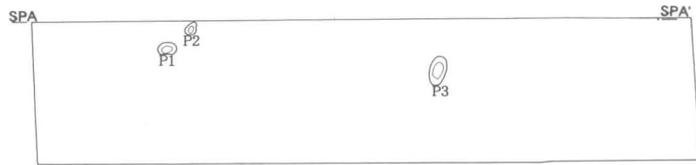
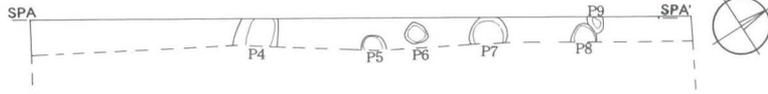
第2調査区



第9調査区



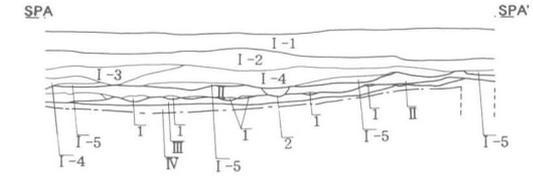
第7層遺構配置図



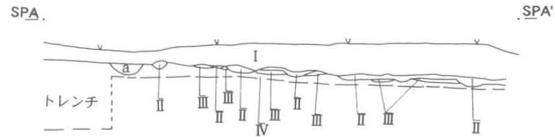
第7調査区

第6層遺構配置図

第3図 調査区土層堆積図他



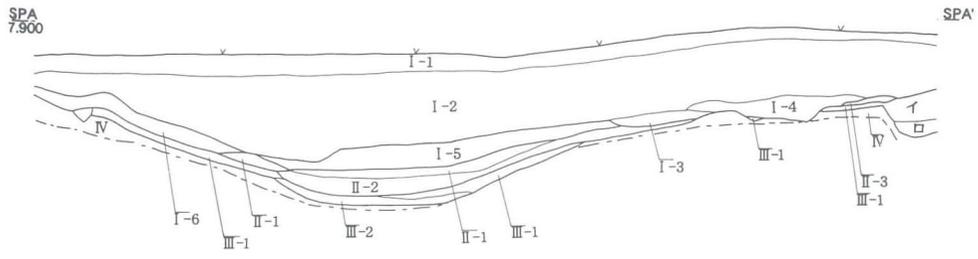
第10調査区



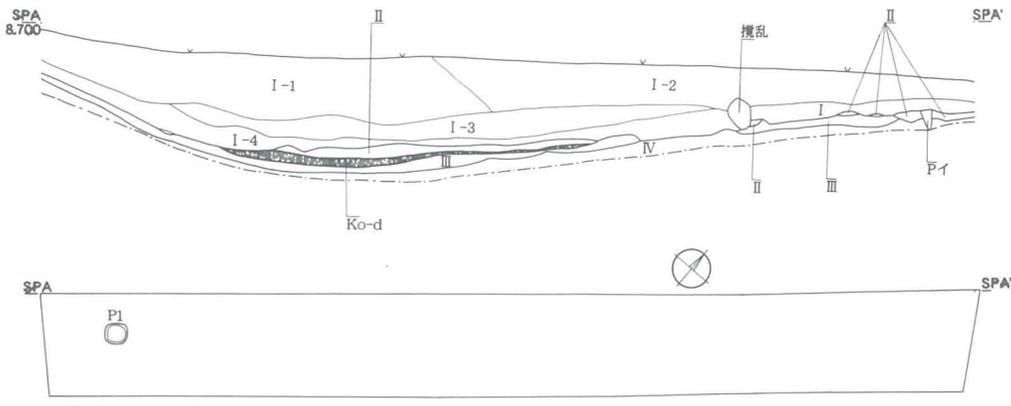
第11調査区

凡例  
■ B-Tm





第4調査区

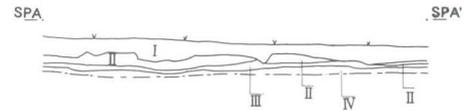


第8調査区

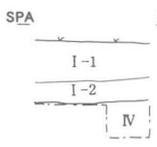
遺構配置図



第13調査区



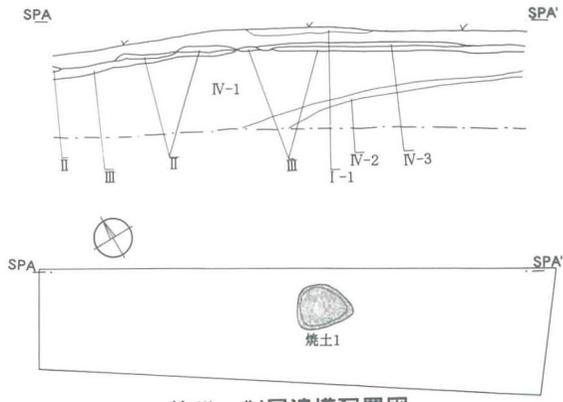
第14調査区



第17調査区

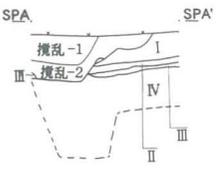


第19調査区



第Ⅲ、Ⅳ層遺構配置図

第20調査区



第21調査区



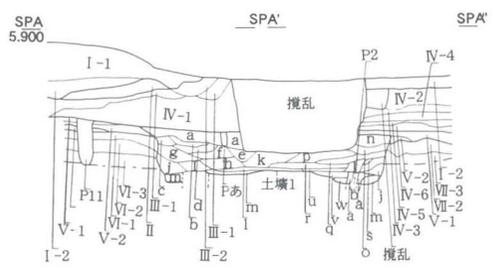
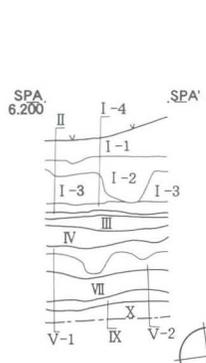
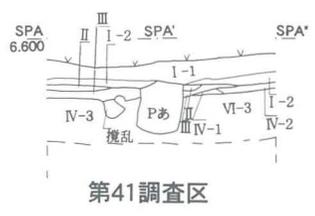
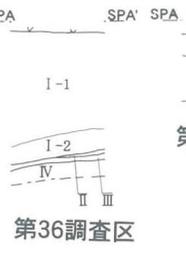
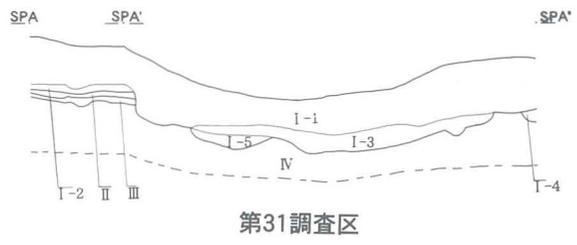
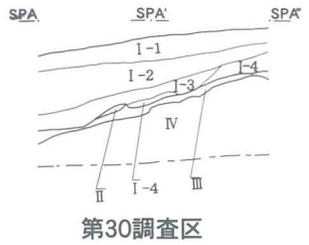
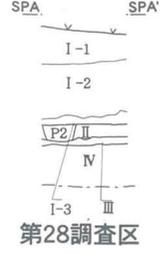
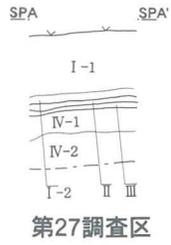
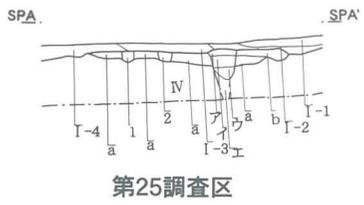
第22調査区

第4図 調査区土層堆積図他

凡例  

 焼土・炭化物  
 Ko-d

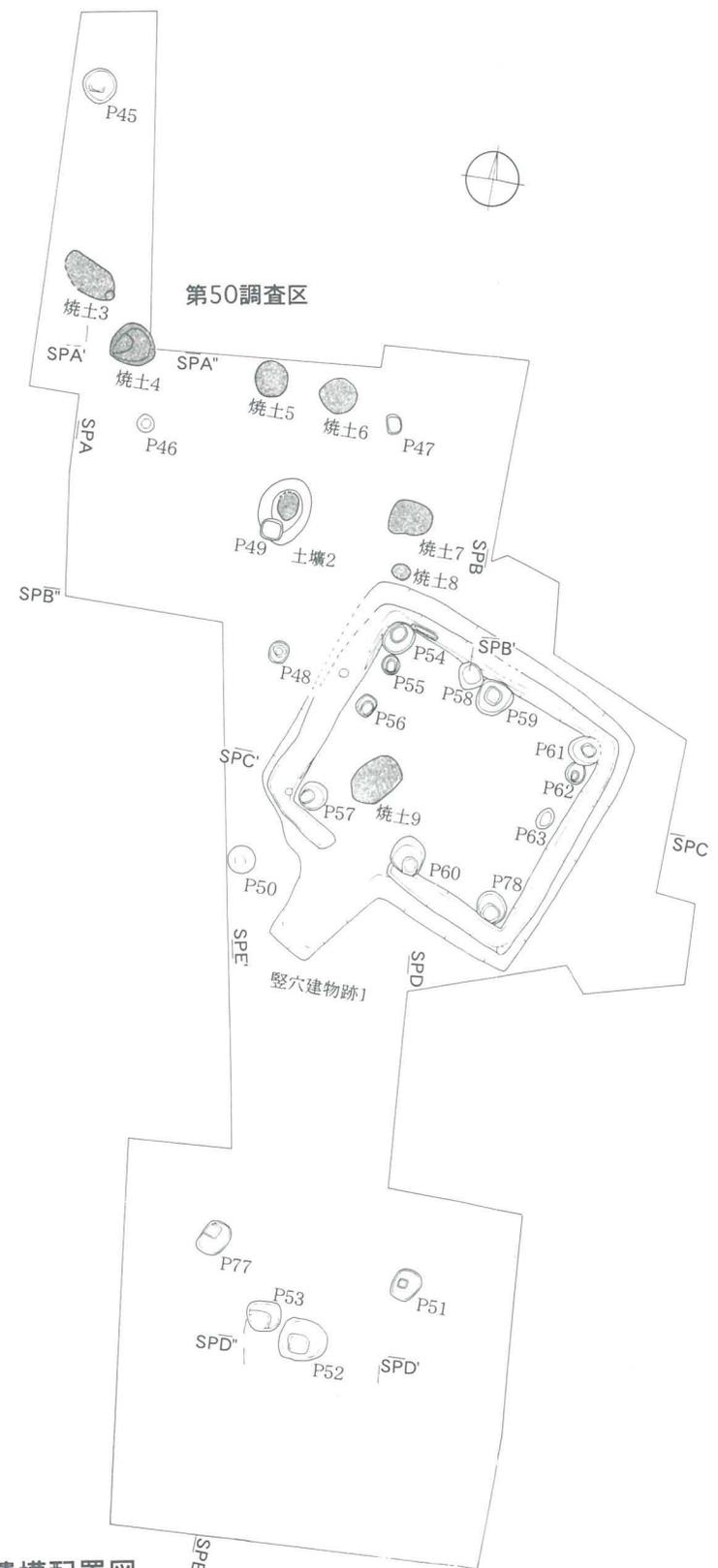
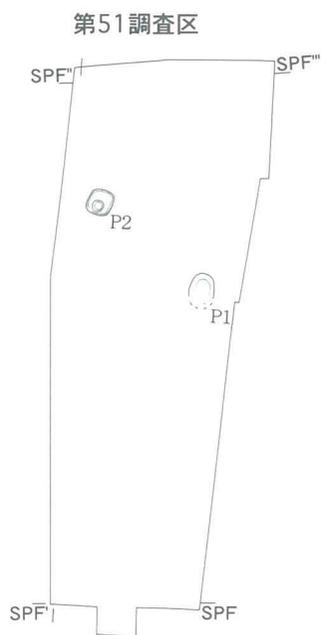
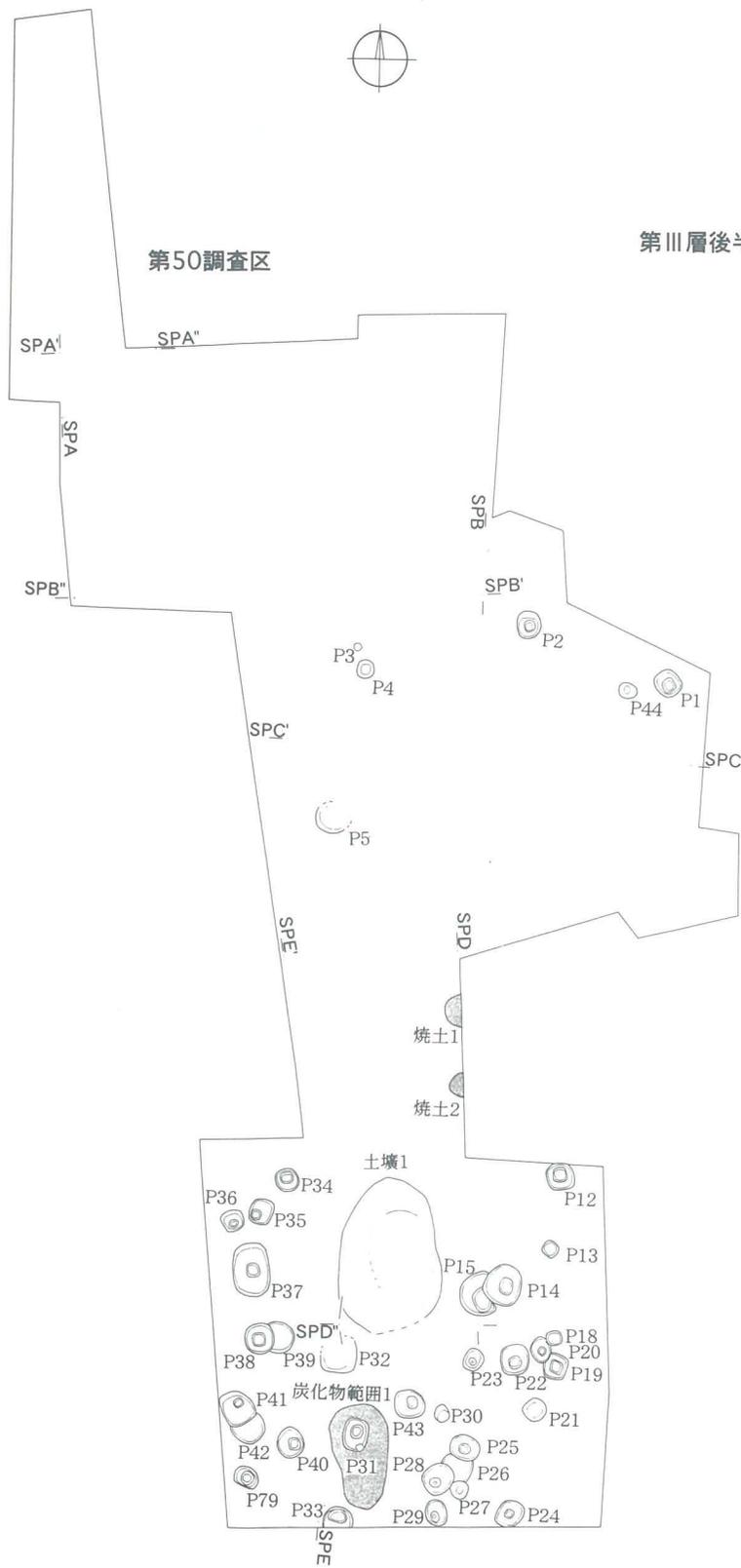




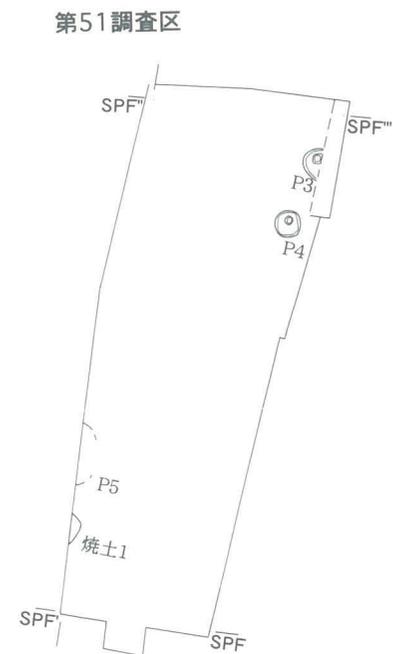
凡例

第5図 調査区土層堆積図他

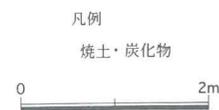


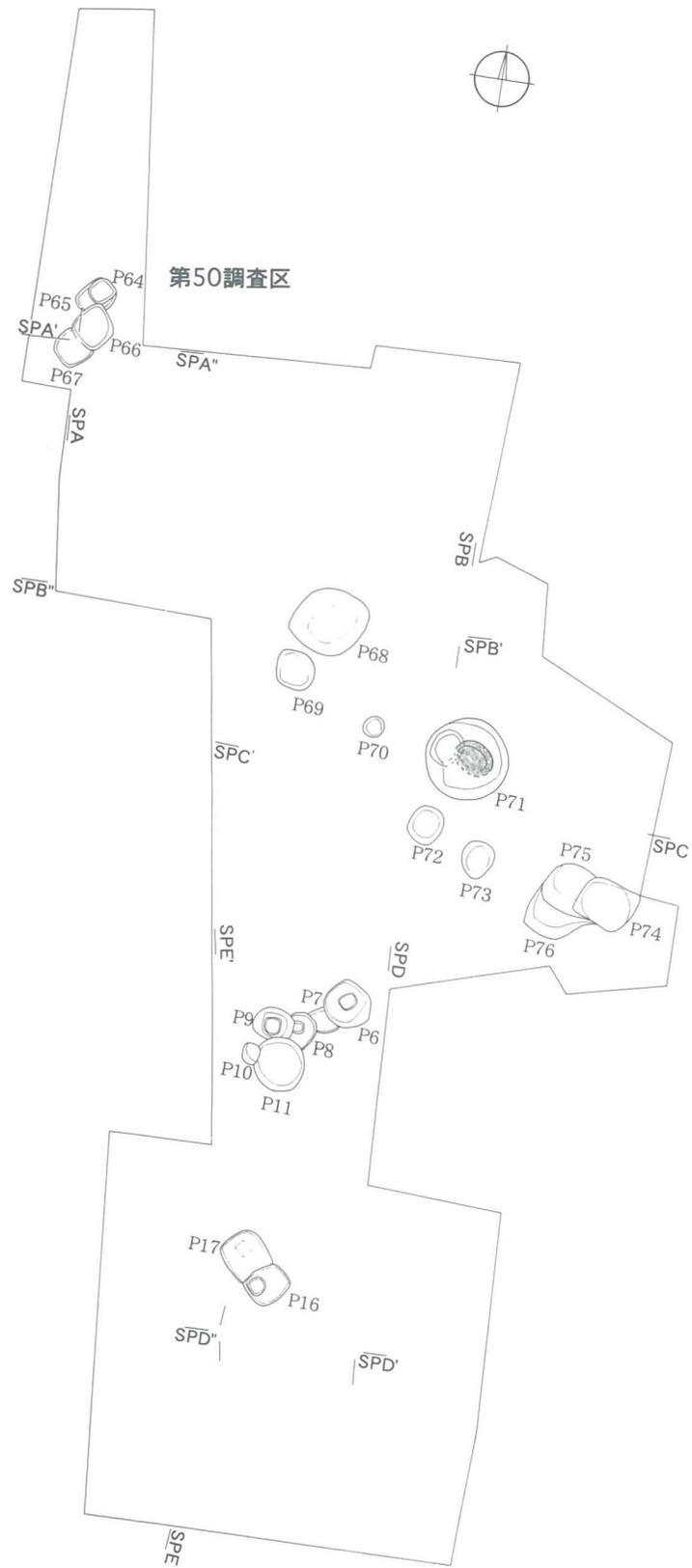


第III層前半期遺構配置図

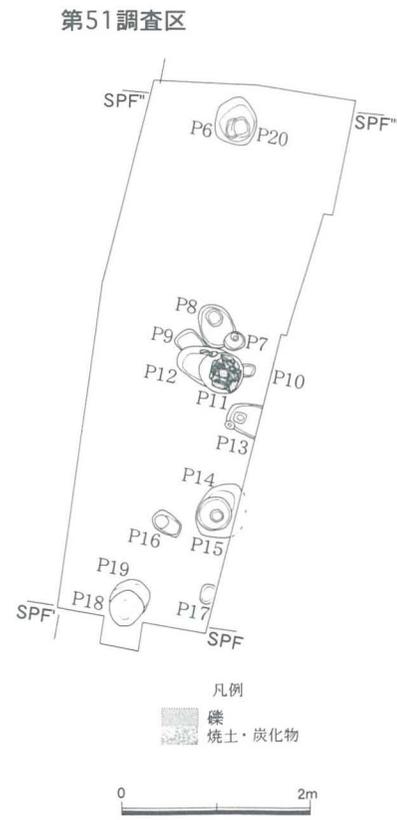


第6図 第50調査区及び第51調査区 遺構配置図

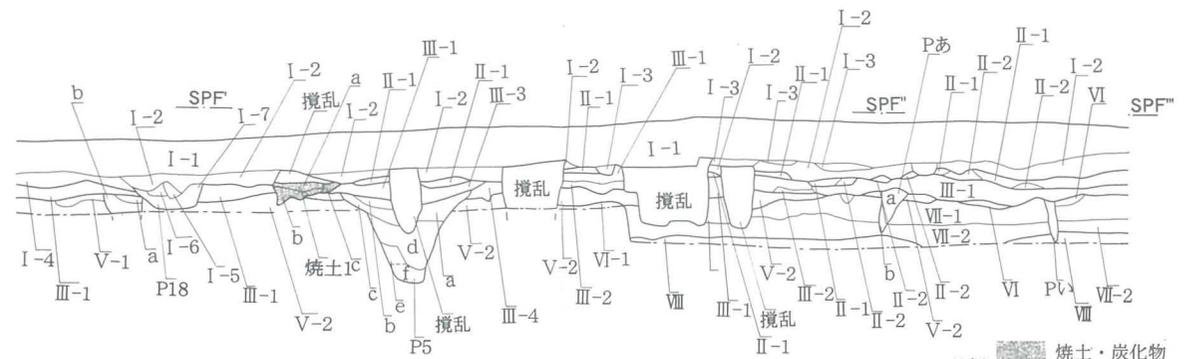
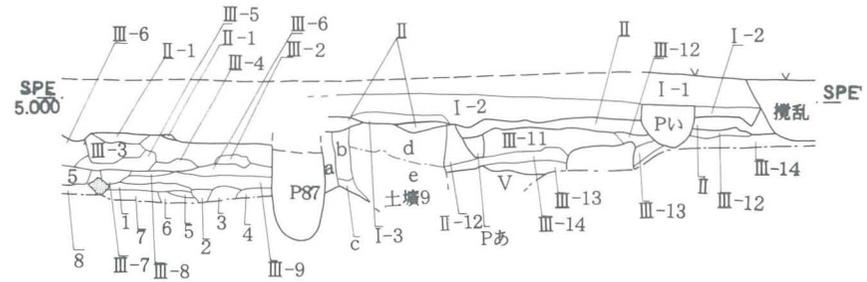
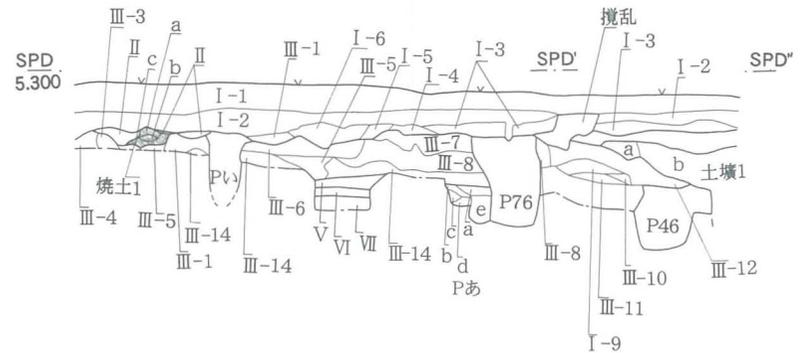
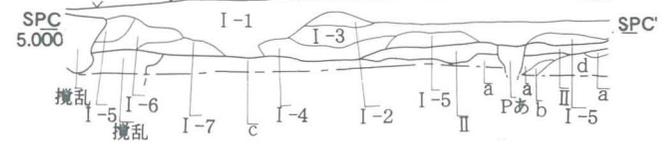
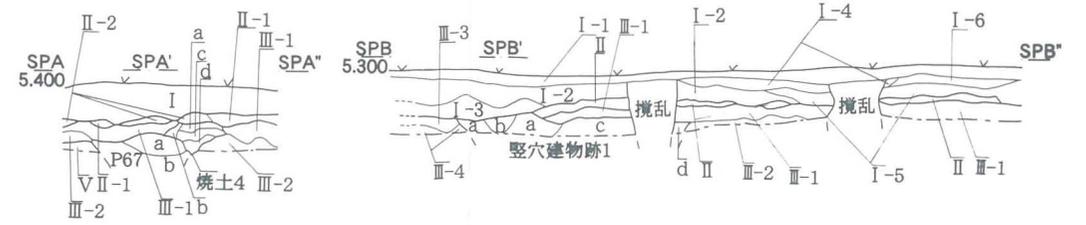


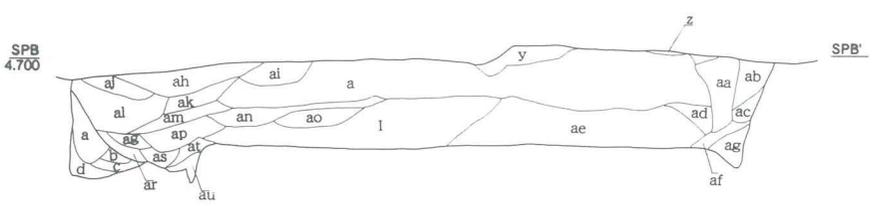
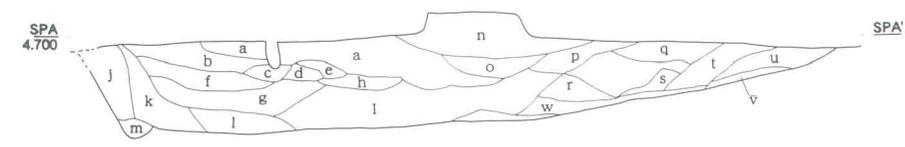
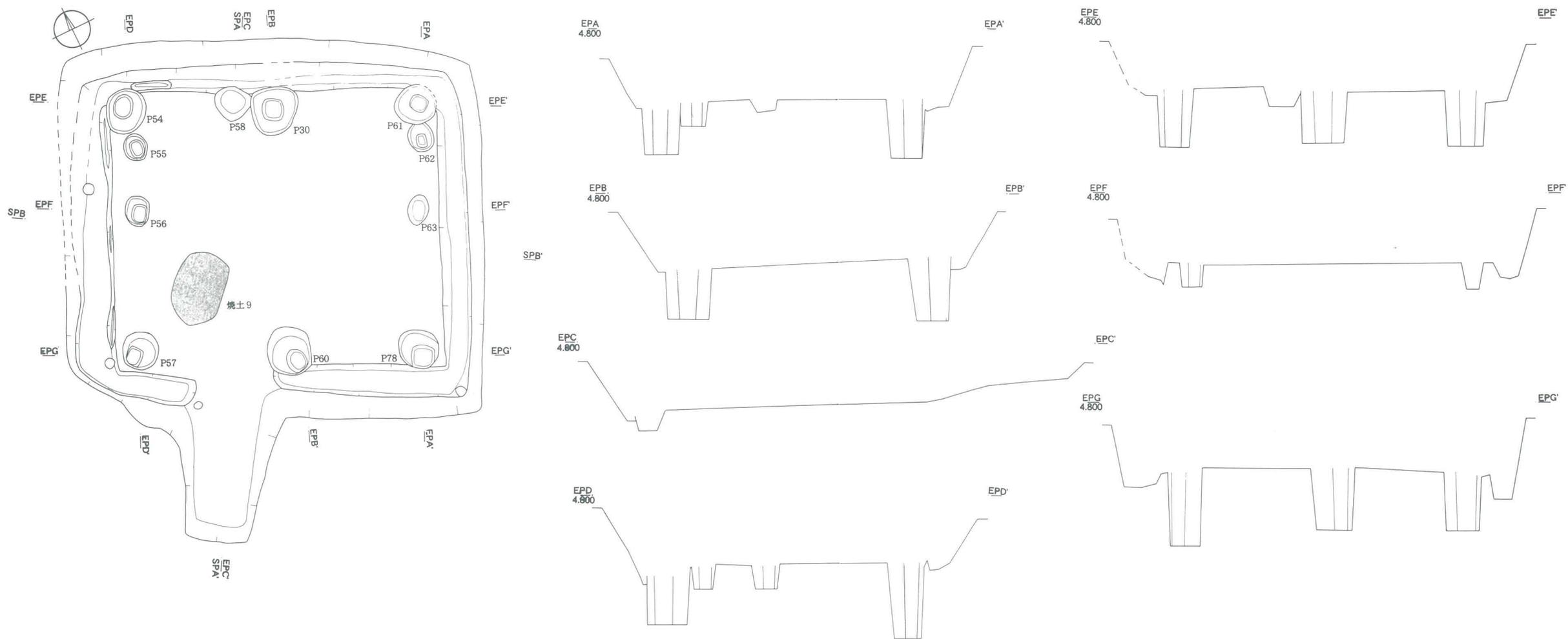


第IV層遺構配置図

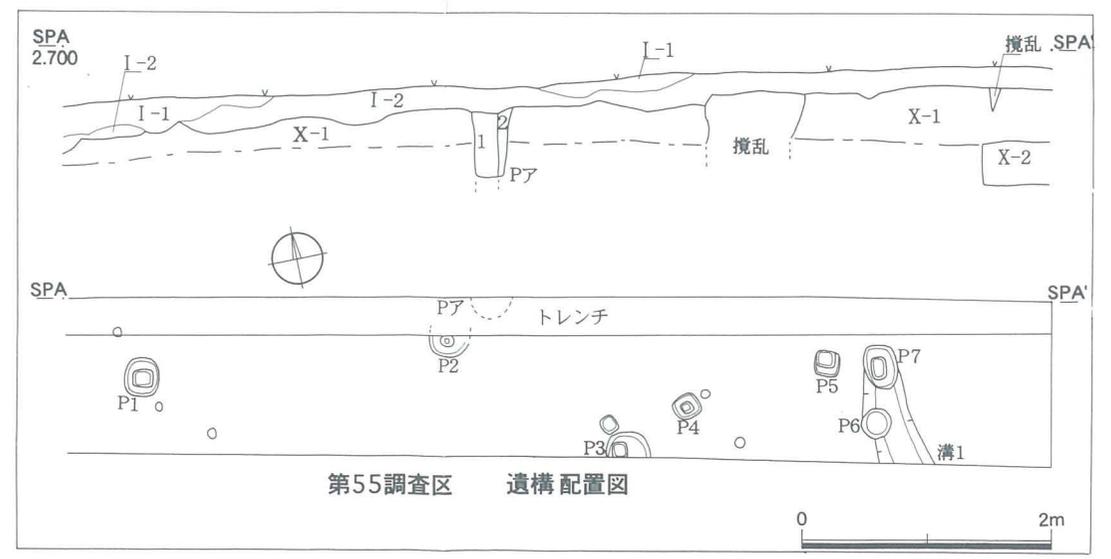


第7図 第50調査区及び第51調査区 遺構配置図他

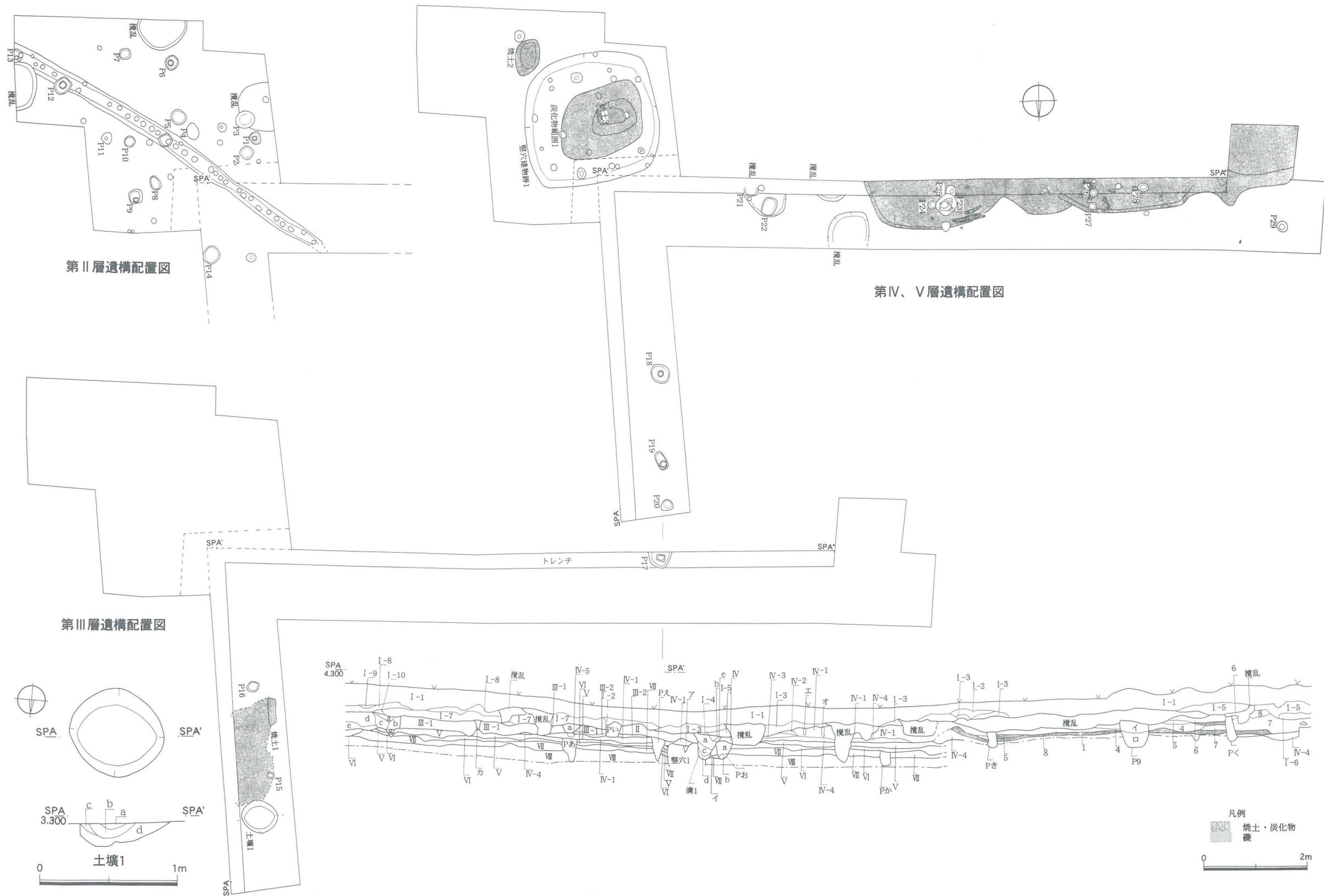




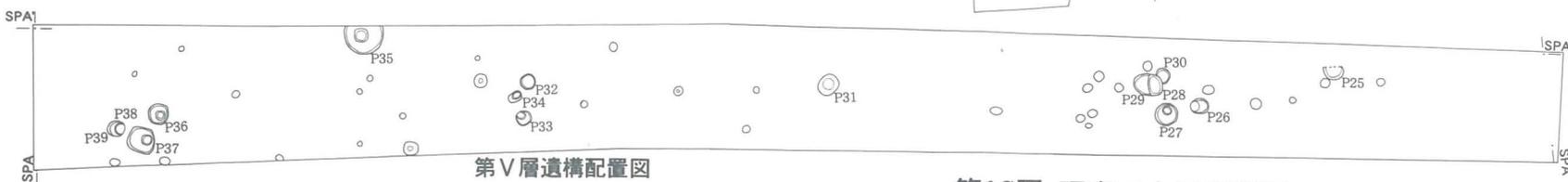
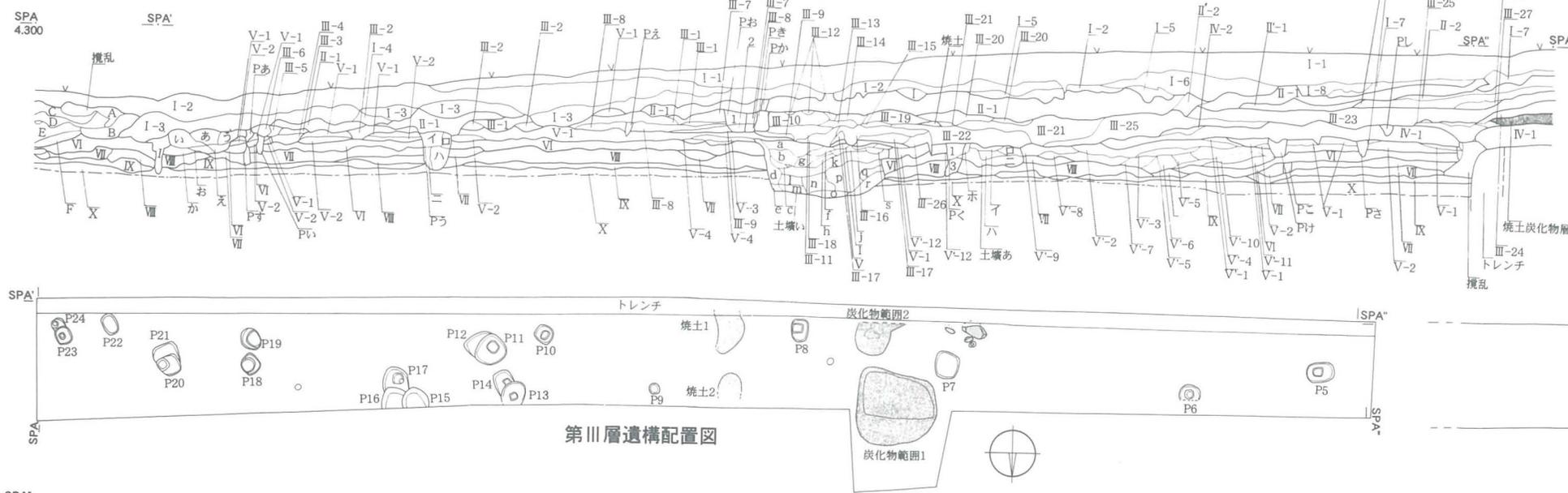
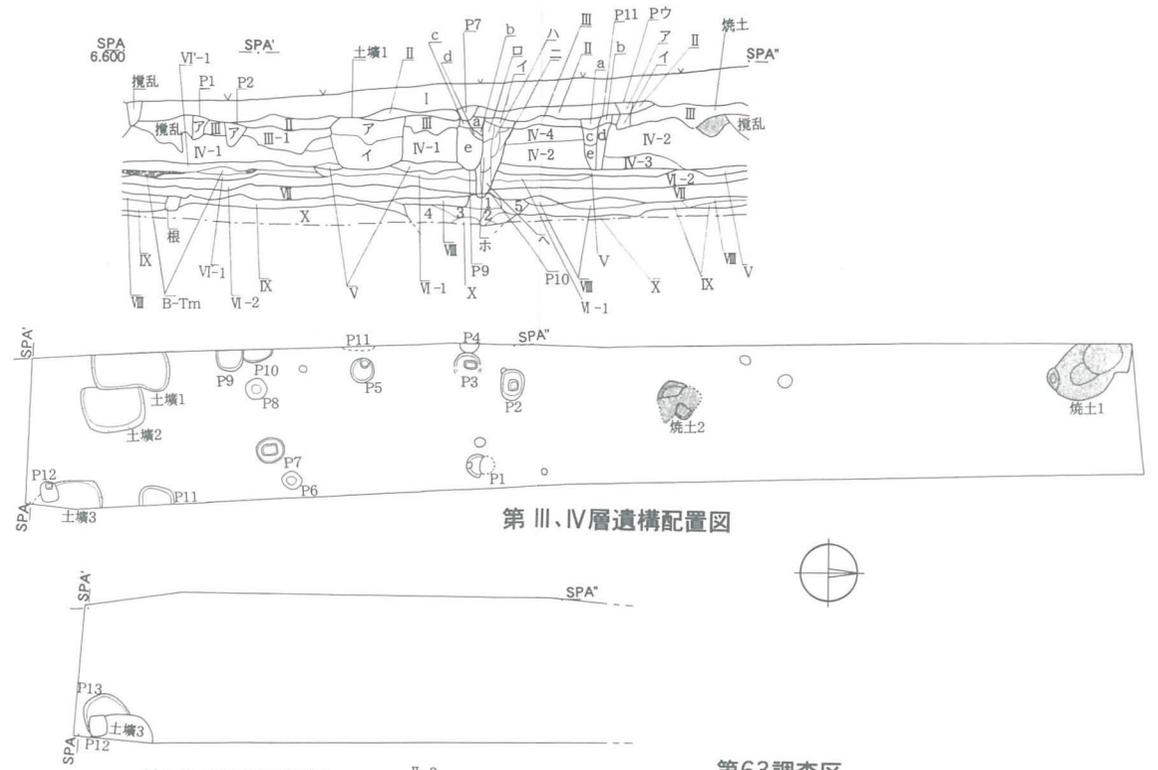
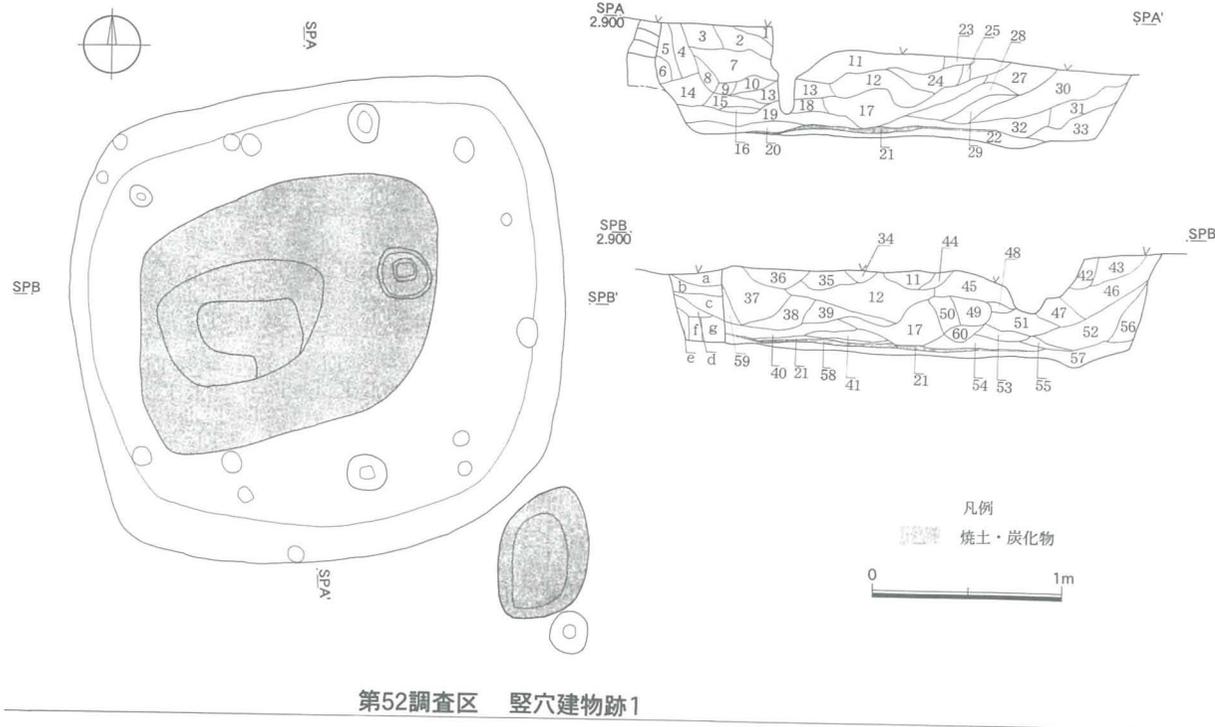
凡例  
 焼土・炭化物

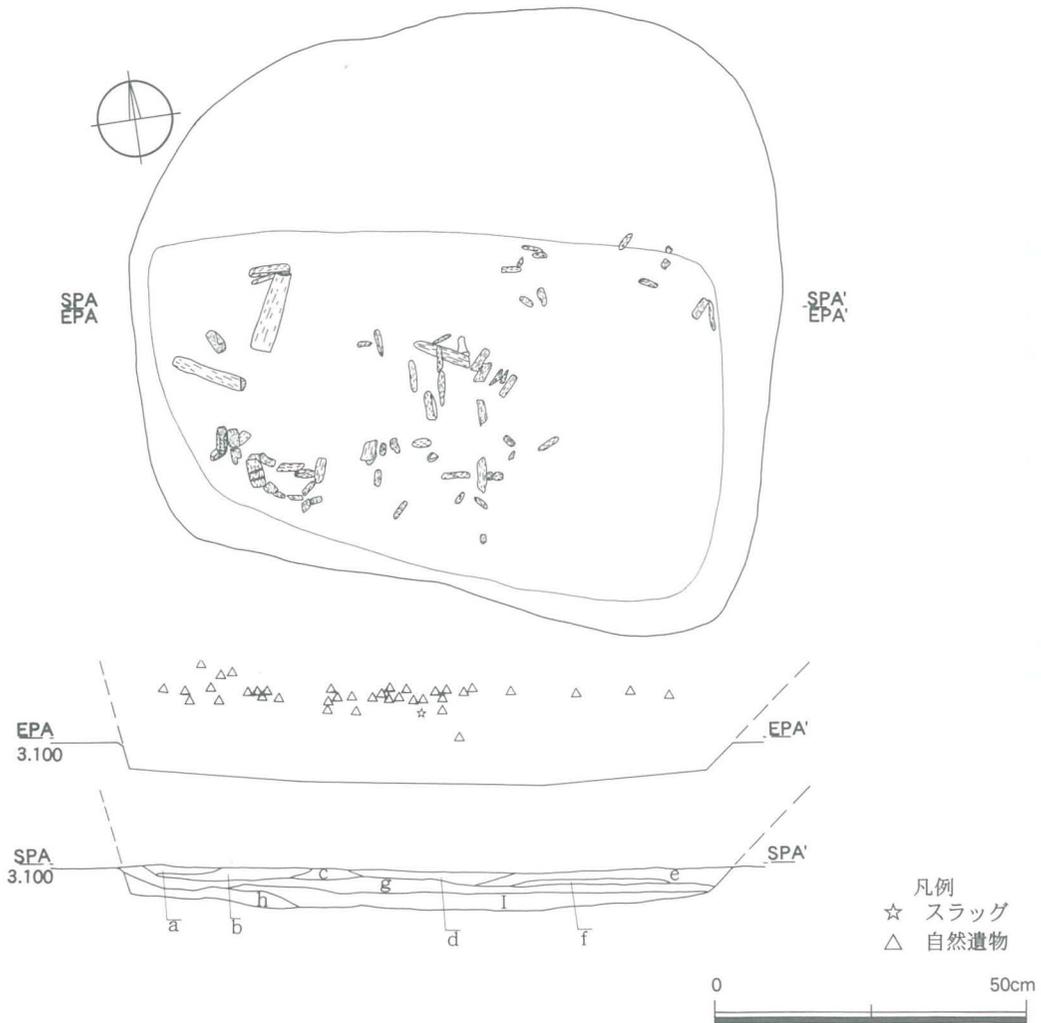


第8図 第50調査区 竪穴建物跡平面図他



第9図 第52調査区遺構配置図他





第11図 第57調査区 炭化物範囲1平面図他

いる。

第57調査区 (第10図、第2図、附図1)

第52調査区に隣接して南側に1.4m×17.4mのトレンチを設定。調査の結果Ⅱ層からは溝、柱穴、Ⅲ層面から柱穴、焼土、炭化物範囲、Ⅴ層面からは柱穴、小ピット群が確認される。尚Ⅴ層では小ピットが主体をなしている。土層堆積図によるとSPA'付近は現代の攪乱が激しい。徐々にSPA"方向へ行くと第52調査区同様Ⅳ層の砂層の堆積が多くなる。またⅢ層も徐々に砂の含有比率が高くなる。SPA'～SPA"の中間部にはⅤ層掘りこみ(覆土a～r)の擦文期の幅1.5m、深さ約70cmの遺構が確認されている。

覆土は黒～黒褐のシルトと白色のロームプロッ

クの混層であり、中間部にややソフトな層が存在するが、全体にハードであり、埋め戻しの状況である。またこの遺構からさらにSPA"方向へ行くと、Ⅴ層の乱れが(Ⅴ'層)あり、土壌(覆土イ～ホ)Pこ、さも確認されている。尚B-Tm包含層はⅤ-2層に堆積する。遺物はⅠ、Ⅱ層の肥前、唐津、Ⅲ層中心の珠洲播鉢、青磁、Ⅴ層から擦文土器のほか底部に回転糸切を有する土師器や内黒の土師器が検出されている。

炭化物範囲1 (第11図)

焼土、炭化物、被熱した獣骨片を含む範囲である。獣骨片の中には数点加工痕のあるものあり。土層堆積は自然埋没の状況を示しているが、最下部覆土のiが焼土層、hが炭化物混じりの焼土層

中間部の c、e が焼土層、d が炭化物混じりの焼土層であり、b には焼骨が多量に含まれている。また平面図で図示した獣骨片は残存している覆土の土層堆積図のさらに上の覆土であり、すべて被熱している。したがってこの場所では常時火が使用されたと考えられる。

#### 第63調査区（第10図、第2図、附図）

人骨出土地点の南側の箇所<sup>1</sup>に1.5m×11.6mの調査区を設定した。その結果Ⅲ、Ⅳ層面から柱穴、土壌、焼土、Ⅴ層面から若干の土壌、柱穴が検出された。この地区は緩斜面状となっており、Ⅳ層である砂が比較的発達している箇所である。土層堆積図で見ると、柱穴はすべてⅢ層掘りこみとなっている。遺構平面図ではⅢ、Ⅳ層面となっているが、実質的にはⅢ層が殆どである。遺構はⅣ層が徐々に薄くなる調査区内南半に集中する傾向がある。遺物は青磁、珠洲播鉢、近世では肥前系、唐津を中心に出土している。（斉藤邦典）

第48調査区（第5図）砂館神社正面、鳥居脇に設定した調査区である。砂館神社への参道がすぐ西側を通っており、本調査区も参道に伴うものと思われる攪乱を受けている。

本調査区ではB-Tmよりも上、Ko-dよりも下の層から大型の土壌のような遺構を検出した。しかし調査区を拡張できる範囲に限りがあったので遺構全体を検出することができなかった。なおⅣ層から出土した古瀬戸の縁釉小皿が第50調査区で出土したものと接合している。

(1) 土壌 1 深さ40cmの土壌状の遺構である。遺構底面に焼土層と炭化物を検出した。壁際に溝が巡っている模様であり、竪穴建物跡である可能性が高いが遺構の大部分がコンクリート製の参道の下にあり詳しいことは不明である。出土遺物は炭化物のみで、円形のもの<sup>2</sup>と棒状のものが出土した。第50調査区、第51調査区（第6図～第7図）昨年度からの調査でKo-dの下から14世紀台から15世紀までの遺物を伴った遺構群を検出した。正確には時期区分はしきれていないが便宜上検出した層

位にしたがって3時期に区分けした。

Ⅳ層では比較的大型の掘り型を持つ柱穴群を検出した。柱痕を残すもの、残さないものが見られる。第51調査区のP11では根石と考えられるこぶし大の礫をつめていた。

第Ⅲ層前半期では竪穴建物跡1基と焼土範囲を7ヶ所検出した。

第Ⅲ層後半期では地区の南側で柱穴群を検出した。

いずれの層位においても明確な建物跡を検出できなかった。遺物は青磁の端反碗、第Ⅳ期から第Ⅵ期に属すると考えられるすり鉢、甕、古瀬戸の縁釉小皿、銅銭などが出土している。

なお、さらに下層から擦文土器が一括で出土している。これらの遺構、遺物については来年度刊行予定の報告書にて報告したい。

(1) 竪穴建物跡 1（第8図）第Ⅲ層前半期に属する遺構である。南北に3.1m、東西に3.4mの大きさで南側に長さ1.1mの張り出しを持つ。遺構壁面にそって溝が巡り、西側の溝の中にはさらに小さな溝が走る。建物内部やや南西寄り、張り出しの正面に焼土範囲を検出した。四隅の柱穴は掘り方の床面と同じレベルでハードルームブロックを用いて『蓋』をしている。

また建物のほぼ中央と西壁に竪穴建物が建つ前に存在していたⅣ層に属すると考えられる柱穴を検出した。この柱穴も四隅の柱穴と同様に竪穴建物跡の床面と同じレベルで床面と同じハードルームを用いて『蓋』をしていた。竪穴建物跡はハードルームまで掘り抜いて作っており、竪穴建物を建てたときに黒色土がはいる柱穴跡をハードルームで塞いだと考えられる。

出土遺物は青磁の端反碗、古瀬戸の鉢、珠洲のすり鉢と銅銭、擦文土器片である。

床面直上で出土した遺物はなく、また遺構覆土中にルームブロックが多く含まれることなどから人為的に埋め戻されたものと考えられる。

（三浦英俊）

表1 調査区土層観察表

第2調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')

I	10YR3/2	黒褐	シルト 小礫少量	ソフト
II	10YR2/2	黒褐	シルト Ko-dブロック多量	ソフト
III	10YR2/1	黒	極細砂	ソフト
IV-1	10YR2/3	黒褐	極細砂 C微量	ソフト
IV-2	10YR2/2	黒褐	極細砂 C微量	ソフト
IV-3	10YR2/1	黒	極細砂 C微量	ソフト
IV-4	10YR3/2	黒褐	極細砂 C微量	ソフト
IV-5	10YR3/3	暗褐	極細砂	ソフト
IV-6	10YR2/2	黒褐	極細砂	ソフト
IV-7	10YR3/2	黒褐	極細砂	ソフト
IV-8	10YR2/3	黒褐	極細砂 C微量	ソフト
IV-9	10YR3/3	暗褐	極細砂	ソフト
IV-10	10YR3/3	暗褐	極細砂	ソフト
IV-11	10YR3/2	黒褐	極細砂	ソフト

第4調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')

I-1	10YR3/3	暗褐	砂	
I-2	10YR3/2	黒褐	砂+シルト (ビニール、瓶、陶磁器など多量含有) ごみ層	
I-3				
I-4	2.5Y4/1	黄灰		ハード
I-5	10YR2/2	黒褐	シルト+砂、シルト主体、沢中央部のためI-1より腐植進む。旧表土	やや密
I-6	10YR3/3	暗褐	砂、砂丘が近いため砂層。旧表土	やや粗
II-1	10YR3/3	暗褐	砂混じりシルト、10YR7/4にふい黄橙火山灰	密
II-2	10YR7/4	にふい黄橙	白色火山灰純層 (純層率97%)	
II-3	10YR3/2	黒褐	砂 10YR7/4にふい黄橙火山灰が斑点状に入る	
IIIイ (掘込み遺構)	10YR3/3	暗褐	砂	やや密
IIIロ (掘込み遺構)	10YR3/2	黒褐	シルト+砂 (30:70) 10YR7/4火山灰ブロック3% 10YR2/1黒砂10%	やや密
III-1	10YR3/1	黒褐	砂	やや粗
III-2	10YR2/1	黒	砂	やや粗
IV	10YR4/4	褐	砂	粗

第7調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')

I-1	10YR2/2	黒褐	シルト ビニールなどを含む	ハード
I-2	10YR2/2	黒褐	シルト 10YR3/2黒褐色極細砂50%、キタビラーの跡が残る、工事などの攪乱か	ハード ソフト
I-3	10YR2/2	黒褐	シルト Ko-d粒少量、C微量、旧耕作土	ややハード
II	10YR3/2	黒褐	シルト Ko-dブロック	ややハード
III	10YR2/2	黒褐	極細砂 Ko-dブロック少量	ソフト
IV	10YR3/4	暗褐	極細砂 I-1層粒少量	ソフト
V-1	10YR2/1	黒	シルト 層粒少量、腐植土	ややソフト
B-Tm	10YR4/4	褐	火山灰	ややハード
VI-1	10YR1.7/1	黒	シルト 腐植土	ややソフト
VI-2	10YR2/1	黒	シルト 腐植土	ややソフト
VII	10YR2/2	黒褐	シルト ソフトローム	ハード
VIII	10YR4/4	褐	粘土、ハードローム	ハード
a	10YR3/1	黒褐	シルト 粘質強い、縄文遺構	ややハード
b	10YR3/1	黒褐	シルト 粘質強い、縄文遺構	ややハード
c	10YR2/1	黒褐	シルト 粘質強い、Ⅷ層ブロック少量、縄文遺構	ややハード

第8調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')

I-1			砂 微小玉砂利2%、遺物 (現代～近世) 殆どなし、現代整地盛土層	粗
I-2			盛土1より締まる。ややシルト成分多い、砂+シルト、玉砂利5%、現代整地盛土層	
I-3	10YR3/3	暗褐	シルト 陶磁器、ガラス多量に入る (現代遺物廃棄層、明治中心)	やや密
I-4	10YR3/2	黒褐	シルト 旧表土層、玉砂利など殆どなし	やや密
II	10YR3/3	暗褐	シルト 中央～下部に〔点線から下〕かけて火山灰純層となる	ハード 密
III	10YR3/2	黒褐	砂	やや粗
IV	2.5Y4/2	暗灰黄	砂	粗
Pイ	10YR3/1	黒褐	シルト 砂微量	やや密

第9調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')

I-1	10YR3/3	暗褐	砂+シルト混合層 (80:20)	
I-2	10YR2/2	黒褐	砂+シルト混合層 (80:20)、ブロック状に砂 (2.5Y4/2暗灰黄) だけの箇所あり	
I-3	10YR2/2	黒褐	シルト+砂 (10:90) 混合層	
I-4	10YR2/2	黒褐	シルト+砂 (20:80)+10YR2/1黒シルト+砂 (10:90) の混合層	やや粗
1	10YR5/3	にふい黄褐	砂	やや密
2	10YR4/3	にふい黄褐	砂	やや密
3	10YR5/2	灰黄褐	砂、2よりやや明るい	
4	10YR3/2	黒褐	砂+シルト混合層 (70:30)	
5	10YR2/1	黒	砂+シルト (90:10)	やや密
6	10YR3/2	黒褐	砂+シルト (80:20)	やや粗
V	10YR2/1	黒	シルト 10YR4/6褐のやや肌色味をおびた火山灰ブロック含有 (火山灰=B-Tmとするこの層は10世紀代)	ハード 密
VI	10YR2/1~10YR2/2	黒 黒褐	5よりやや茶色味をおびる	ハード
VII	10YR3/2	黒褐	ソフトローム	ハード 密
X	10YR5/3	にふい黄褐	シルト ハードローム	極めてハード

第10調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')

I-1	10YR5/3	にふい黄褐	玉砂利 赤盤礫混じり盛土	極めてハード
I-2	10YR4/2	灰黄褐	砂 砂丘堆積	粗 やや密
I-3	10YR5/3	にふい黄褐	砂 砂丘堆積	やや密
I-4	10YR4/3	にふい黄褐	砂 砂丘堆積	密
I-5	10YR3/3	暗褐	砂 (シルト5%) 旧表土層。I-1~3に比しシルト分やや含む	やや密
II-1	10YR4/2	灰黄褐	シルト+砂 (20:80) 10YR6/4にふい黄橙火山灰がこの層の中央から下部に厚く堆積	ハード
III	10YR3/2	黒褐	砂	密 ハード
IV	10YR4/3	にふい黄褐	砂	やや粗
1	10YR4/3	にふい黄褐	砂	やや密
2	10YR4/3	にふい黄褐	砂+シルト (95:5)	密

第11調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')

I	10YR2/2	黒褐	細砂 表土はごみが多量、固く締まっているがもろい、一度崩れると砂になる	ハード
---	---------	----	-------------------------------------	-----

表2 調査区土層観察表

II	10YR3/2	黒褐	シルト Ko-dブロック多量、固く締まっているがもろい、一度崩れると砂になる	ややハード
III	10YR3/1	黒褐	細砂 固く締まっているがもろい、一度崩れると砂になる	ソフト
IV	10YR3/4	暗褐	細砂 固く締まっているがもろい、一度崩れると砂になる	ソフト
第13調査区 南北セクション東壁 (SPA-SPA')				
I-1	10YR3/2	黒褐	極細砂 笹の根が多量、工事などまたは植物根に拠る攪乱か	ソフト
I-2	10YR3/2	黒褐	シルト 砂5%、工事などまたは植物根に拠る攪乱か	ハード
I-3	10YR3/4	暗褐	極細砂 IV層の砂と同じ、工事などまたは植物根に拠る攪乱か	ソフト
I-4	10YR2/3	黒褐	シルト 極細砂50%ずつ、工事などまたは植物根に拠る攪乱か	ソフト
I-5	10YR3/3	暗褐	極細砂 シルト10%、工事などまたは植物根に拠る攪乱か	ソフト
I-6	10YR3/2	黒褐	シルト 砂20%、工事などまたは植物根に拠る攪乱か	ハード
I-7	10YR3/2	黒褐	シルト 砂20%、Ko-dブロック少量、黒色土ブロック少量、工事などまたは植物根に拠る攪乱か	ハード
III-1	10YR3/3	暗褐	極細砂	ソフト
III-2	10YR3/2	黒褐	細砂	ややハード
III-3	10YR2/3	黒褐	シルト中に極細砂少量	ややハード
III-4	10YR2/2	黒褐	シルト中に極細砂少量	ハード
IV	10YR3/3	暗褐	極細砂	ソフト
第14調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')				
I	10YR3/2	黒褐	シルト 極細砂少量	ソフト
II	10YR5/2	灰黄褐	シルト Ko-d層あり 鉄分少量含む	ハード
III	10YR2/3	黒褐	極細砂	ややハード
IV	10YR4/4	褐	極細砂	ソフト
第17調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')				
I-1	10YR3/3	暗褐	細砂 上面は礫を敷く	ややハード
I-2	10YR2/3	黒褐	極細砂	ややソフト
IV	10YR3/4	暗褐	細砂	ソフト
第19調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')				
I-1	10YR3/4	暗褐	極細砂 Ko-dブロック多量、コンクリート片多量、黄砂40% (他のところからの盛土)	ややハード
I-2	10YR3/3	暗褐	細砂	ソフト
I-3	10YR3/3	暗褐	極細砂	ややハード
II	10YR4/2	褐灰	粗砂 Ko-d層あり	ハード
III	10YR1.7/1	黒	極細砂	ソフト
IV	10YR3/4	暗褐	細砂	ソフト
第20調査区 東西セクション南壁 (SPA-SPA')				
I-1	10YR4/2	灰黄褐	シルト 砕石、小礫、中礫多量 砂利敷き道路跡	ソフト
I-2	10YR2/3	黒褐	シルト	ややハード
II	10YR2/3	黒褐	シルト Ko-dブロック多量	ややソフト
III	10YR2/2	黒褐	細砂 C微量	ソフト
IV-1	10YR3/3	暗褐	細砂	ソフト
IV-2	10YR3/2	黒褐	細砂	ソフト
IV-3	10YR3/3	暗褐	地区の東側にC微量	ソフト
第21調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')				
I	10YR2/3	黒褐	シルト	ややハード
II	10YR2/2	黒褐	シルト Ko-dブロック微量	ややハード
III	10YR2/2	黒褐	細砂	ソフト
IV	10YR3/3	暗褐	細砂	ソフト
第22調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')				
I-1	10YR3/3	暗褐	細砂、笹の根多い	ソフト
I-2	10YR3/2	黒褐	シルト	ややハード
II	10YR2/3	黒褐	シルト Ko-dブロック微量	ややハード
III	10YR2/2	黒褐	細砂 遺物包含層	ややソフト
IV	10YR3/4	暗褐	細砂	ソフト
第25調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')				
I-1	10YR5/3	にぶい黄褐	砕石多量 砂利敷き道路跡	ソフト
I-2	10YR3/1	黒褐	極細砂	ソフト
I-3	10YR2/3	黒褐	シルト	ソフト
I-4	10YR2/2	黒褐	シルト中に細砂多量	ソフト
IV	10YR3/3	暗褐	細砂	ソフト
P-ア	10YR2/2	黒褐	極細砂 砂にススが付着する	ソフト
P-イ	10YR1.7/1	黒	炭化物層	ややハード
P-ウ	7.5YR2/2	黒褐	細砂 焼土層	ソフト
P-エ	7.5YR3/2	黒褐	細砂	ソフト
a	7.5YR3/2	黒褐	細砂 焼土層	ソフト
b	10YR1.7/1	黒	細砂 砂にスス付着	ソフト
1	10YR2/3	黒褐	植物根	ソフト
2	10YR3/2	黒褐	植物根	ソフト
第26調査区 南北セクション東壁 (SPA-SPA')				
I	10YR2/3	黒褐	シルト	ややハード
II	10YR3/2	黒褐	シルト中に細砂微量、Ko-dブロック多量	ソフト
III	10YR2/2	黒褐	細砂	ソフト
IV	10YR3/3	暗褐	細砂	ソフト
第27調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')				
I-1	10YR3/3	暗褐	細砂、黒褐色土30%、他所を削平して持ってきた砂、土	ソフト
I-2	10YR4/2	灰黄褐	シルト Ko-d粒微量旧表土	ハード
II	10YR4/2	灰黄褐	シルト Ko-dブロック多量	ハード
III	10YR2/2	黒褐	細砂	ソフト
IV-1	10YR3/2	黒褐	細砂	ソフト
IV-2	10YR3/3	暗褐	細砂	ソフト
第28調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')				
I-1	10YR3/3	暗褐	細砂 防風林造成後の飛砂、あるいは塵砂	ソフト
I-2	10YR2/3	黒褐	細砂 黒褐色土20%。防風林造成時の移動土	ソフト
I-3	10YR3/2	黒褐	シルト 旧表土	ハード
II	10YR3/2	黒褐	シルト Ko-d層あり	ハード
III	10YR2/2	黒褐	シルト中に細砂少量	ソフト
IV	10YR3/3	暗褐	細砂	ソフト
P2	10YR3/2	黒褐	シルト C微量、Ko-d粒微量	ハード

表3 調査区土層観察表

第30調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')-南北セクション東壁 (SPA'-SPA'')					
I-1	10YR3/3	暗褐	シルト	防風林造成後の飛砂	ソフト
I-2	10YR2/2	黒褐	シルト	細砂30%、防風林造成時の移動土、Ko-dブロック微量	ややハード
I-3	10YR3/2	黒褐	シルト	旧表土	ハード
I-4	10YR2/2	黒褐	シルト	旧表土	ハード
II	10YR3/2	黒褐	シルト	中に極細砂多量、Ko-d粒微量	ハード
III	10YR2/2	黒褐		極細砂	ソフト
IV	10YR3/3	暗褐		細砂	ソフト
第31調査区 東西セクション南壁 (SPA-SPA')-南北セクション西壁 (SPA'-SPA'')					
I-1	10YR2/2	黒褐	細砂	黒褐色土40%、空き缶ガラスなどあり、防風林造成時の移動土	ソフト
I-2	10YR4/2	灰黄褐	シルト	旧表土	ハード
I-3	10YR3/2	黒褐	細砂	ガラス缶などあり、防風林造成時の移動土	ハード
I-4	7.5YR2/2	黒褐	シルト	中に細砂少量、防風林造成時の移動土	ハード
I-5	10YR4/3	黒褐	細砂	Ko-dブロック微量、黒褐色土40%、防風林造成時の移動土	ハード
II	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	Ko-d層あり	ハード
III	10YR2/3	黒褐	シルト	中に細砂多量	ソフト
IV	10YR3/2	黒褐		細砂	ソフト
第32調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')					
I	10YR3/4+10YR4/2	暗褐 灰黄褐	シルトと砂の混合層		
II	10YR3/3	暗褐	シルト	Ko-dブロック含有	
III	10YR2/2	黒褐		砂主体、シルト5%含有	
IV	10YR4/2	灰黄褐		砂	やや粗
第35調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')					
I-1	10YR4/2	灰黄褐	防風林造成時(植林)移動土	10YR3/2黒褐シルト(1%)植物根	粗
I-2	10YR3/2	黒褐	シルト	旧表土 プライマリー	ややハード 密
II	10YR4/1-10YR3/1	褐灰-黒褐	中間色、シルト	Ko-d粒(2×1cm, 2×2cm)入る、基本的に動いていない層 プライマリー	ややハード やや密
III	10YR2/2	黒褐	シルト+砂(50:50)、	プライマリー	ソフト やや粗
IV	10YR4/2	灰黄褐		砂(細砂)	ソフト やや粗
第36調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')					
I-1	10YR3/3	暗褐	細砂	黒褐色土30%、防風林造成時の移動土	ソフト
I-2	10YR4/2	灰黄褐	シルト	鉄分含む	ハード
II	10YR3/2	黒褐	シルト	中に細砂微量、Ko-d粒微量	ソフト
III	10YR2/2	黒褐	シルト	中に細砂多量	ソフト
IV	10YR3/3	暗褐		細砂	ソフト
第38調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')					
I	10YR2/3	黒褐	細砂	黒褐色土5%	ややソフト
IV	10YR3/3	暗褐		細砂	ソフト
第41調査区 南北セクション東壁 (SPA-SPA')-東西セクション南壁 (SPA'-SPA'')					
I-1	10YR2/3	黒褐	細砂	Ko-dブロック微量	ソフト
I-2	10YR3/2	黒褐	細砂		ハード
II	10YR2/2	黒褐	シルト	細砂少量、Ko-dブロック少量	ハード
III	10YR2/1	黒	細砂	C少量	ハード
IV	10YR3/3	暗褐	細砂		ソフト
Pあ	10YR2/3	黒褐	細砂	IV層砂をベースに黒褐色シルトがブロック状に入る	ソフト
第42調査区 南北セクション東壁 (SPA-SPA')					
I-1	10YR2/3	黒褐		極細砂	ややハード
I-2	10YR3/2	黒褐	細砂	I-1とI-3の中間層	ソフト
I-3	10YR3/3	暗褐	細砂		ソフト
I-4	10YR2/1	黒	シルト		ハード
II	10YR3/1	黒褐	シルト	Ko-d50%	
III	10YR1.7/1	黒	シルト	中に細砂微量 腐植土	ハード
IV	10YR2/2	黒褐	シルト	中に細砂微量	ハード
V-1	10YR2/1	黒	シルト	中に細砂微量	ハード
V-2	10YR2/2	黒褐	細砂		ややハード
VI	10YR1.7/1	黒	シルト	中に細砂少量	ハード
K	10YR2/2	黒褐	粘土	ソフトローム	ハード
X	10YR4/4	褐	粘土	ハードローム	ハード
第46調査区 東西セクション南壁 (SPA-SPA')-南北セクション西壁 (SPA'-SPA'')					
I-1	10YR2/2	黒褐	細砂	礫多量	ややソフト
I-2	10YR2/2	黒褐	シルト	中に細砂少量 Ko-d粒微量	ハード
II	10YR3/2	黒褐	シルト	Ko-dブロック多量	ややハード
III-1	10YR2/2	黒褐	極細砂	砂質土	ややソフト
III-2	10YR2/2	黒褐	極細砂	砂質土	ハード
IV-1	10YR2/2	黒褐	細砂	C微量	ソフト
IV-2	10YR2/2	黒褐	細砂	黒褐色土が層状に入る C微量	ソフト
IV-3	10YR3/3	暗褐	細砂		ソフト
IV-4	10YR2/2	黒褐	細砂	黒褐色土ブロック多量	ソフト
IV-5	10YR2/2	黒褐	細砂	黒褐色土ブロック少量	ソフト
IV-6	10YR2/2	黒褐		黒褐色土ブロック多量	ソフト
V-1	10YR1.7/1	黒	シルト	中に細砂少量	ややソフト
V-2	10YR2/1	黒	シルト	中に細砂微量	ややソフト
VI	10YR2/3	黒褐	シルト	B-Tmブロック少量	ややハード
VI-1	10YR1.7/1	黒	シルト		ややハード
VI-2	10YR2/1	黒	シルト		ハード
VI-3	7.5YR2/1	黒	シルト	中に極細砂少量	ハード
懸穴建物跡1-a	10YR1.7/1	黒	シルト	中に極細砂微量	ややハード
懸穴建物跡1-b	10YR1.7/1	黒	シルト	ロームブロック微量	ハード
懸穴建物跡1-c	10YR2/1	黒	シルト	ローム粒微量	ハード
懸穴建物跡1-d	10YR2/1	黒	シルト	中に極細砂微量、ローム粒少量	ややハード
懸穴建物跡1-e	10YR1.7/1	黒	シルト		ややソフト
懸穴建物跡1-f	10YR1.7/1	黒	シルト	中に極細砂少量、ローム粒微量	ややハード
懸穴建物跡1-g	10YR2/1	黒	シルト	中に極細砂少量、ローム粒微量	ハード
懸穴建物跡1-h	10YR1.7/1	黒	シルト	中に極細砂少量、ローム粒少量 C微量	ややソフト
懸穴建物跡1-i	10YR2/1	黒	シルト		ややハード
懸穴建物跡1-j	10YR1.7/1	黒	シルト	ローム粒微量	ハード

表8 調査区土層観察表

P10	7.5YR3/2	黒褐	細砂+シルト (90:10)	密 ややソフト
P11	10YR4/3	にぶい黄褐	砂+シルト (90:10)	やや粗 ややソフト
第59調査区 東西セクション南壁 (SPA-SPA')				
I-1	10YR2/3	黒褐	細砂 小玉砂利微量	ソフト
I-2	10YR3/2	黒褐	細砂 小玉砂利微量、C微量	ややソフト
II	10YR2/3	黒褐	細砂 Ko-d粒微量	ややソフト
III	10YR2/2	黒褐	細砂	ソフト
砂層	10YR3/4	暗褐	細砂	ソフト
第60調査区 東西セクション南壁 (SPA-SPA')				
I	10YR3/2	黒褐	細砂 小玉砂利微量、C微量	ややソフト
II	10YR2/3	黒褐	細砂 Ko-d粒微量	ややソフト
III	10YR2/2	黒褐	細砂	ソフト
IV	10YR3/4	暗褐	細砂	ソフト
第63調査区 東西セクション南壁 (SPA-SPA')-南北セクション西壁 (SPA-SPA'')				
I	10YR3/2	黒褐	シルト+砂 (50:50)	ソフト やや粗
II	7.5YR3/1	黒褐	シルト+砂 (50:50)	ハード 密
III	7.5YR2/2	黒褐	シルト+砂 (40:60) +10YR4/3砂10~15%混層 C4%~10%	
IV-1	10YR4/3	にぶい黄褐	砂のみ (IVの基本層)	粗 ソフト
IV-2	7.5YR3/1	黒褐	シルト+砂 (50:50)、中央に、縦状に入るC1%	粗 ソフト
IV-3	10YR4/3	にぶい黄褐	砂	ハード 密
IV-4	7.5YR4/3	褐	10YR4/3砂と7.5YR3/2黒褐シルト+砂 (砂10%以下)の混合層だが主体は砂 C10%。他のIV層に比し褐味が強い III層とIV層の中間層	
V	7.5YR2/1	黒	シルト+砂 (60:40)	ソフト 密
VI-1	10YR2/1	黒	シルト 下部にB-Tm堆積	やや密 ややハード
VI-2	10YR2/1	黒	シルト	密 ややソフト
VI1	7.5YR3/2	黒褐	シルト+砂 (70:30)、C5%、B-Tmブロック状	
VI2	7.5YR3/1	黒褐	シルト+ロームブロック (50:50)	ソフト やや粗
VII	7.5YR1.7/1	黒	シルト	密 ハード
VIII	7.5YR2/1	黒	シルト	密 ハード
IX	10YR3/2~7.5YR3/2	黒褐	ソフトローム	極めてハード 密
X	7.5YR4/4~7.5YR5/4	褐~にぶい褐	ハードローム	極めてハード 密
土塊1-A	7.5YR3/1	黒褐	シルト+砂 (40:60) C1%、焼土粒1%	ソフト やや密
土塊1-B	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト+砂 (90:10) 殆ど砂 C1%、Ko-d1%	ソフト やや粗
P7	7.5YR3/2	黒	シルト+砂 (50:50) 混合	やや粗 ソフト
P1	7.5YR3/2	黒	シルト+砂 (50:50) 混合	やや粗 ソフト
Pウ-A	7.5YR2/3	極暗褐	シルト+砂 (50:50)	ソフト 粗
Pウ-B	7.5YR3/2	黒褐	シルト+砂 (40:60)	ソフト 粗
P9-I	7.5YR3/1	黒褐	シルト+砂 (30:70) 10YR4/3にぶい黄褐砂5%含有	ソフト やや密
P9-ロ (柱状)	7.5YR3/2	黒褐	シルト+砂 (40:60)	ソフト やや粗
P9-ハ	7.5YR3/2	黒褐	シルト+砂 (30:70) +10YR4/3にぶい黄褐	ソフト やや粗
P9-ニ	10YR4/3	にぶい黄褐	砂主体 (95:5) 7.5YR2/1黒、7.5YR3/2黒褐シルト、砂 (30:70) が混じった状態 (5%以下)	
P9-ホ (柱状)	7.5YR3/2	黒褐	シルト+砂 (20:80) +10YR4/3にぶい黄褐砂が混じった状態、10YR3/3暗褐シルト、砂 (20:80)	ソフト
P10a	7.5YR2/2	黒	シルト+砂 (30:70) C1%、焼土粒2%	ソフト やや密
P10b	7.5YR3/2	黒褐	シルト+砂 (30:70)	ソフト やや粗
P10c	10YR4/3	にぶい黄褐	砂 10YR2/1黒10%	ソフト やや粗
P10d	7.5YR3/2	黒褐	シルト+砂	
P10-e	10YR3/3	暗褐	シルト+砂 (10:90) +10YR4/3にぶい黄褐砂、7.5YR3/2黒褐シルト、砂3%含有	ソフト やや粗
P11-a	7.5YR3/2	黒褐	シルト+砂 (50:50) 10YR4/3にぶい黄褐砂10%	やや密 ややハード
P11-b	7.5YR3/1	黒褐	シルト+砂 (50:50)	やや密 ややハード
P11-c	10YR1.7/1	黒	シルト+砂 (80:20) 主体中央部にあり10YR4/3にぶい黄褐砂	やや密 ややハード
P11-d	10YR3/3	暗褐	シルト+砂 (20:80) 殆ど砂層	ソフト やや粗
P11-e	7.5YR3/1	黒褐	シルト+砂 (30:70)	密 ややソフト

表9 遺構土層観察表

第50調査区 壁穴建物跡1				
a	10YR3/1	黒褐	シルト ソフトローム粒微量、C微量、暗褐色土ブロック少量	ハード
b	10YR2/2	黒褐	シルト ソフトロームブロック多量	ハード
c	10YR2/2	黒褐	シルト ソフトローム粒微量	ややハード
d	10YR3/1	黒褐	シルト ソフトロームブロック多量	ハード
e	10YR2/2	黒褐	シルト	ややハード
f	10YR3/1	黒褐	シルト ソフトローム粒微量、C微量	ややハード
g	10YR2/2	黒褐	シルト ソフトローム粒微量	ややソフト
h	10YR2/1	黒	シルト	ややソフト
i	10YR3/1	黒褐	シルト ソフトローム粒少量、C微量	ややソフト
j	10YR3/2	黒褐	シルト やや粘質あり、ソフトロームブロック多量	ややハード
k	10YR3/1	黒褐	シルト 暗褐色土ブロック少量、ソフトローム粒微量	
l	10YR2/2	黒褐	シルト ソフトローム粒微量、C少量	ややソフト
m	10YR2/3	黒褐	シルト ソフトロームブロック多量、自然堆積	ソフト
n	10YR2/2	黒褐	シルト C少量、ソフトローム粒微量	ハード
o	10YR3/1	黒褐	シルト 白色ソフトローム少量、ソフトローム粒微量、C微量	ややハード
p	10YR2/2	黒褐	シルト ソフトローム粒微量、C微量	ややハード
q	10YR2/2	黒褐	シルト ソフトローム粒少量、C微量	ハード
r	10YR2/1	黒	シルト	ややソフト
s	10YR2/1	黒	シルト C微量	ややソフト
t	10YR3/1	黒褐	シルト ソフトローム粒微量、C微量	ややソフト
u	10YR3/2	黒褐	シルト ソフトローム粒少量、C微量	ややハード
v	10YR2/1	黒	シルト 自然堆積	ややハード
w	10YR2/2	黒褐	シルト 自然堆積	ややソフト
x	10YR2/2	黒褐	シルト C微量、自然堆積	ややソフト
y	10YR2/3	黒褐	シルト ソフトローム粒少量、C少量、暗褐色土ブロック少量	ハード
z	10YR3/2	黒褐	シルト ソフトローム粒少量	ハード
aa	10YR3/1	黒褐	シルト	ハード
ab	10YR3/1	黒褐	シルト ソフトローム粒微量、C微量、暗褐色土ブロック少量	ハード
ac	10YR2/2	黒褐	シルト 粘質わずかにあり ソフトローム粒微量	ハード

表10 遺構土層観察表

ad	10YR2/2	黒褐	シルト C微量、ソフトローム粒微量	ややハード
ae	10YR3/1	黒褐	シルト ソフトローム粒少量	ややソフト
af	10YR2/2	黒褐	シルト わずかに粘質あり、C微量、ソフトローム粒微量、自然堆積	ハード
ag	10YR3/1	黒褐	シルト 粘質あり、ソフトローム粒微量、自然堆積	ややハード
ah	10YR2/3	黒褐	シルト	ややソフト
ai	10YR3/1	黒褐	シルト 白色ソフトローム粒微量	ややハード
aj	10YR3/1	黒褐	シルト	ややソフト
ak	10YR2/2	黒褐	シルト	ソフト
al	10YR3/1	黒褐	シルト C微量	ややソフト
am	10YR2/1	黒	シルト 粘質わずかにあり	ソフト
an				
ao	10YR3/2	黒褐	シルト 粘質わずかにあり、ソフトローム粒微量	ややハード
ap	10YR3/1	黒褐	シルト ソフトローム粒微量	ソフト
aq	10YR3/1	黒褐	シルト C微量	ソフト
ar	10YR3/2	黒褐	シルト 粘質あり、ソフトロームブロック多量、先行するPit	
as	10YR3/1	黒褐	シルト 粘質あり、自然堆積	ソフト
at	10YR2/2	黒褐	シルト中に細砂少量、ソフトローム粒微量、粘質あり、自然堆積	ややソフト
au	10YR2/2	黒褐	シルト 粘質あり、ソフトローム粒微量	ソフト
P54-a	10YR2/2	黒褐	細砂 ソフトローム粒微量、先行するPit	ややソフト
P54-b	10YR2/1	黒	細砂 ソフトローム粒少量、先行するPit	ややソフト
P54-c	10YR3/1	黒褐	細砂 先行するPit	ソフト
P54-d	10YR3/1	黒褐	シルト中に細砂少量 ソフトローム粒微量 先行するPit	ややハード
第52調査区 髪穴建物跡1				
1	10YR2/2	黒褐	シルト 白色粘土ブロック、C微量	ややハード
2	10YR2/2	黒褐	シルト中に極細砂微量、白色粘土ブロック多量	ハード
3	10YR3/1	黒褐	細砂 砂質土、白色粘土ブロック微量	ややソフト
4	10YR2/1	黒	シルト中に極細砂少量、白色粘土ブロック多量	ソフト
5	10YR2/2	黒褐	シルト 白色粘土+黒色シルト (50:50)	ややハード
6	10YR2/1	黒	シルト 白色粘土ブロック微量	ややソフト
7	10YR2/1	黒	極細砂、砂質土、白色粘土ブロック多量	ややソフト
8	10YR3/2	黒褐	細砂、茶色土ブロック微量	ソフト
9	10YR2/2	黒褐	シルト中に極細砂多量 白色粘土ブロック少量	ややソフト
10	10YR2/1	黒	シルト中に細砂多量 粘質強い 白色粘土少量	ややソフト
11	10YR2/2	黒褐	シルト 白色粘土少量	ややハード
12	10YR2/1	黒	シルト 白色粘土ブロック少量	ややハード
13	10YR2/1	黒	シルト 白色粘土ブロック少量 黄砂の塊あり	ややソフト
14	10YR2/1	黒	シルト 粘質強い、白色粘土ブロック微量	ややソフト
15	10YR3/1	黒褐	シルト 白色粘土ブロック微量	ややハード
16	10YR3/1	黒褐	シルト中に極細砂多量、粘質強い、白色粘土ブロック微量	ややハード
17	10YR3/1	黒褐	シルト 粘質強い 白色粘土ブロック少量	ややソフト
18	10YR2/2	黒褐	シルト 粘質強い 白色粘土ブロック微量	ややハード
19	10YR2/1	黒	シルト 粘質強い 白色粘土ブロック少量	ややハード
20	10YR3/1	黒褐	シルト 粘質強い 白色粘土ブロック少量	ややハード
21	10YR2/1	黒	シルト中に、極細砂微量、水分を多量に含む、C多量	ややソフト
22	10YR2/2	黒褐	シルト 白色粘土ブロック多量	ハード
23	10YR2/2	黒褐	シルト 白色粘土ブロック微量	ハード
24	10YR2/2	黒褐	シルト 白色粘土ブロック少量	ハード
25	10YR2/3	黒褐	細砂 黒色土ブロック少量、白色粘土ブロック微量	ハード
26	10YR2/2	黒褐	シルト 白色粘土ブロック多量	ハード
27	10YR2/2	黒褐	シルト中に極細砂少量、黄砂30%、C微量	ややソフト
28	10YR2/2	黒褐	細砂、白色粘土粒少量	ややハード
29	10YR2/1	黒	極細砂 砂質土、白色粘土ブロック微量	ややソフト
30	10YR3/2	黒褐	細砂	ソフト
31	10YR2/1	黒	シルト中に極細砂少量、白色粘土ブロック微量	ハード
32	10YR3/1	黒褐	細砂 黒色土ブロック少量、白色粘土ブロック微量	ややハード
33	10YR2/1	黒	シルト 白色粘土ブロック微量、C微量	ハード
34	10YR2/2	黒褐	シルト	ハード
35	10YR3/1	黒褐	シルト 白色粘土ブロック多量	ハード
36				
37	10YR2/2	黒褐	シルト中に極細砂少量、黄砂40%、白色粘土ブロック少量	ややハード
38	10YR2/2	黒褐	細砂 黒色土30%、白色粘土ブロック微量	ややソフト
39	10YR2/2	黒褐	細砂 黒色土20%、白色粘土ブロック微量	ややソフト
40	10YR2/1	黒	シルト 粘質強い、白色粘土ブロック微量	ややソフト
41	10YR3/1	黒褐	シルト中に極細砂少量、粘質強い、白色粘土ブロック微量	ややハード
42	10YR2/2	黒褐	シルト 白色粘土ブロック少量	ハード
43	10YR2/2	黒褐	シルト 白色粘土ブロック多量、C微量	ハード
44	10YR3/1	黒褐	シルト 白色粘土粒少量	ハード
45	10YR3/1	黒褐	シルト 白色粘土ブロック多量	ハード
46	10YR3/2	黒褐	シルト 白色粘土ブロック多量 C微量、黄砂5%	ハード
47	10YR2/2	黒褐	シルト 白色粘土ブロック少量、C微量	ハード
48	10YR2/1	黒	シルト 白色粘土ブロック多量	ハード
49	10YR2/2	黒褐	シルト 白色粘土ブロック多量	ハード
50	10YR3/1	黒褐	シルト 白色粘土ブロック少量、黒色土ブロック微量	ハード
51	10YR3/1	黒褐	シルト 白色粘土ブロック多量、黒色土10%	ややハード
52	10YR3/1	黒褐	シルト 白色粘土ブロック多量、黄砂10%	ハード
53	10YR2/1	黒	シルト中に極細砂多量、白色粘土ブロック微量	ややハード
54	10YR2/1	黒	シルト 粘質強い、白色粘土ブロック多量	ややハード
55	10YR3/1	黒褐	シルト中に極細砂少量	ややソフト
56	10YR3/2	黒褐	細砂 黒色土40%、白色粘土ブロック微量	ややソフト
57	10YR3/1	黒褐	シルト 白色粘土ブロック多量	ハード
58	10YR4/2	灰黄褐	極細砂 炭範囲に伴う灰、焼土	ソフト
59				
60				
第52調査区 土壌1				
a	10YR2/2	黒褐	極細砂 砂質土	ややソフト

表11 遺構土層観察表

b	10YR4/3	にぶい黄褐	粘土	ソフト
c	10YR2/3	黒褐	シルト中に極細砂多量	ソフト
d	10YR3/2	黒褐	シルト中に極細砂少量	ソフト
第57調査区 炭化物範囲1				
a	10YR3/2	黒褐	細砂 C少量	ソフト
b	10YR2/2	黒褐	細砂 C少量、骨多量	ソフト
c	7.5YR2/3	極暗褐	細砂 焼土層	ソフト
d	7.5YR2/1	黒	細砂 C泥、焼土層	ソフト
e	7.5YR2/2	黒褐	細砂 焼土層	
f	10YR2/3	黒褐	細砂	ソフト
g	10YR1.7/1	黒	細砂 炭層	
h	7.5YR2/1	黒	細砂 C泥、焼土層	ソフト
i	10YR2/2	黒褐	細砂 焼土層	ソフト

2. 遺物の概要 今回の調査で出土した遺物は陶磁器が5941点、土器が205点、金属製品が286点など総点数6552点である。なお集計には第50調査で出土した一括の擦文土器は含まれていない。

出土した中世に属する遺物は全部で251点で青磁、白磁、珠洲、古瀬戸製品が見られる。

第12図1～9は青磁である。調査では片切り掘りによる幅の広い蓮弁文を持つ碗、見込みに花文を施す碗、端反りの碗、皿が見られる。二次被熱しているものも見受けられる。

第12図10～15は白磁の皿である。掲載したものはすべて、高台に挟り込みを持つ皿か、あるいは同種のもので挟り込みを持たない皿である。今回の調査で出土した白磁はほとんどが砂館神社西の砂丘に設定した第20調査区付近からの出土である。また細片のため掲載していないが第57調査区から八角坏と端反碗が出土している。

第12図16～18は古瀬戸製品である。調査では主に古瀬戸後期と考えられるものが出土している。出土位置は砂館神社西の砂丘以外の平地に設定した調査区から1片ないしは2片ずつ出土している。16の瓶子は二次的に被熱している。

第12図19～第13図25は珠洲である。すり鉢と甕が出土している。すり鉢の見込み付近は全く卸目の確認できないほど摩耗している。19、20は第IV期に相当するものと考えられる。21～25は第V期～VI期相当するものと考えられる。

第14図26～第15図45は肥前系の製品である。肥前系の磁器は18世紀から19世紀のものが中心であり、17世紀前葉から中葉にかけて生産されたのいわゆる初期伊万里はほとんど見られない。

第15図46～第16図52は唐津、あるいは唐津系と考えられるものである。調査で出土したものは第15図46のような内面に銅緑釉を施し、蛇の目に釉を掻き取る皿や第15図45以下のような全体に鉄釉を施すすり鉢、白土の刷毛目を波状に施す大鉢や甕類が主なものである。唐津も18世紀以降のものがほとんどである。

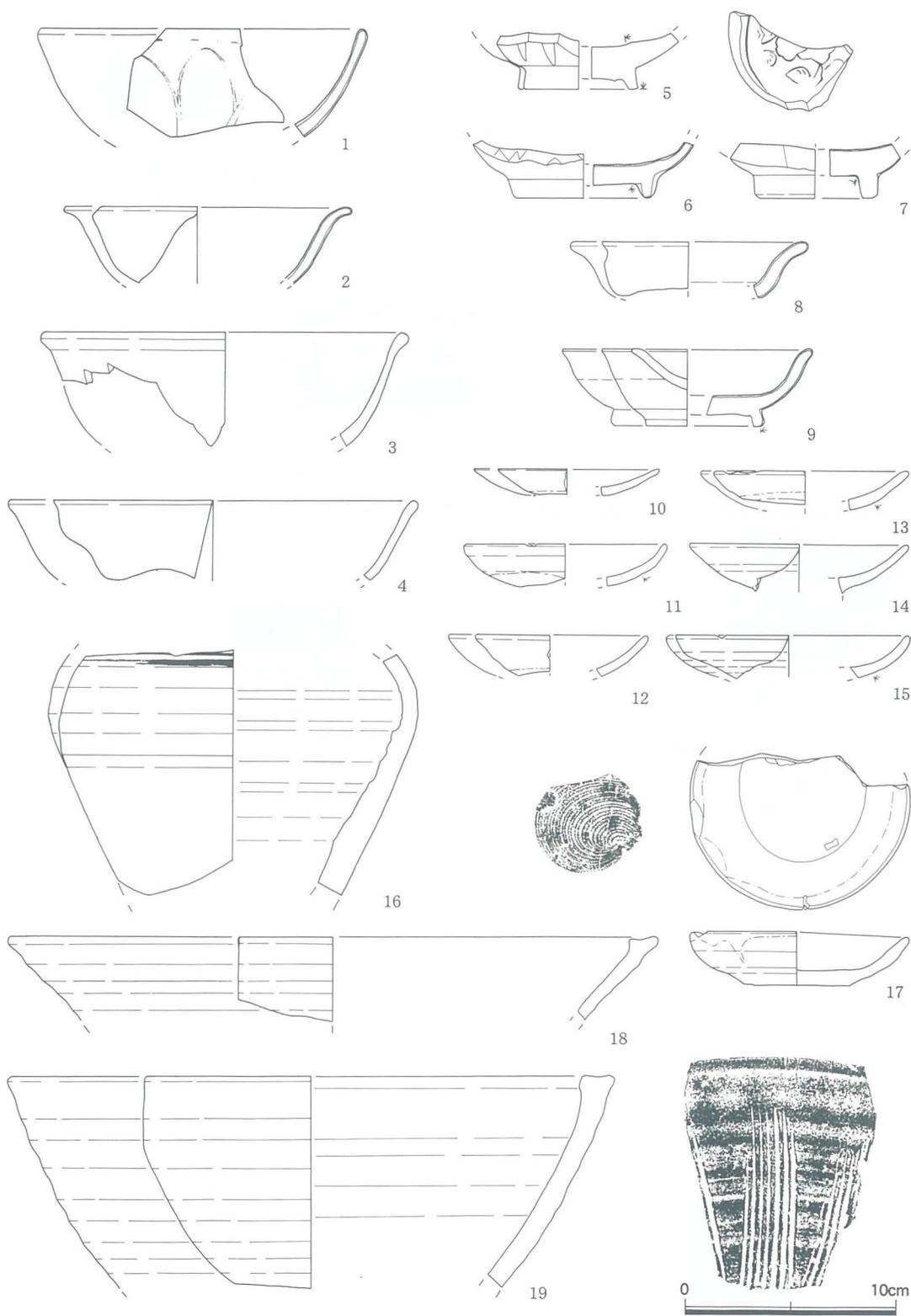
第17図55～59は明治時代に属すると考えられる遺物である。第8調査区付近ではこのほかに摺絵の碗、皿が大量に出土している。

第22図136は擦文土器の高坏である。外面には縦方向に刷毛目の調整痕が残る。底面には○の中に十文字の刻印が施される。

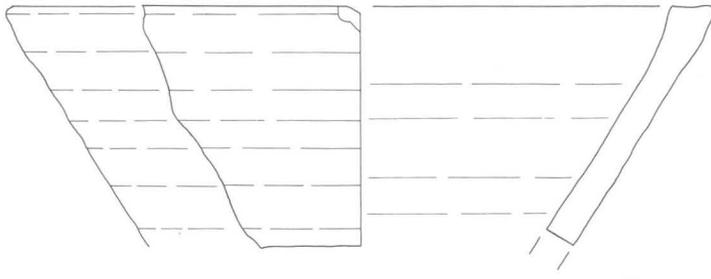
第50調査区では最下層で擦文土器の深鉢が数個体出土している。これらの擦文土器は来年度刊行予定の報告書にて報告する予定である。

第22図137～142は土師器の坏である。すべてロクロ成形であり、底面が残るものには回転糸切り痕が残る。140、141は内面を黒色処理する。140は付高台であり、高台内に回転糸切り痕が残る。第22図142は須恵器の坏である。底面に十文字の火禱の跡と回転糸切り痕が残る。須恵器は掲載したものの他に甕が出土している。

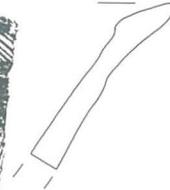
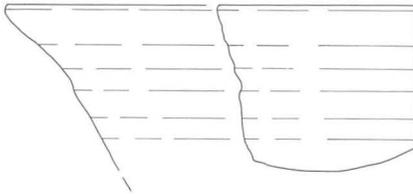
第18図は銅銭である。今回の調査では開元通宝(初鑄年621年)から新寛永通宝(初鑄年1697年)までなど合計で113枚の銅銭が出土しているがその内の約73%が第50調査区で出土している。また第50調査区では錢縹が出土した。細い木材に約30枚の銅銭を通していた。銅銭は腐食が激しく銭名は判然とせず、無文銭と考えられる。(三浦英俊)



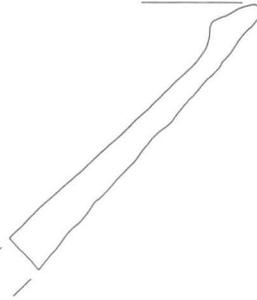
第12図 調査区出土遺物



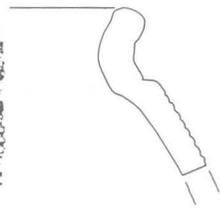
20



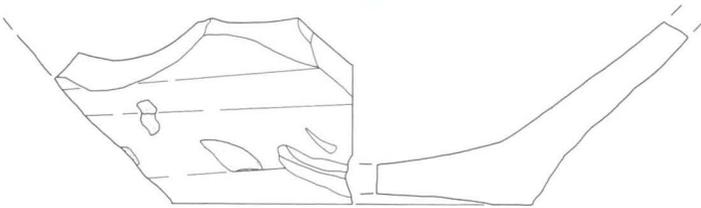
21



22



24



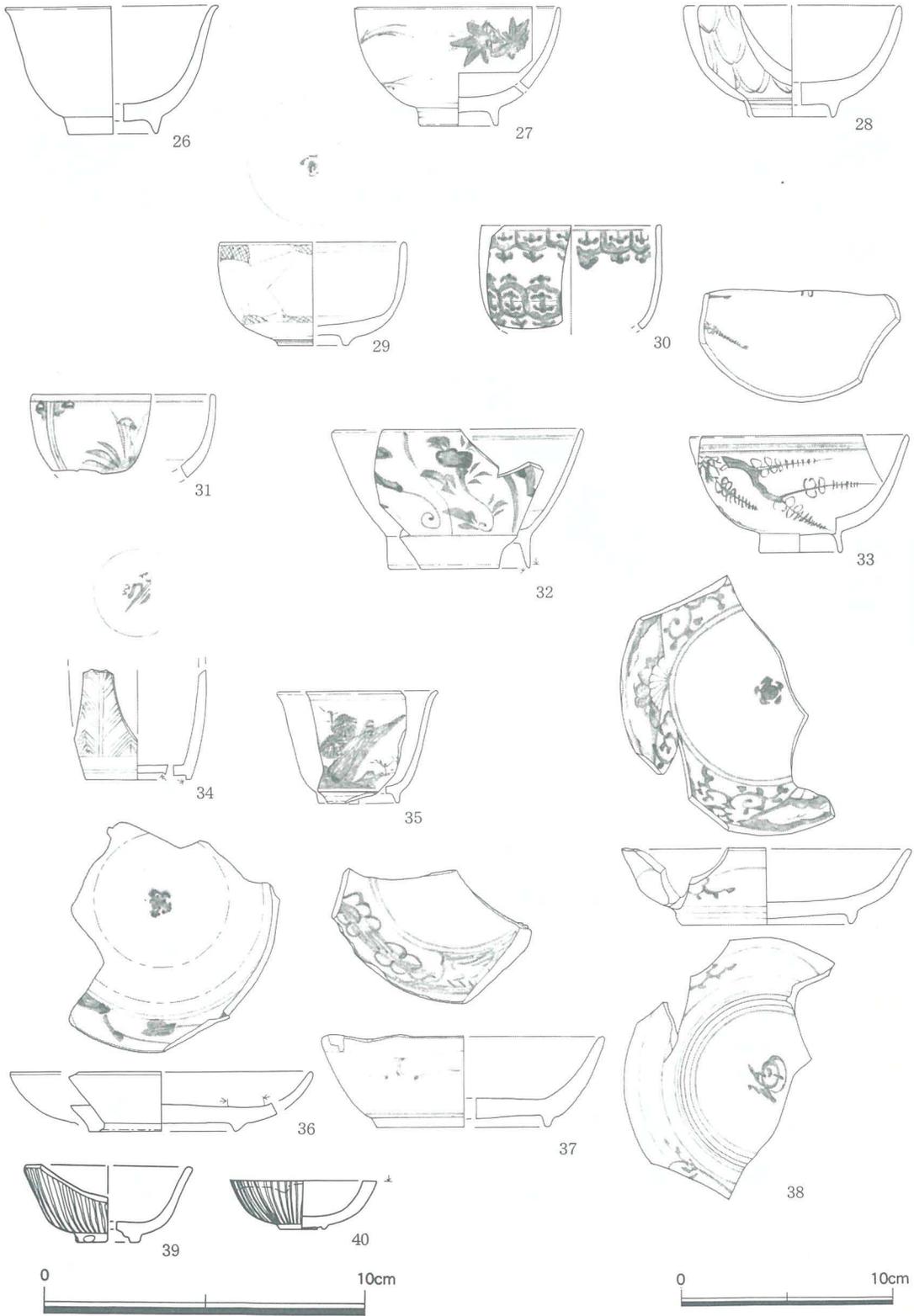
23



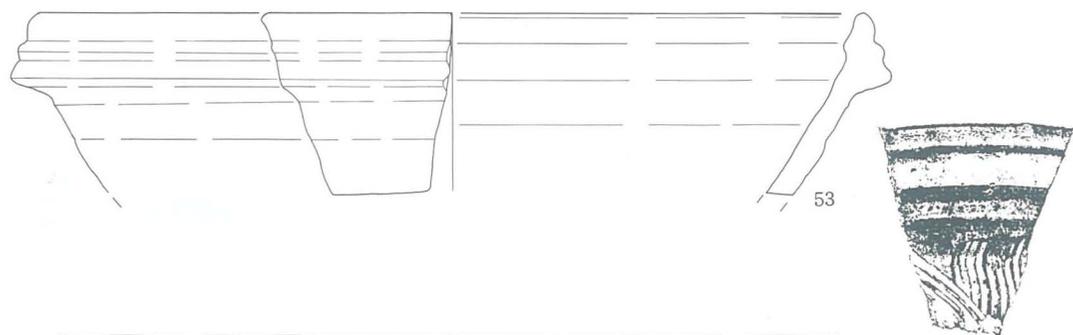
25



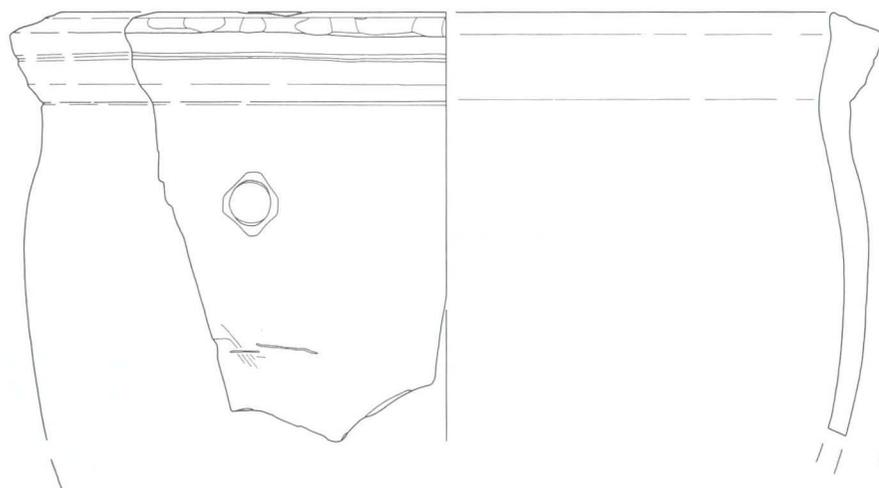
第13図 調査区出土遺物



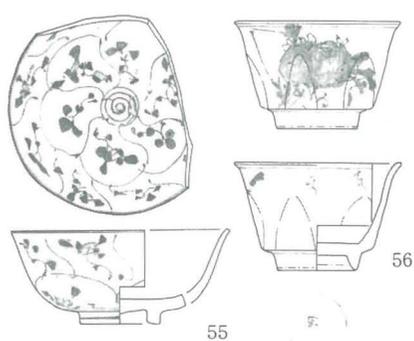
第14図 調査区出土遺物



53

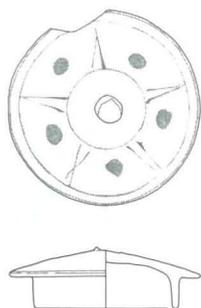


54

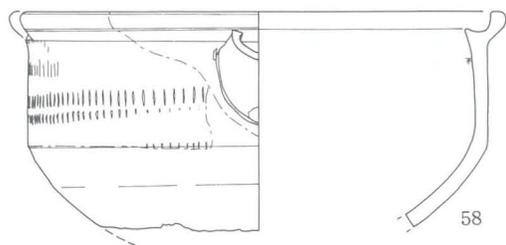


55

56



57



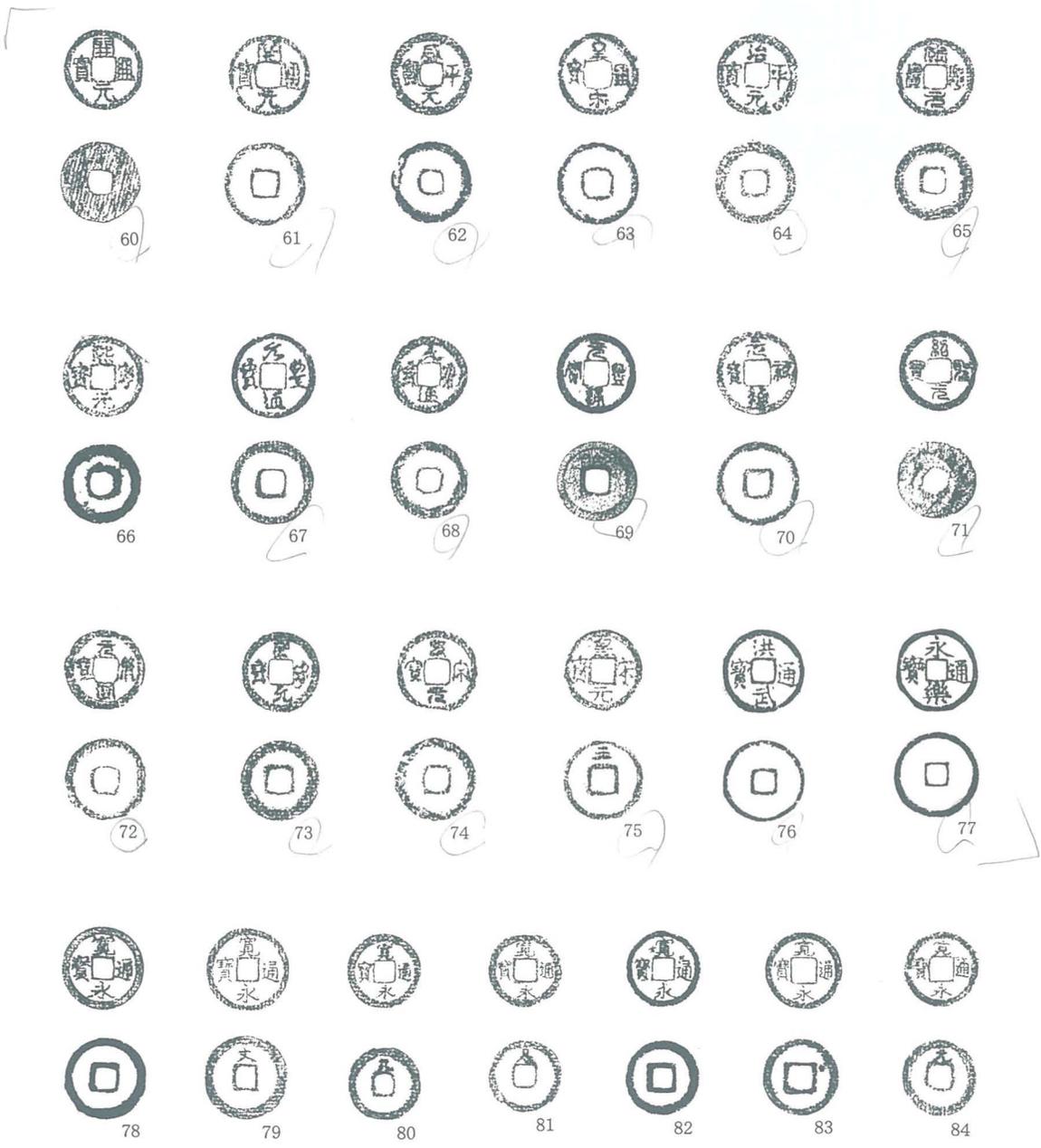
58



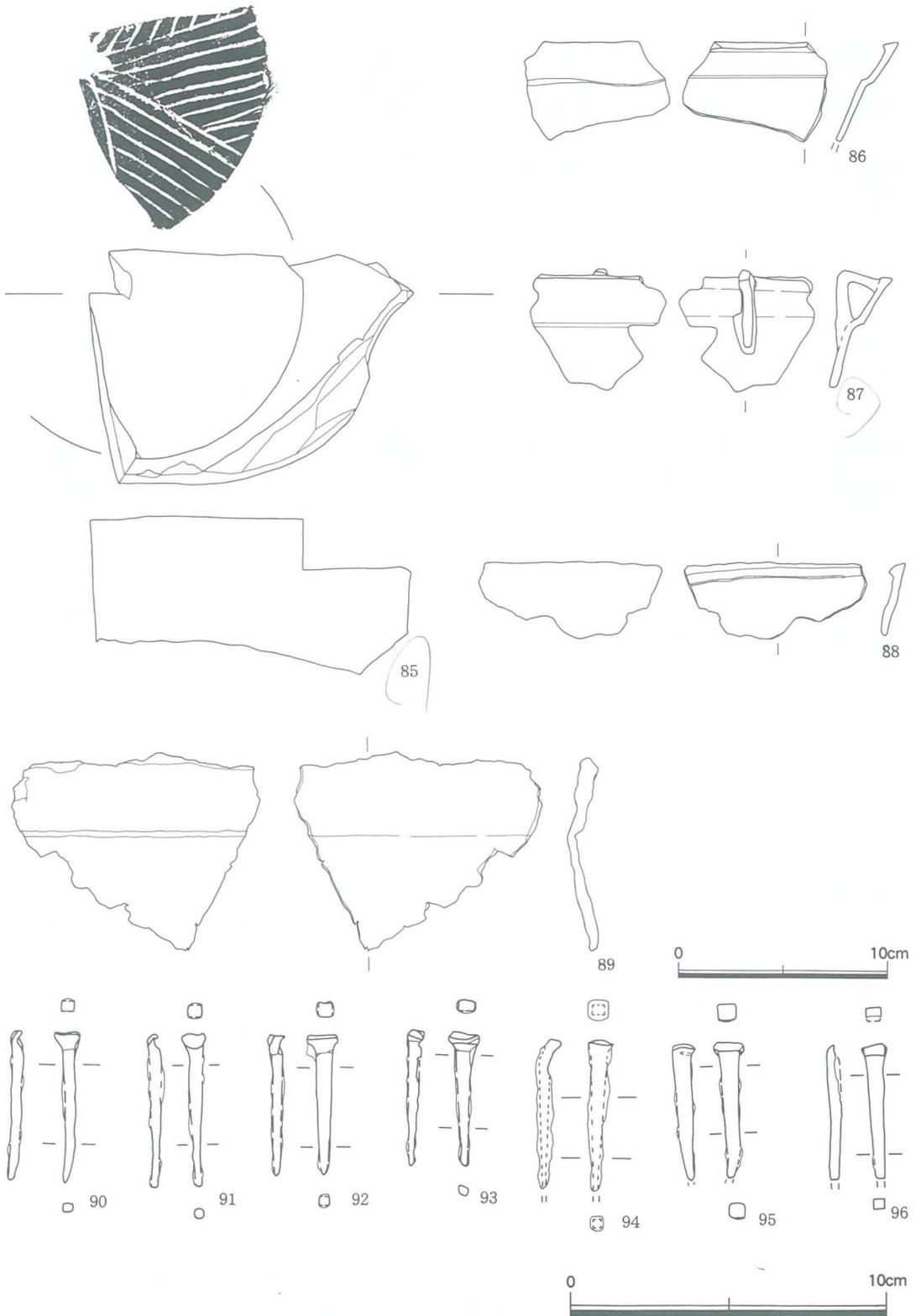
59



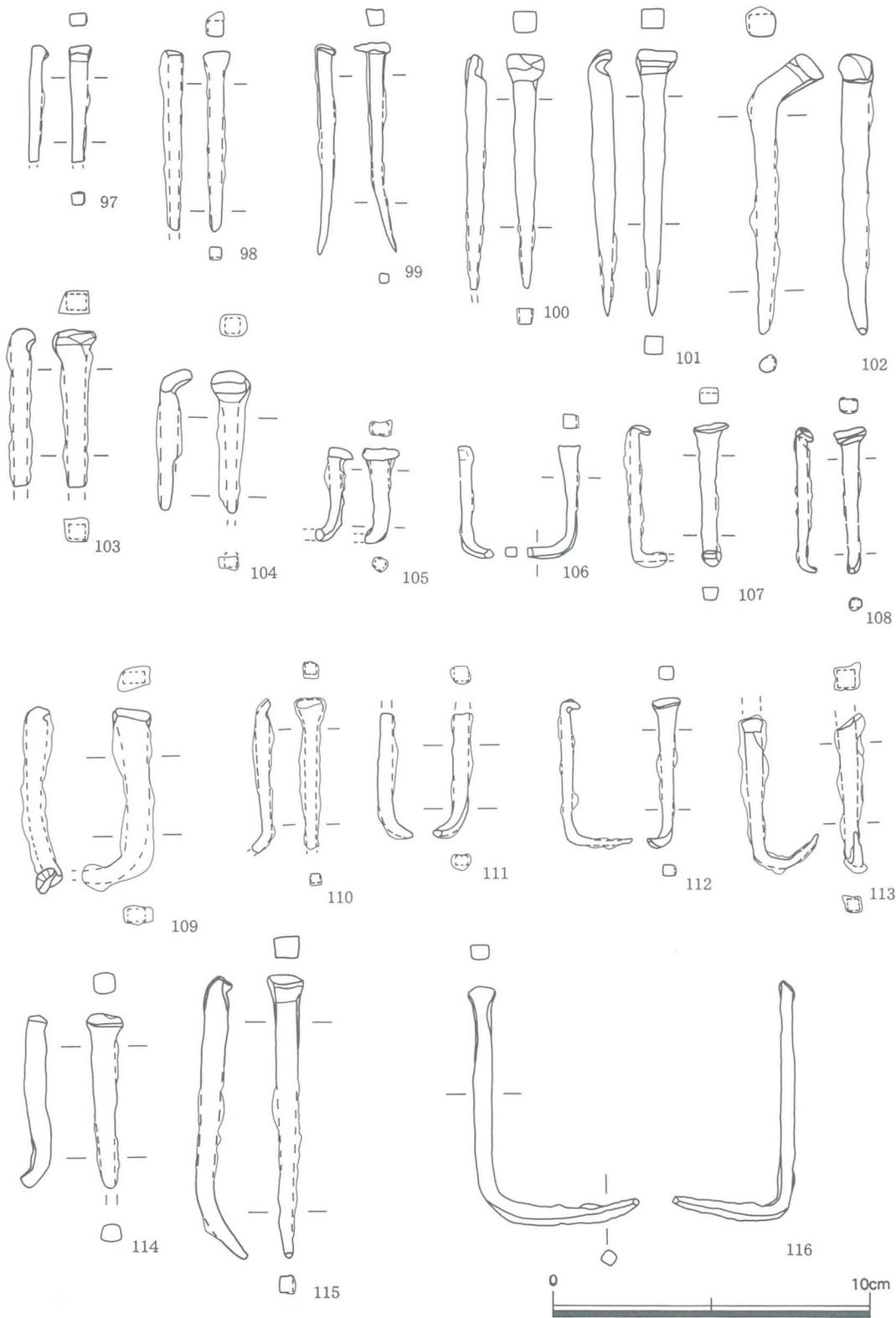
第17図 調査区出土遺物



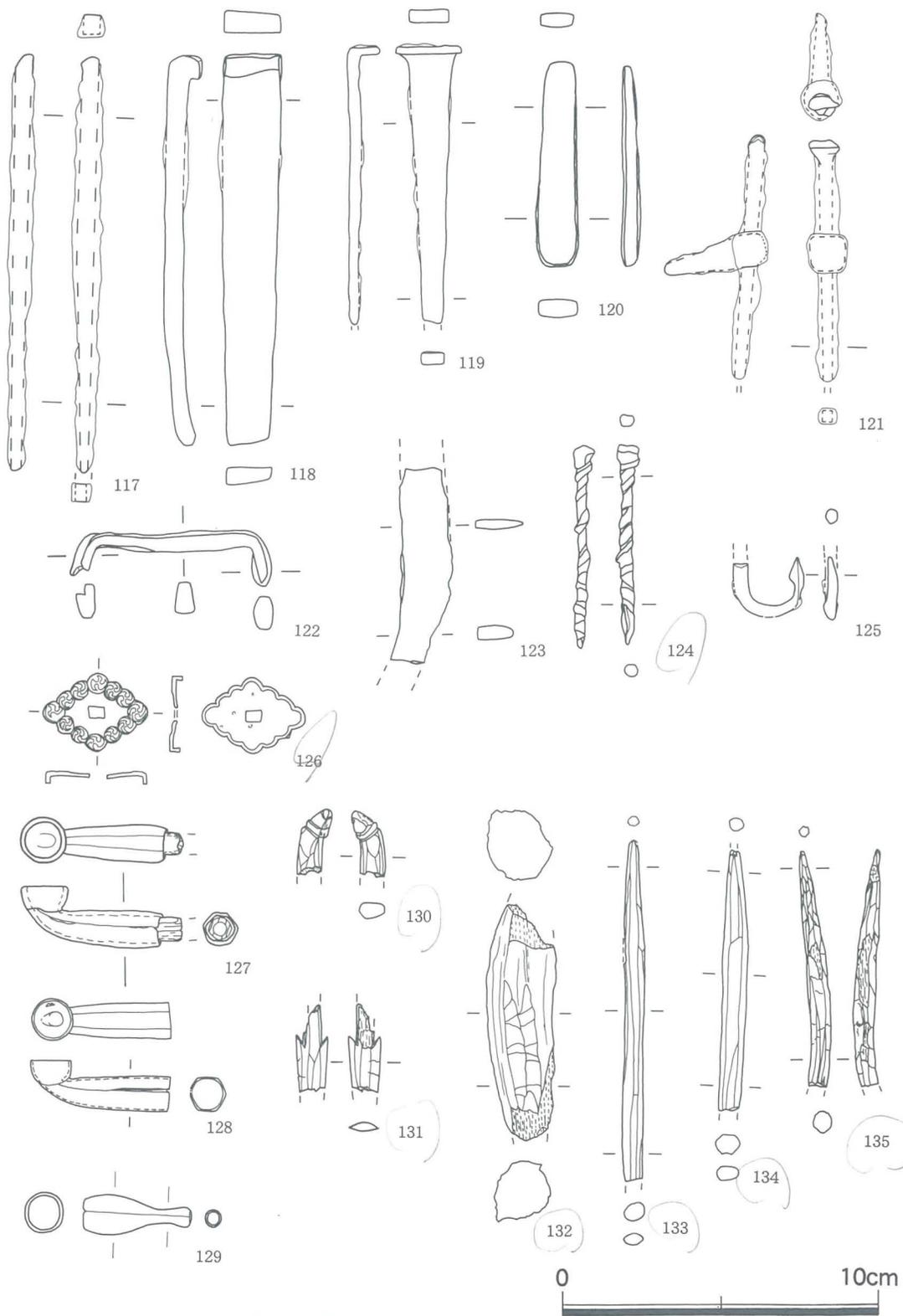
第18図 調査区出土遺物



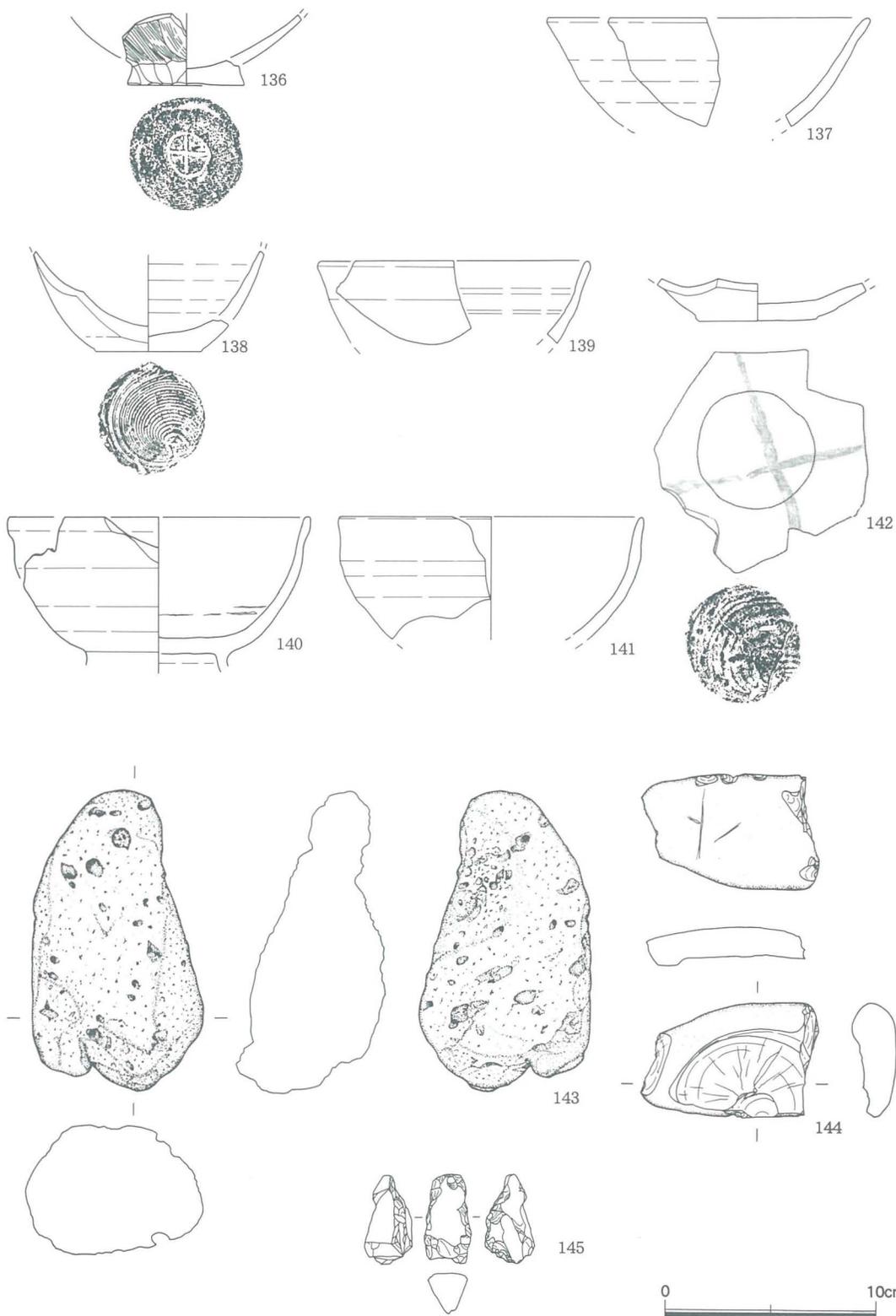
第19図 調査区出土遺物



第20図 調査区出土遺物



第21図 調査区出土遺物



第22図 調査区出土遺物

表12 遺構土壌選別表

(単位：g)

区別	種別	第50調査区							第57調査区					第63調査区			
		堅穴建物跡1	土壌1	焼土1	焼土2	焼土3	焼土9	焼土11	炭化物範囲1	炭化物範囲2	溝1	焼土1	焼土2	土壌1	焼土1	焼土2	
植物性遺物	木炭	6.5							0.4								
	米	2.4	0.1				0.4		0.7	0.3	0.4	0.3	0.1	0.2			
	クルミ	9.5				0.6			1.9			0.4	0.2	0.6			
	小豆	0.6	0.7						0.5			0.2					
	ぶどう	1.2											0.3				
	茅材								0.4								
	炭化樹皮	13.2						0.5					1.4				
	不明種子	22.7	0.6		0.6		0.9	0.8	0.7	0.3	0.3	0.5	0.9	0.3			
木片	2.4																
動物性遺物	魚骨 (椎骨・小)	1.5		1.1	0.2			0.3	0.2			0.2	0.2	0.5			
	魚骨 (耳骨)	0.7						0.5									
	歯・爪	1.3	0.2		0.2			0.3		0.2		0.4	0.5				
	不明骨 (大)	56.1	2.7							1.9		1.4					
	不明骨 (小)	131.7	2.6	1.1	1.6	1.1	1.1	10.8	64.0	2.3		2.6	1.1	0.5			
	焼骨		1.3														
	虫	0.2															
その他	不明溶解物 (粒状)	249.0	7.1	0.2	0.5	0.3	0.2	2.5	8.8	1.9	1.3	1.9	0.8	7.4	0.2		
	鍛造剥片	49.3															
	磁着石	112.0	58.8			0.9			1.2	0.5		12.7	0.9	18.5			
	焼土塊	218.8		1.3	1.4	0.8	11.5	12.2	3.1	103.8		996.1		7.7			
	錆	5.3															
	玉砂利	208.7									9.8				2.1		
	不明炭化物	249.5			0.6			0.2	0.5	0.5		21.6	0.4	1.0	0.1		
	炭	486.0	42.7	0.5	1.3	2.0	1.2	9.7	13.1	10.8	187.2	5.6	15.5	104.9	13.6	0.5	
	鉄製品	275.6	1.9	3.1			0.4	10.5	11.5	5.3			0.5				
	銅製品	63.3													0.2		
	骨角器	31.3				1.9		7.5			0.7				1.1		
	土器	22.2	13.8						3.2								
	石器	12.7	5.4						0.9	2.4							
	採取土量 (kg)		7092	352.7	2.3	4.4	6.8	13.8	43.8	89	4.5	87.7	24.1	16.4	124.9	16.1	6.8

表13 出土遺物観察表(陶磁器)

図版番号	種類	器種	軸調	胎土色調	備考	地区	層位	口径mm	器高mm	底径mm
第12図1	青磁	碗	明るい緑味灰	明るい灰	片切り彫りによる幅の広い遡弁文を施す。		28	排土	(154)	
第12図2	青磁	碗	明るい緑味灰	明るい灰			49	Ⅲ	(148)	
第12図3	青磁	碗	明るいオリーブ灰	明るい灰	二次被熱あり。		50	堅穴1	(170)	
第12図4	青磁	碗	明るいオリーブ灰	明るい灰			52	溝1	(194)	
第12図5	青磁	碗	明るい緑味灰	灰	畳付き、高台内は無軸。見込み蛇の目軸測ぎ。		20	Ⅳ		(58)
第12図6	青磁	碗	オリーブ灰	灰白	全面施軸後、高台内掻き取り。		52	I		(63)
第12図7	青磁	碗	明るい緑味灰	灰白	全面施軸後、高台内掻き取り。見込みに花文。		26	Ⅲ		(54)
第12図8	青磁	皿	明るい緑味灰	灰白			49	Ⅲ	(114)	
第12図9	青磁	皿	黄味灰	茶白	全面施軸後、高台内掻き取り。		20	Ⅲ	(120)	36 (70)
第12図10	白磁	皿	白	明るい茶灰			20	Ⅲ	(90)	
第12図11	白磁	皿	白	明るい茶灰			26	Ⅲ	(98)	
第12図12	白磁	皿	白	茶白			22	Ⅲ	(96)	
第12図13	白磁	皿	白	明るい茶灰			20	Ⅳ	(98)	
第12図14	白磁	皿	白	白			22	Ⅲ	(104)	
第12図15	白磁	皿	白	茶白			22	Ⅲ	(114)	
第12図16	古瀬戸	瓶子	明るいオリーブ灰	灰	外面に灰軸を施す。二次被熱を受ける。		52	排土		
第12図17	古瀬戸	緑釉小皿	オリーブ灰	明るい灰	堅く焼締まる。	48、50	Ⅳ	(105)	26	(50)
第12図18	古瀬戸	卸目付大皿	うすオリーブ	茶白	全面に灰軸を施す。		56	Ⅱ	(310)	
第12図19	珠洲	すり鉢		明るい灰	幅2.5cm、7条一単位の卸目。		57	排土	(290)	
第13図20	珠洲	すり鉢		灰	幅2.7cm、9条一単位の卸目。		57	Ⅲ	(250)	
第13図21	珠洲	すり鉢		灰	3cm当たり10条の卸目。口縁端部に波状文。		22		(330)	
第13図22	珠洲	すり鉢		明るい茶灰	口縁端部に波状文がめぐる。3cm当たり10条の卸目。	21、22	I、Ⅲ			
第13図23	珠洲	すり鉢		明るい茶灰	底面に静止糸切り痕が残る。指頭匠痕あり。3cm当たり10条の卸目。		20	Ⅲ		(144)
第13図24	珠洲	甕		灰	外面に3cm当たり7条の卸目。		49	Ⅲ		
第13図25	珠洲	甕		灰白	3cm当たり8条の卸目。		50	Ⅲ		
第14図26	肥前	碗	青味白	白	端反りの白磁碗。		55	Ⅱ	(102)	60 (42)
第14図27	肥前	碗	青味白	白	外面に松葉文とコンニャク印判による紅葉文。		55	I、排土	(98)	56 38
第14図28	肥前	碗	青味白	明るい灰	外面は二重網目文。		7	I	(104)	41 (53)
第14図29	肥前	碗	白	白	外面に菊花文。		6	I	(90)	49 (34)
第14図30	肥前	碗	青味白	白	内外面に連続輪文。		57	I	(86)	
第14図31	肥前	碗	青味白	白			8	I	(87)	
第14図32	肥前	広東碗	青味白	白	外面は湯立草花文。		6	I	(120)	66 (68)
第14図33	肥前	碗	白	白			8	I	(104)	55 (38)
第14図34	肥前	そば猪口	青味白	白	外面は矢羽根文。蛇の目凹型高台。		8	I		(48)
第14図35	肥前	そば猪口	青味白	白			52	I	(76)	53 (38)
第14図36	肥前	皿	青味白	白	見込みにコンニャク印判による五弁花文		6	I	(146)	28 (70)
第14図37	肥前	皿	青味白	明るい灰			8	I	(135)	43 (82)
第14図38	肥前	皿	灰白	明るい灰	内面に唐草文と扇文		6	I	(239)	36 (80)
第14図39	肥前	紅皿?	白	白			6	I	(53)	24 (20)
第14図40	肥前	紅皿	青味白	白	型打ちによる成形。		7	I	46	15 14
第15図41	肥前	皿	青味白	灰白	見込みにコンニャク印判による五弁花文。高台内に襷文。		5	I	(140)	37 (75)
第15図42	肥前	皿	白	白	見込みに山水文。		8	I		50
第15図43	肥前	皿	青味白	白	見込みに山水文。蛇の目凹型高台。		7	I		(86)
第15図44	肥前	皿	青味白	白	高台内にハリ支え痕。		8	I	(300)	44 (184)
第15図45	肥前	皿	青味白	白	見込みに松文。		8	I		(142)
第15図46	唐津	皿	灰味青	明るい灰	見込み蛇の目軸測ぎ。		8	I		46
第16図47	唐津	すり鉢	茶黒	うす茶	3cm当たり15条の卸目。		5	I、Ⅲ	(360)	
第16図48	唐津	すり鉢	茶黒	うす茶	3cm当たり12条の卸目。		8	I	(392)	
第16図49	唐津	すり鉢	暗い茶黄	うす茶	3cm当たり7条の卸目。		8	I		
第16図50	唐津	すり鉢	暗い黄茶	にぶだいたい	3cm当たり13条の卸目。		8	I		
第16図51	唐津	すり鉢	灰味茶	明るい灰	3cm当たり10条の卸目。		6	I		
第16図52	唐津	すり鉢	茶黒	うす茶	3cm当たり9条の卸目。		8	I		
第17図53	備前	すり鉢		灰白	3cm当たり9条の卸目。		56	排土	(330)	
第17図54	越前	甕	灰味茶	うす茶	内外面に鬼板を施す。肩部にスタンプを押す。		5	I	(310)	
第17図55	瀬戸・美濃	碗	白	白			5	I	(88)	37 32
第17図56	肥前?	盃	白	白			8	I	65	43 32
第17図57	関西系	土瓶蓋	黄味灰	明るい茶灰			8	I	77	57
第17図58		雪平鍋		うす黄だいたい			8	I	(96)	
第17図59	東北系	徳利	黄味灰	灰			8	I	40	
第22図136	播文土器	坏		うす黄茶	底面に○に十のヘラ書きあり。		50	V		54
第22図137	土師器	坏		明るい黄だいたい	ロクロ成形。		57	V	(156)	
第22図138	土師器	坏		うす黄だいたい	ロクロ成形。回転糸切り痕あり。		57	V		(50)
第22図139	土師器	坏		茶白			52	Ⅵ	(130)	
第22図140	土師器	坏		茶白	ロクロ成形。内黒土器。		57	V	(142)	
第22図141	土師器	坏		うす黄だいたい	ロクロ成形。内黒土器。		57	Ⅳ、V	(146)	
第22図142	須恵器	坏		明るい灰	底面～体部にかけて十文字の火だすきの痕跡あり。ロクロ成形。回転糸切り痕あり。		57	Ⅲ		56

表14 出土遺物観察表（鉄製品他）

図版番号	器種	備考	地区	層位	長さmm	厚さmm	幅mm	重さg
第19図85	茶臼		20	Ⅲ				
第19図86	鉄鍋	口縁部分。	56	Ⅱ	47	7	66	40.7
第19図87	内耳鍋		47	Ⅱ	64.0	59.5	4.0	40.6
第19図88	鉄鍋	口縁部分。	50	堅穴1	42	7	88	43
第19図89	鉄鍋	口縁部分。	50	土壌10	95	9.5	119	120.7
第19図90	折釘	一寸五分	50	Ⅲ	46	4	4	2.2
第19図91	折釘	一寸五分	50	Ⅲ	47	4.5	4	2.4
第19図92	折釘	一寸五分	50	Ⅲ	43.5	5	4	2.5
第19図93	折釘	先端部欠損。1寸五分	50	土壌2	42	7	3.5	2
第19図94	折釘	一寸五分	50	堅穴1	47.5	5	7	2.5
第19図95	折釘	先端部欠損。	51	V	42.5	6.0	6.5	4.0
第19図96	折釘	頭部の一部と先端部を欠損。	50	Ⅲ	45	5	3	2.4
第20図97	折釘	先端部欠損。	50	堅穴1	36	6	4	3.3
第20図98	折釘	一寸五分	50	堅穴1	56	5.5	7.5	4.4
第20図99	折釘	先端部がやや湾曲する。	51	土壌1	65	5.5	4.5	3.9
第20図100	折釘	二寸	50	Ⅲ	73	7	6	10.6
第20図101	折釘	三寸	50	Ⅲ	83	7.5	6.5	15
第20図102	折釘	三寸。頭部から20mmのところまで曲がる。	50	堅穴1	88	10	10	20.4
第20図103	折釘	先端部を欠損。	50	堅穴1	50	8	10	9.6
第20図104	折釘	先端部を欠損。	50	Pit52	44	13	12.5	5.7
第20図105	折釘	頭部から2.5cmのところまで90°曲がる。	50	IV	29.0	10.0	4.5	2.7
第20図106	折釘	頭部から3.5cmのところまで90°曲がる。	50	Ⅲ	34.5	5.5	4.5	2.6
第20図107	折釘	頭部から4cmのところまで90°曲がる。	50	土壌2	45	5	4	3.9
第20図108	折釘	先端から5mmのところまで曲がる。	50	Ⅲ	45.2	5.5	5.0	3.0
第20図109	折釘	二寸。先端から20mmのところまで曲がる。	50	堅穴1	57.5	9.5	12	9.4
第20図110	折釘	先端部欠損。頭部から4.3cmのところまで45°曲がる	50	Ⅲ	47.5	5.5	5.0	3.7
第20図111	折釘	頭部を欠損。先端から9mmのところまで90°曲がる。	50	堅穴1	41	6	6	2.9
第20図112	折釘	頭部から4cmのところまで90°曲がる。	50	Ⅲ	45	5	3	3.6
第20図113	折釘	頭部から4.5cmのところまでやや上方に向かって曲がる。	50	土壌2	48.5	8	7	5.3
第20図114	折釘	一寸五分。先端部が曲がる。	50	堅穴1	55	6	8.5	7.3
第20図115	折釘	三寸。先端から20mmのところまで曲がる。	50	堅穴1	89	8	7	14.1
第20図116	折釘	四寸。先端から55mmのところまで90°曲がる。	57	Ⅱ	75	4.5	6	14.2
第21図117	折釘？		57	Ⅱ	131	8	9	20.1
第21図118	平釘	四寸	50	Ⅲ	122	18	6	57.4
第21図119	平釘	三寸	50	擾乱	87	13	4	16.2
第21図120	平釘	頭部を欠損。	56	Ⅱ	64	6	13.5	13.7
第21図121	折釘と壺金	二寸。壺金に折釘を通す。	57	Ⅱ	76	14	33	11
第21図122	鏝		56	排土	64	6	10	19.7
第21図123	刀子	先端と柄を欠損。	42	I	61.8	18	4	12.1
第21図124	火ばし	全体に捻りが入る。火ばしの先端か。	50	Ⅲ	63	4	4	3.6
第21図125	釣り針	全体が湾曲し、先端にかえしがつく。	50	土壌2	14	3.5	4.5	1.3
第21図126	金具	箆笥などに使われる金具か。	50	堅穴1	33	24	1.5	4.8
第21図127	煙管	雁首部。柄の一部分が残る。	57	Ⅱ	45	12	11	11.2
第21図128	煙管	雁首部。	57	排土	44.5	10	12	7.1
第21図129	煙管	吸口部。	63	I	43.5	10	10	5.4
第21図130	骨角器		20	Ⅲ	20	5	8	
第21図131	骨角器・鏝		50	土壌2	27	3	10	
第21図132	骨角器	鹿の角を加工。未成品か。	52	溝1	73	21	22	
第21図133	骨角器・中柄	一部欠損。	20	Ⅲ	16	5.5	7	
第21図134	骨角器・中柄	一部欠損。	20	焼土範囲	82	6	8	
第21図135	骨角器・中柄	一部欠損。被熱する。	50	土壌2	74	6	7	
第22図143	石器	軽石	52	排土				
第22図144	石器		44	I	85	14	54	
第22図145	石器		52	I	42	19	18	

表15 鉄製品集計表

器種	破片数	重さg
角釘	90	444.7
平釘	7	184.6
釣針	1	1.3
刀子	7	49.7
火箸	2	7.2
内耳鍋	2	81.2
鉄鍋	28	1089.6
鉄板	2	14.8
鉄滓	21	1598.3
スラッグ	4	136.6
楔	1	92.8
丸釘	41	135.9
ねじ	1	2.4
不明	52	835.4
合計	259	4674.5

表16 出土遺物集計表（銅銭）他

器種	調査区													総計	
	初録年	3	20	21	27	41	42	44	49	50	51	52	55		57
開元通宝	621	2								3		1			6
淳化元宝	990									2					2
咸平元宝	998									1					1
皇宋通宝	1038									3				1	4
嘉祐元宝	1066									1					1
治平元宝	1064									1					1
熙寧元宝	1068									3					3
元豊通宝	1078									2	1	1			4
元祐通宝	1086													1	1
紹聖元宝	1094													1	1
元符通宝	1098									1					1
聖宋元宝	1101									4					4
皇宋元宝	1253													1	1
洪武通宝	1368									1					1
永樂通宝	1403									2					2
寛永通宝(古)	1636	1						1		2					5
寛永通宝(新)	1697				1	1	1	1	2	16		3	1	4	30
不明・その他			2	1						43					47
総計		3	2	1	1	1	1	2	2	85	1	5	1	10	115

表17 出土遺物観察表（銅銭）

図版番号	器種	初鋳年	地区	層位	備考
第18図60	開元通宝	621	50	土壌2	
第18図61	開元通宝	621	50	竪穴建物跡1	
第18図62	咸平元宝	998	50	竪穴建物跡1	
第18図63	皇宋通宝	1038	50	竪穴建物跡1	
第18図64	治平元宝	1064	50	Ⅲ	
第18図65	熙寧元宝	1068	50	Ⅲ	
第18図66	熙寧元宝	1068	50	Pit24	
第18図67	元豊通宝	1078	51	Ⅲ	
第18図68	元豊通宝	1078	52	Ⅳ	
第18図69	元豊通宝	1078	50	排土	
第18図70	元祐通宝	1086	57	I	
第18図71	紹聖元宝	1094	57	排土	
第18図72	元符通宝	1098	50	Ⅲ	
第18図73	聖宋元宝	1101	50	Ⅲ	
第18図74	聖宋元宝	1101	50	Ⅲ	
第18図75	皇宋元宝	1253	57	Ⅱ	背面に三の字
第18図76	洪武通宝	1368	57	Ⅲ	
第18図77	永楽通宝	1403	50	竪穴建物跡1	
第18図78	寛永通宝（古）	1636	50	Ⅱ	
第18図79	寛永通宝（新）	1668	3	土壌6	文銭
第18図80	寛永通宝（新）	1697	49	I	背面に元の字
第18図81	寛永通宝（新）	1697	50	排土	背面に足の字
第18図82	寛永通宝（新）	1697	50	I	
第18図83	寛永通宝（新）	1697	52	排土	裏に星
第18図84	寛永通宝（新）	1697	52	排土	裏に元の字

### Ⅲ 小 括

ここでは今回の調査で検出した中世の銅銭の出土傾向について概観したい。

今回の調査は分布調査であり、ごく限られた範囲での部分的な調査であるからここで結論を出すというわけにはいかない。しかし限られた調査範囲であるのにも関わらず中世銅銭の分布に明らかな偏りが見られ、また過去に発見された多量の銅銭との関わりも考えられる。

今回の調査で出土した銅銭で寛永通宝と不明・その他を除く33枚のうち26枚が第50調査区で出土している。また残りの銅銭も第50調査区よりも旧目名川に近い調査区で出土している。第50調査区を中心として旧目名川の付近に分布しているといえる。

これらの銅銭が出土した調査区は「Ⅰ調査の概要」で述べた約2500枚の銅銭が発見された地点とは約100m離れた位置にある。この距離と第41調査区など銅銭や中世遺物が出土していない地点を挟んでいるのでいささか疑問の余地はあるが第50調査区で出土した銅銭と全く関係がないわけではないであろう。

15世紀の道南地方において貨幣経済がどれほど浸透していたかが問題であるが、この場において

貨幣を媒体にした交易が行われていたと考えても不自然ではないであろう。15世紀の時点で当調査範囲がどのような位置におかれていたかがわからない現段階では憶測に過ぎないが、第50調査区付近で行われた交易のために先に発見された銅銭が一時的に貯蔵されていたとも考えられる。

交易が行われていたとすれば具体的に誰がどんな交易を行っていたかが問題になる。第50調査区における鉄製品の出土重量が全調査区での出土重量の62%を占めること、竪穴建物跡の周囲に焼土や炭化物範囲が多いことなどにそのヒントが隠されているのかもしれない。

ごく狭い範囲の調査にも関わらず、遺物や遺構がはっきり確認できる地点とほとんど全く確認できない地点や、遺物が確認できたとしてもその中の種別構成に大きな変化が見られる調査範囲があるなどトレンチとテストピットのみでの調査では今後解明すべき多くの点を残すのみとなってしまった。来年度においても竪穴建物跡を検出した第50、第51調査区や第52、57調査区周辺において調査を行う予定である。昨年度、今年度の調査で明らかにし得なかった洲崎館跡の実像について更なる調査、検証を続けていきたい。（三浦英俊）

## IV まとめ

2カ年にわたり、洲崎館跡の広がり、構造把握のため、館内外の調査を行ってきたが、当初予想したことは大幅に違っていった。調査区を概観すると、(以下調査区については附図1、第2図参照)第1～3区の土塁と目されていた箇所調査では、この土塁の上面、及び斜面での人為的な構築の痕跡が全くないこと。薄く堆積しているⅡ層、Ⅲ層面の遺構、遺物が皆無なこと、その下の砂層はⅣ層であり極めて厚い堆積であることから中世以前に発達した砂丘であることがわかった。またこの土塁から砂館神社西側の砂丘は当初連続していたものと考えられる。すなわち、神社西側が砂丘、東側はこの土塁状の砂丘となっており、拝殿横の第38、39区の土層堆積ではⅠ層の下部にⅡ層及びKo-d、Ⅲ層がなくⅣ層のみであること。後方部の本殿も周辺地形から1m以上削平している。このことは「…安永戊戌七 冬十二月西部上國毘舍門堂<sub>2</sub>拜殿災。女奈呂長自殺。」(福山秘府)。さらに砂館神社棟札には「安永七<sub>戊戌</sub>年 奉建立毘沙門天王假殿成就所」、「安永八<sub>己亥</sub>年 奉建立毘沙門天王本殿一字成就所」とあり、1778年に焼失後翌年本殿が再建されており、文献とも符合してくる。またこの土塁状砂丘はさらに第53、54区まで連続して東側に延び、神社西側砂丘と同一のものと考えられる。また神社北側の砂丘の調査も行った。第32～37区である。ここは毘舍門堂があった場所との言い伝えがあるところであるが、遺物、遺構は確認されていない。文献では「建立天河之洲崎之館之北於毘舍門堂抑承此毘舍門天王現來之縁起寛正三年夏有天河館之西海遥沖夜々光物…」(新羅之記録)、「寛正三壬午松前年代記日、是歳夏、圓僧院秀延阿闍梨抓<sub>レ</sub>藻得二毘舍門金像<sub>一</sub>。因信広造<sub>三</sub>立堂於<sub>二</sub>上國天河<sub>一</sub>」(福山秘府)とあり、福山秘府ではその位置は上國天河の記述のみであり、新羅之記録では洲崎館の北に毘舍門堂を建てるとあり、明確な位置を示している。しかしこの洲崎館の実際の中心位置が不明であり今後の課題である。第4～8区で調査前、空壕の存在を想定したが、確認されなかった。中近世遺物もなく、近代に至るまで人為的痕跡はない。尚第31区土層堆積により、海岸へ至る道はⅠ層からの掘りこみを持つ近現代の道であることが判明した。

一方神社西側の砂丘の頂部である第20～28区では青磁、白磁や茶臼が出土し、焼土も検出されている。しかし柱穴は検出されず、また遺物数も少なく生活痕跡があまり感じられない。これらの砂丘地帯では遺物、遺構が皆無か、あっても遺物がわずかという状況である。一方第46区～52区、第57区、第63区は中世遺物が少ないながらも、柱穴、土壇、竪穴建物跡が検出し、生活の痕跡が見える。第50区では中世生活面であるⅢ層で2回、Ⅳ層で1回の時期の柱穴群が確認できた。Ⅲ層後半時期の柱穴は柱痕が4寸～5寸であり、密集しているのに対し、Ⅲ層前半、Ⅳ層では密集度は低いが、柱痕が8寸程と大きい。建物の種類によるのか、規模によるのか不明である。またⅢ層面前半期にて竪穴建物跡が検出された。その規模も大きい。町道を挟んだ砂館神社の向かいの畑地内の第52区、第57区でもⅡ層～Ⅴ層の遺構、遺物が検出された。人為的痕跡が50区と同様濃厚な地区である。両区とも西側部分では神社西側からの砂丘の張り出しにより、砂層の堆積はやや厚いが、基本的に第50区、第52、57区付近ではその堆積は極めて薄い。第55、56区からも中世遺物が出土している。これらから見るとその居住空間は砂丘地帯ではなく北西や西の季節風をさえぎる砂丘のかげである第50、52、57区を中心とした平地部分であるといえる。また第63区からも柱穴や土壇、青磁、白磁が検出されている。当初、洲崎館を中心とした町場の広がりには向浜地区の可能性が濃厚と考えていたが、このことからこれら中世の遺構や遺物の広がりにはさらに東側に延びていくと考えられる。そしてそれは町道の左右に広がりを持ちながら国道228号線付近あるいはそれを越えて延びて行く可能性がある。一方第52、57、55区は町道の南側に並走している昭和20年代まであった旧目名河に沿っている。目名河から天の川河口部、海まで数分の距離であること、砂丘が北西風をさえぎってくれること、さらには天の川河口部が現位置より接近していた可能性もあり、絶好の交易空間であった可能性も考えられる。来年度第50区周辺を平面的に調査する予定であり。そのことによりこの地区の全容が見え、性格付けが出来ると考えられる。

(齊藤邦典)

表18 出土遺物集計表（陶磁器他）

調査区	層位	器種																			合計		
		青磁	白磁	青花	古瀬戸	大瀬戸	珠洲	越前	備前	信楽系	唐津	肥前	近世瀬戸	銅製品	土師器	須恵器	石製品	縄文	撥文	近代以降		漆	不明
2	I																			1			1
3	I										1									4			5
4	I										1									1			2
5	I																						2
6	I										1	14	123	1						967		4	1111
7	I							1		1	9	80								159		2	251
8	I										33	118								476		1	628
10	I										39	125								2178		19	2361
12	I																			16			16
13	I																			1			1
14	I																			2			2
20	I	1																		3			3
	III	2	1				1									2				2			6
	IV	1	1																				2
21	I						3					1											4
	II	1																					1
22	I																			3			3
	III						12				1												36
	排土		5				1				1												7
26	I						4																4
	III	3	1																				4
	排土						1																1
28	排土	1																					1
31	I									1	2									14			17
34	I																			2			2
42	I														1								1
	III														4								4
44	I									1	1									9			11
45	I										1									3			4
	排土										1												1
46	I																			7		1	8
	III						2																2
	V																		2				2
	VI																	1					1
	Pit1																			1			1
47	III										1												1
48	I																			9			9
	III			1																			1
49	III	2					1																3
50	I	25		1		1			1	8	31		1						66		4	138	
	II									1									11				12
	III	19		1		6					3		1						3				33
	IV					2																	2
	V					1												1	15				17
	Pit6	1																					1
	Pit15																			4			4
	Pit16																			1			1
	Pit18																				1		1
	Pit34																			1			1
	Pit39	1																		1			2
	Pit60																			1			1
	Pit64	1																					1
	Pit66	3																					3
	Pit71	1				2														1			4
	焼土11																		1				1
	焼土範囲									2													2
	堅穴1	16		2		1							5							4			28
	土壌1																			8	1		9
	土壌11																			2			2
	攪乱	1									1		2										5
	排土	8		2						2	4									4	2		22
51	I	2	4				1			1	5	46	2							1	36		99
	III						1													2			3
	IV						1																1
	V																		8				8
	Pit1																			2			2
	Pit6																			3			3
	Pit12																			1			1
	攪乱2			1							2												3
	攪乱5		1								1												2
	溝1										1												1
	排土		4							1	30	1										1	37
52	I	8	1		1					1	4	71			1					4	51		142
	III																			3			3
	IV																			5			5
	V																			8			9
	VI																			6			6
	堅穴1																			8			8
	溝1	1									1									1			3
	炭範囲																			1			1
	排土	3	1								3				1	1				7			16
55	I			2		1				21	66	1								5			96
	II		4	1						2	18	1	3			1				8			38
	堅穴	1	1	1	1					2	5				1								12
	排土										13												13
56	I									7	32	2				2				3	16		62
	II	1	1	1	1		1	1	1		20	76		5	2					5	11	1	127
	III																			7			7
	排土								1		6	17				1					8		33
57	I	1	4	1						72	83	7	4							2			175
	II				2	1	1			14	23	3	3	1	1					1			50
	III						5			4	4					2				3			18
	IV						1			1					1					1			4
	V						1								5			1		30			37
	VI														3					14			17
	Pit18																			1			1
	Pit15						1																1
	攪乱	1								5	3	2											11
	排土		3				1			51	41	2	1							1			100
58	I										1									6			7
62	I																			1			1
63	I	7	1				1			1	11	44	2	1						52		1	123
	Pit1	1																					1
	攪乱			3			2				4	7								1		16	34
	排土	2					1				3	14	1	1						1	14		38
その他表等																					9		9
		115	56	9	13	2	56	2	3	6	344	1096	25	2									

# 比石館跡内外分布調査

## I 調査の概要

### 1. 調査の経緯

道南12館のひとつである比石館跡は15世紀の半ばに渡道したと伝えられている厚谷将監重政が築いたとされる館跡である。上之国勝山館跡から直線距離にして約13kmほど南の字石崎地区を流れる石崎川の河口に突き出た長さ幅300m、幅約60m、標高約20mの岬に位置する。

比石館の成立や内部の様子は記録に残されておらず、不明である。

長禄元年(1456)年、コシャミン戦いの際に攻められた比石館は陥落し、手傷を負った重政も石崎川の急流に身を投じたと伝えられている。その後の比石館がどうなったかは不明であるが、成立から終末までそれほど長い期間存続していたわけではないようである。一方、厚谷家は永正11年(1514年)に蛸崎光広が松前大館に移った際に一緒に移り、代々松前藩の中堅の家臣として仕えたと伝えられている。

現在の比石館跡には岬の中央に守護神である経津主命を祀る館神社があり、地元の人に「館神さん」と呼ばれて親しまれている。館神社の後方には石崎灯台が建つ。また石崎川河口に突き出た形の岬によって囲まれた場所は港としても良好であり、昭和9年には岬にトンネルを開け、東洋唯一のトンネル式漁港として竣工した。現在の石崎漁港は防波堤が整備されており、トンネルは使用されていないが残されている。また日本海側の断崖は脆く、暴風雨などによって削られることがある。

調査対象となる岬は比石館跡と伝えられてきており、16世紀台の陶磁器も表面採取によって得られていた。また岬の先端に通じる道路がもっとも細くなる地点は元来は窪んでいたが現在は石積みがされている。上辺の幅11m、深さ3m50cm程度の規模を持つ堀跡ではないかと考えられている。しかし、過去に発掘調査が行われたことはなく、実際の比石館の姿は捉えられなかった。そこでトレンチとテストピットによる分布調査を行って実際の比石館を確認することとした。

### 2. 調査の方法

遺跡内の任意の箇所に1~2m×3~4m程度のトレンチ、あるいは1~2m四方程度のテストピットを設定し、必要に応じて拡大した。調査区名は調査に着手した順に第1調査区、第2調査区...とした。調査は遺構を確認しつつ可能な限り掘り下げ、土層堆積状況や遺構等を実測、写真撮影によって記録した。土壌、焼土などの遺構の覆土はできるだけ全量採取し、後日フローテーションをおこなって選別した。遺物はI層のものは一括して取り上げ、II層以下のものは層位ごとに平板で取り上げた。

### 3. 調査の経過

平成12年7月27日 調査開始。第1調査区を設定。  
平成12年8月24日 第5調査区で礎石を確認する。礎石の全容を確認するために調査区範囲を拡大したところ土壌2基を確認する。後の調査で土層墓であることが判明する。

平成12年9月5日 第5調査区で火葬墓1基を確認する。

平成12年9月11日 第14調査区で空壕を確認する。

平成12年9月22日 第14調査区の空壕の西側の延長を確認するために第16調査区を設定するも空壕を確認できず。

平成12年9月30日 現地説明会を開催する。

平成12年10月2日 全地区を埋め戻して調査を終了する。

### 4. 基本層序

I層 10YR2/3暗褐色 シルト 表土層

II層 黒褐色土 駒ヶ岳D火山灰(Ko-d)を含む層である。

III層 褐色 中世末期頃とみられるの整地層がある。

IV層 黒褐色~暗褐色 シルト

V層 10YR3/3暗褐色

VI層 ソフトローム層

VII層 ハードローム層~基盤礫 (三浦英俊)

## Ⅱ 調 査

### 1. 調査区

第1調査区（第23図）館神社の北側に設定したトレンチである。崖崩れ防止のための防護ネットによる工事で若干の攪乱が見られたが削平された様子もなく、遺構の保存状況は良好である。Ko-dを含んでいるⅡ層以下から柱穴、焼土、溝跡を検出した。調査可能な範囲の関係上、明確な建物跡を検出することはできなかった。唐津焼の碗や、瀬戸・大窯の天目茶碗がわずかに検出されている。

第4調査区（第24図）岬の南に広がる平坦地に長さ約60mの調査区を設定し、3ヶ所に分けてそれぞれ東から第2調査区、第3調査区、第4調査区とした。第2調査区ではⅡ層を確認することができず、表土の直下にⅣ層が広がっていたので多少の削平を受けたことが考えられる。第3、第4調査区ではKo-dを平面上で斑点状に確認できたので削平などの改変は無いようである。しかし、遺物、遺構は検出しなかったので当地における土地利用はなされなかったようである。

第5調査区（第25図）岬の根本に当たる部分に設定した調査区である。Ko-dの直下から砂利敷きの礎石建物跡と考えられる礫群と土葬墓2基、火葬墓1基を検出した。土葬墓、火葬墓ともにマウンド状の封土や墓標などの墓の存在を知らしめる施設は確認できなかった。調査範囲外にも土壌墓群が広がる可能性がある。本調査区では礎石建物跡に伴う砂利の上と火葬墓内以外はKo-dは残存していなかったが後世の攪乱などはないようである。遺物は土葬墓、火葬墓内で検出した陶磁器、鉄釘、銅銭のみである。

(1) 礎石建物跡（第27図）第5調査区内やや北寄りに位置する。縦横約30～50cm程度の板石を縦横4枚づつ並べて方形をなす。さらに北側の辺に一回り小さい板石を5枚並べる。このような配石状況から北側が正面と考えられる。方形に並べた板石の内外に砂利を敷くが内側と外側で使用される砂利は大きさが異なっている。外側に敷く砂利は1～3cm程度の比較的小さいものを使用し、外側はそれらより一回り大きなものを使用している。外側の砂利の範囲は南北約2.8m、東西約3.6mである。

外側の砂利敷きの直上に比較的多量のKo-dを

被っており、1640年の時点で砂利敷きが地表に露出していたことが伺える。また内側の砂利敷きと板石にはKo-dはみられなかったので1640年時点には何らかの建造物が建っていたと考えられる。この遺構に伴う遺物は検出していない。

(2) 土壌1（第25図）礎石建物跡の南西に位置する土葬墓である。長軸132cm、短軸76cmの長方形で、深さは47cmである。マウンド状の封土、ないしは墓標などの施設は確認できなかった。出土遺物は瀬戸・大窯の端反皿と青花の皿、政和通宝1枚、判読不明のもの4枚であり、2枚ないしは3枚に重なって出土した。なお人骨は検出していない。

(3) 土壌2（第25図）礎石建物跡の北東に位置する。土壌の一部は礎石建物跡の板石や砂利敷きと重複しており、礎石建物に先行する。長軸116cm、短軸71cmの長方形で、深さは43cmである。判読不可能な銅銭が7枚と至道通宝が1枚であり、2枚ないしは3枚重なって出土した。また銅銭と重なるようにして木片が残っており、この土葬墓が木棺墓であることが伺える。なお人骨は検出していない。

(4) 土壌3（第26図）礎石建物跡の南西に位置する。長軸140cm、短軸108cmのやや丸みを帯びた方形であり、深さは50cmである。祥符通宝かと思われるものが1枚、嘉祐通宝1枚、聖宋通宝1枚、洪武通宝3枚、永樂通宝1枚、判読不明のもの14枚など銅銭21枚が出土している。土壌1と同じく封土や墓標は見られず、砂利がわずかに敷かれていた。本土壌は他の2基の土壌とは違い火葬墓である。検出面上から細かく砕けた焼骨、炭化物、焼けた礫が露出して、火葬施設を兼ねていたと考えられる。また土壌の底面付近からKo-dを検出しており、本地区で検出した遺構の中でもっとも新しい遺構であるといえる。

第11調査区（第23図）館神社の北側、今回の調査でもっとも岬の先端に近い位置に設定した地区である。本地区には当初から一辺6～7m程度の方形の窪みがあり、周辺で表面採集によって縄文土器片が得られていた。また地元の人の話では以前は人頭大の石を方形の窪みの壁にそって組み上げた施設が露出していたが、何のためのものかわ

からないとのことであった。

トレンチによる調査ではKo-dを切って窪みを造り、壁際にそって人頭大、あるいはそれ以上の大きさの礫を積み上げていることが確認できた。積み上げた礫の間などから江戸時代末期～明治時代の陶磁器が出土しており、この窪みも19世紀後半頃に作られたものと考えられる。

(三浦英俊)

#### 第6調査区(第23図、附図2)

館神社に至る御代参道路に直交して調査区を設定した。ほぼ平坦部であり、建物跡等の遺構の検出が予想された。土層堆積図によると、Ⅲ、Ⅳ層掘りこみによる柱穴が確認されている。遺物は唐津、16世紀末～17世紀初頭美濃鉄釉碗出土。

#### 第7調査区(第24図、附図2)

館神社正面の御代参道路は神社前に来ると道路を中心にして播鉢状となっている。そのため道路中央部はやや削平されているのではないかの想定で、道路よりやや東側に調査区を設定した。その結果、十数基の柱穴、土壌が検出された。柱穴はⅢ層面からの掘りこみであり、柱の太さは3寸と5寸の2種類がある。土層堆積ではSPA～A'ではⅡ、Ⅲ層が削平されていてⅣ層、Ⅵ層のみであるが、SPB～B'ではB'側が土の保存状態は良好であった。遺物は美濃灰釉皿、青花等16世紀遺物出土。

#### 第7調査区土壌1(第24図)

220cm×150cm、深さ70cmである。Ⅲ層掘りこみ。中央部、覆土から骨角器の中柄、永楽通宝、嘉祐通宝、煙管、鉄製品、青磁稜花皿が出土している。尚フローテーションにより直径8mm、厚さ5.5mm、中央部直径2.8mmの穿孔がある明るい青の色調を持つ玉が3点、直径3mm、厚さ3mmで中央部に1.5mmの穿孔があり、色調は暗い青紫の玉1点、直径4mm、厚さ2.8mm、中央部に1.5mmの穿孔がある暗い紫の玉1点が検出されている。

尚、四隅に直径10cm程の柱が内側に打ちこまれている痕跡有り。

#### 第8調査区(第24図、附図2)

土層堆積から見るとⅠ層以下は7.5YR4/3～4/4褐シルトに白色微小礫が含まれる比較的密な土壌であり、プライマリーな土層堆積ではない。そのため土層観察面及び平面で2つの溝及び柱穴が確認されているが、時期的な把握ができない状況で

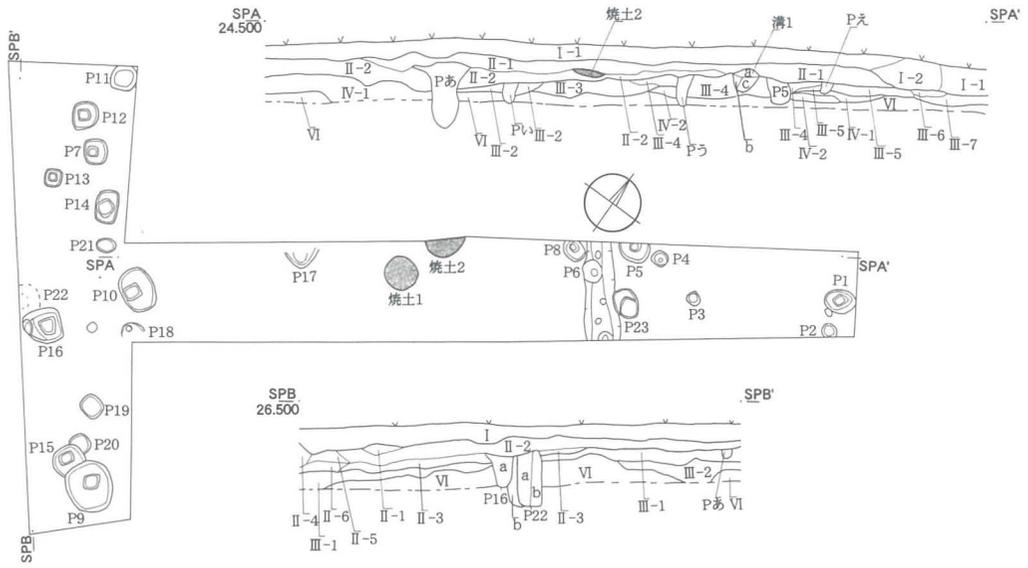
ある。遺物も溝2覆土から石器1点のみ。

#### 第14調査区(第24図、附図2)

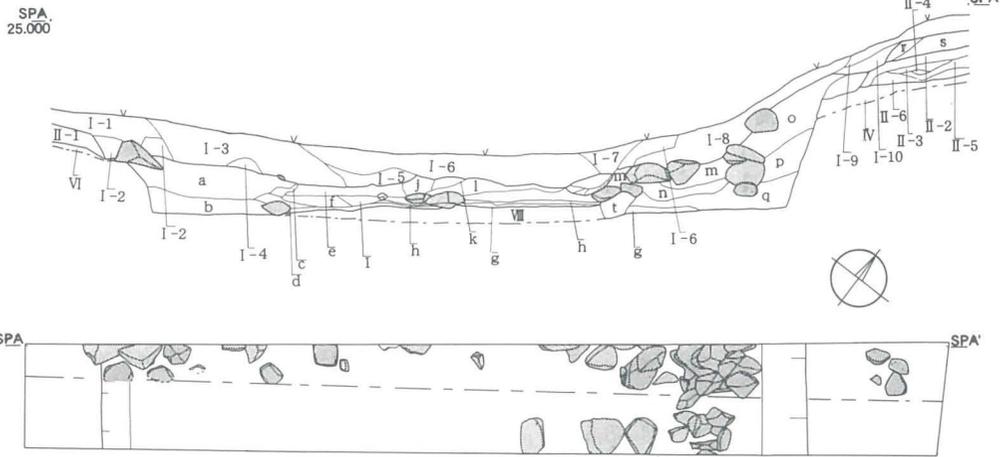
館神社へ至る途中、ほぼ中間地点で、車1台がやっと通行できるほどの道幅が極めて狭くなる箇所がある。空壕があったと考えられている箇所である。現在この箇所は道路左右の崖部分には表面がコンクリートで塗り固められており、調査不可能の状態になっている。そのためその箇所を過ぎ緩斜面を上りきった東側の平坦部及び緩斜面に調査区を設定した。この狭くなった箇所に空壕があるのならば、それに伴う防衛的な施設の存在、あるいは建物跡があっても良いのではないかと考えた。やはり道路中央部は削平されていると考えられたため道路よりやや東側に調査区を設定した。当初調査区内の南東側P1、P2付近に1m×2mの調査区を設定したところP2のような柱痕が約42cm×24cmの大型柱穴が検出されたため、建物跡あるいは門の可能性が考えられた。そのため、急遽調査区を北西側に約1.5mの幅で拡張していったところ、柱穴のほかに空壕が確認された。そのため調査区を今度は北西の海側である道路中央部方向へ拡大していった。その結果、空壕、溝、20基ほどの柱穴が確認された。空壕は南東から北西へ伸びており、中央の御代参道路に直交してこの台地を横断する方向に伸びている。空壕は南東側で幅2.2m、深さ1.1mである。壁面の上から下へ至る中間部分がやや張り出す。底部は平坦であり、箱薬研掘状となる。北西に行くに従い、幅は狭くなり、深さもなくなる。土層堆積を見ると、SPA～A'では溝1はⅢ層掘りこみであるがさらにその下に、この溝1に壊されているP15がある。空壕覆土の堆積状況はややソフトな層とハードな層が交互に堆積している状況であり、さらに下部の空壕覆土とにKo-dの混入があること。これは壁面に付着したKo-dが壁面の崩壊とともに含有されたものであると考えられる。またⅣ層掘りこみの溝1の覆土底面にはKo-d均一層があることから自然埋没と考えられる。さらに空壕覆土上面からの掘りこみを有する柱穴P6や溝1よりも古いP15があることから、時期的には2時期以上が考えられる。遺物は溝1から青花出土。

#### 第15調査区(第24図、附図2)

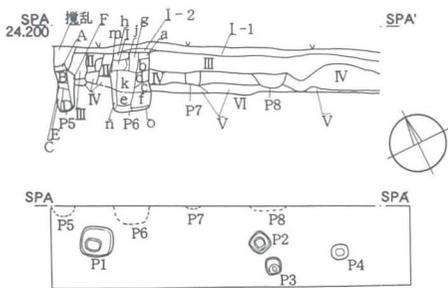
14区よりさらに北側15m、緩斜面を上りきった中央部御代参道路東側に4.8m×1.1mの調査区を



第1調査区 第II層遺構配置図



第11調査区

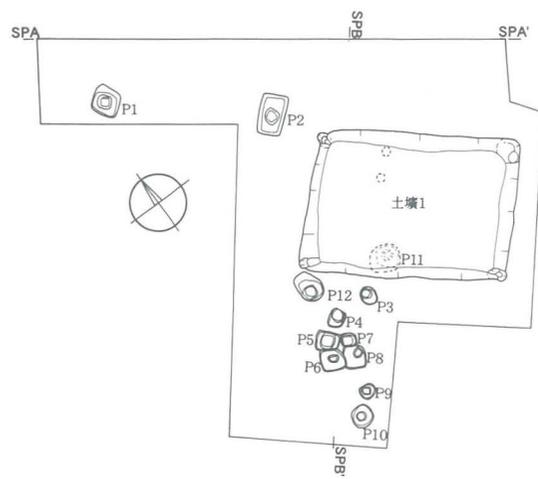


第6調査区 第III、IV層遺構配置図

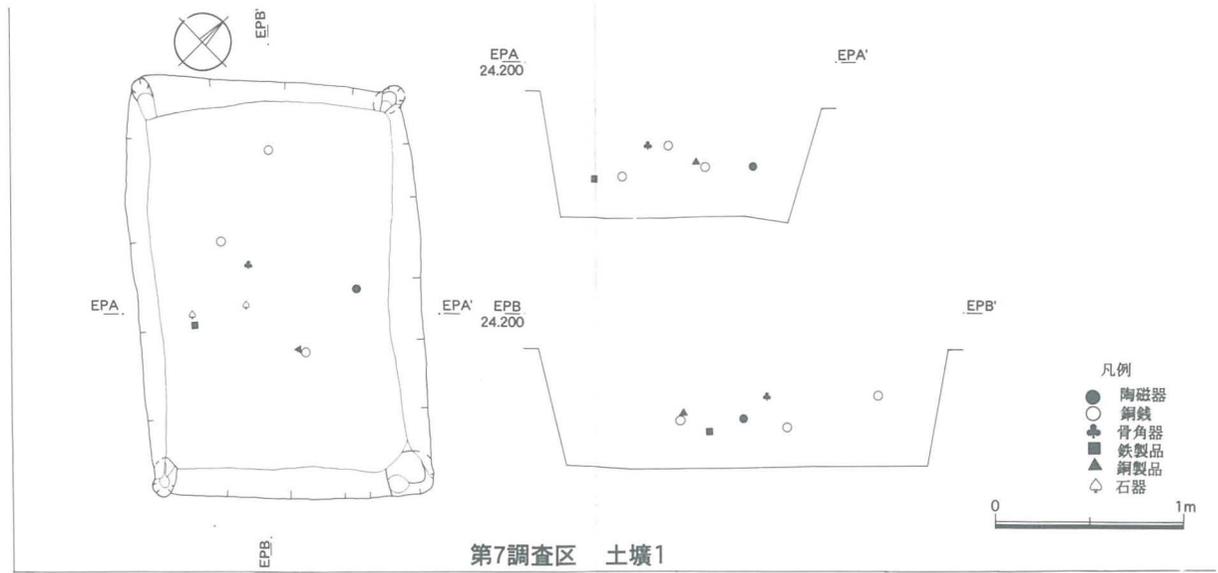
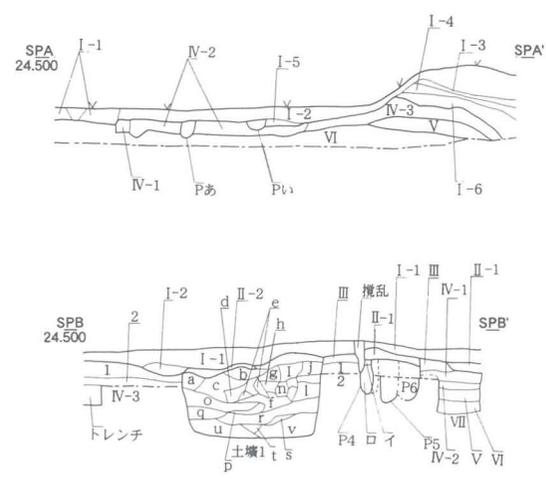
凡例  
  
 礫  
 焼土・炭化物



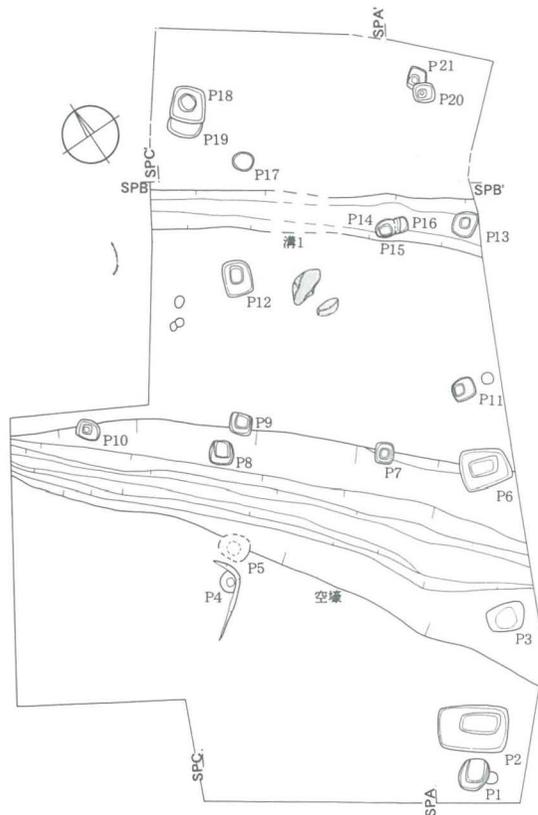
第23図 調査区土層堆積図他



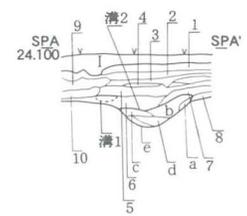
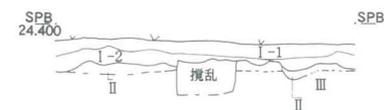
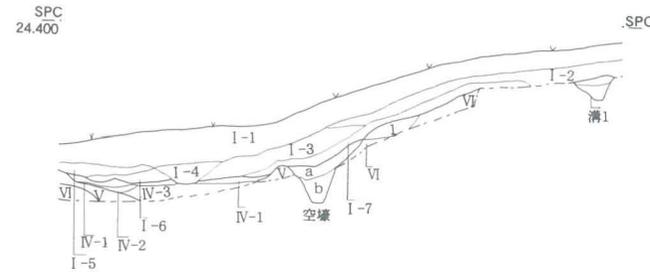
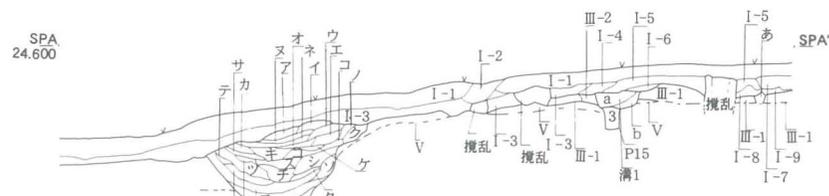
第7調査区



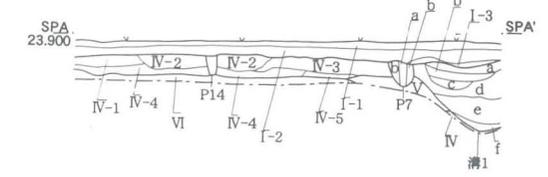
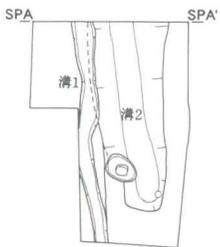
第7調査区 土壙1



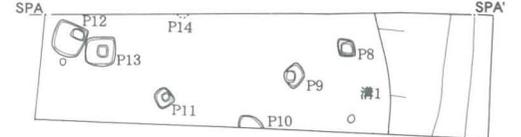
第14調査区



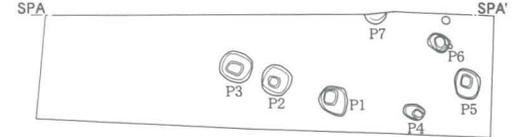
第8調査区



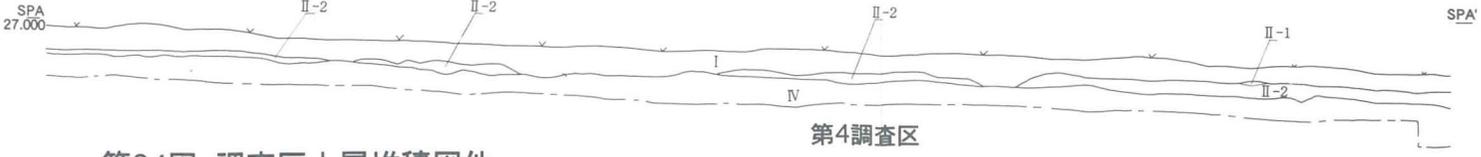
第IV層-②遺構配置図



第IV層-①遺構配置図



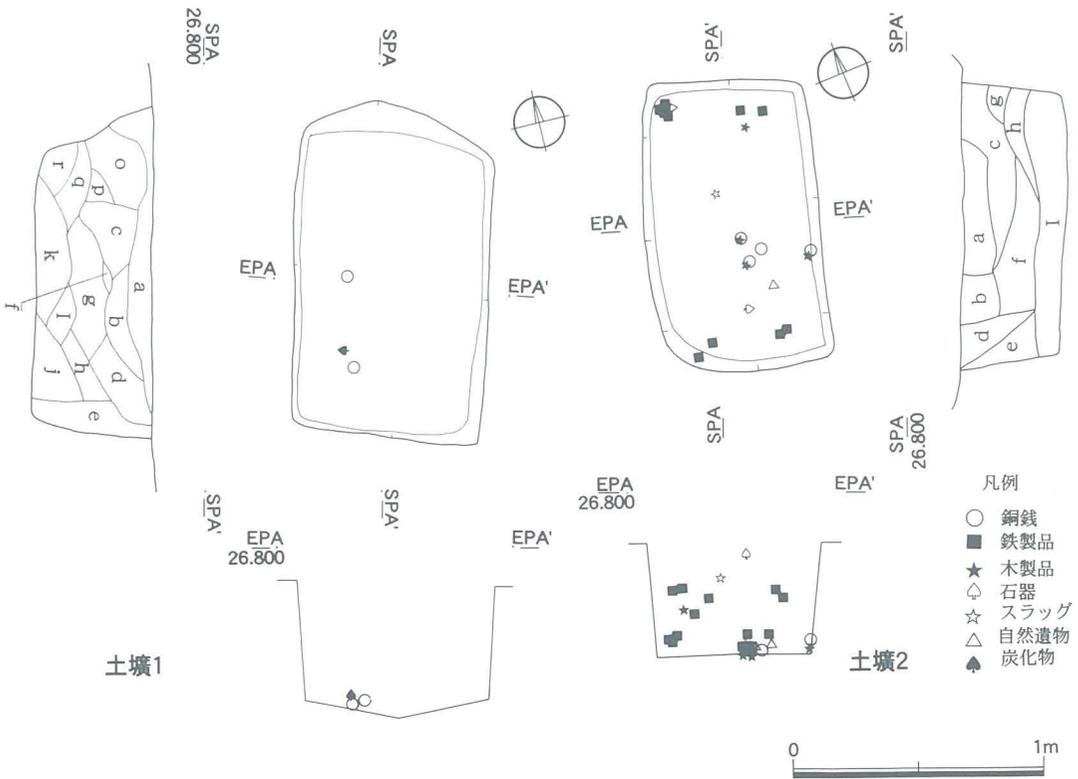
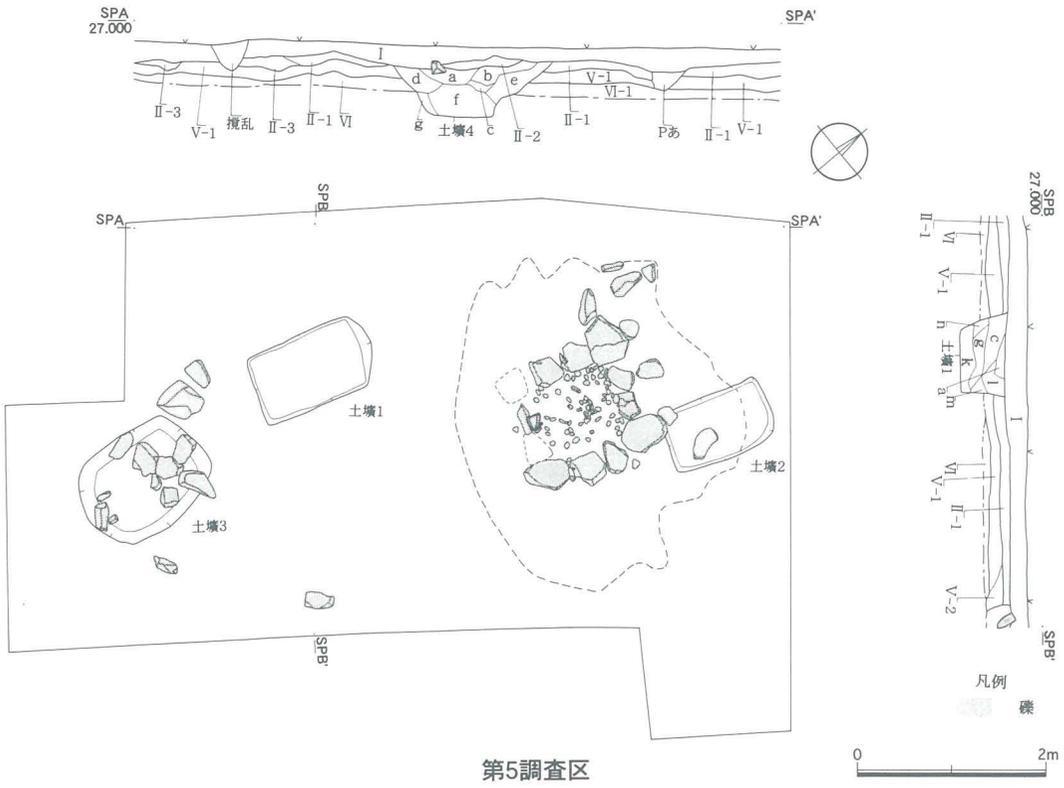
第15調査区



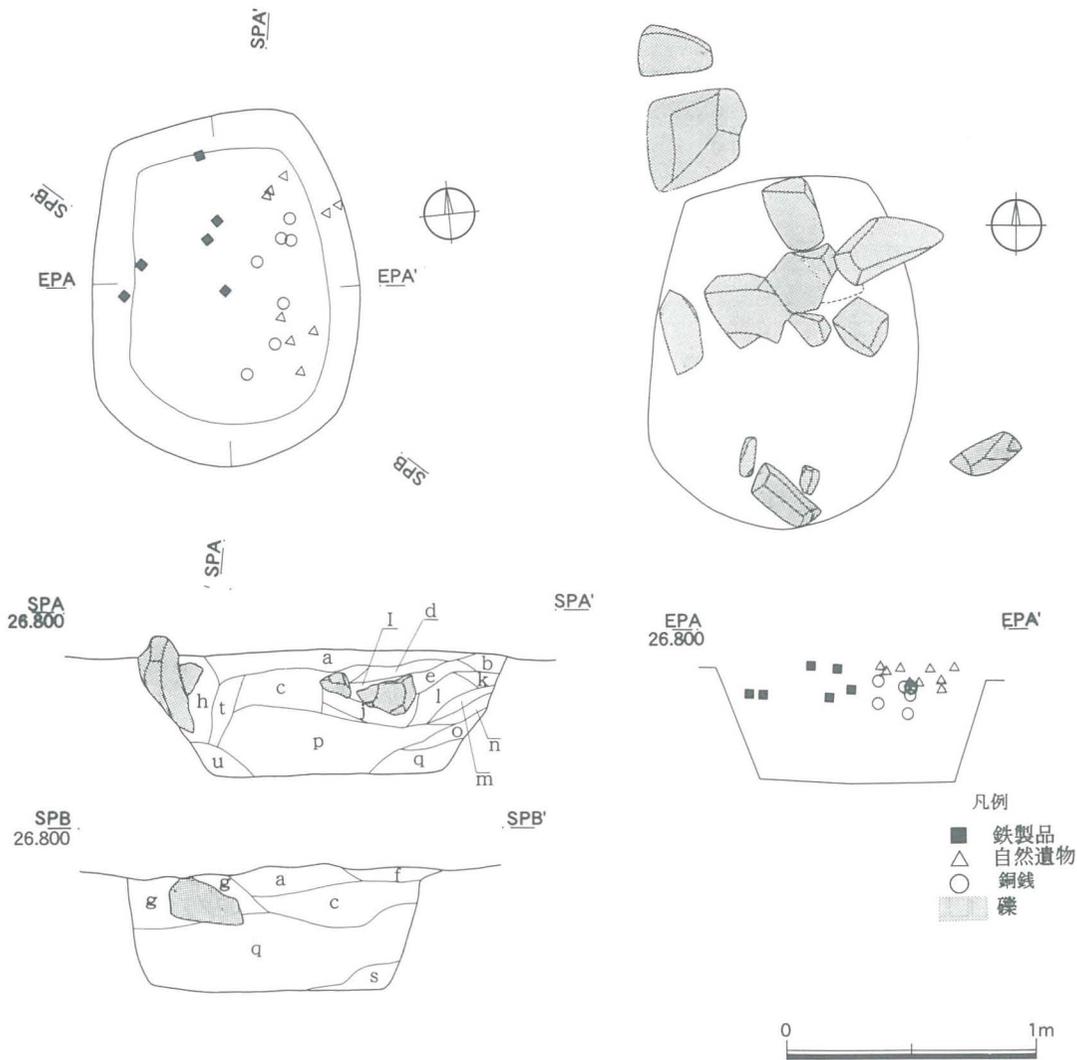
第4調査区

第24図 調査区土層堆積図他





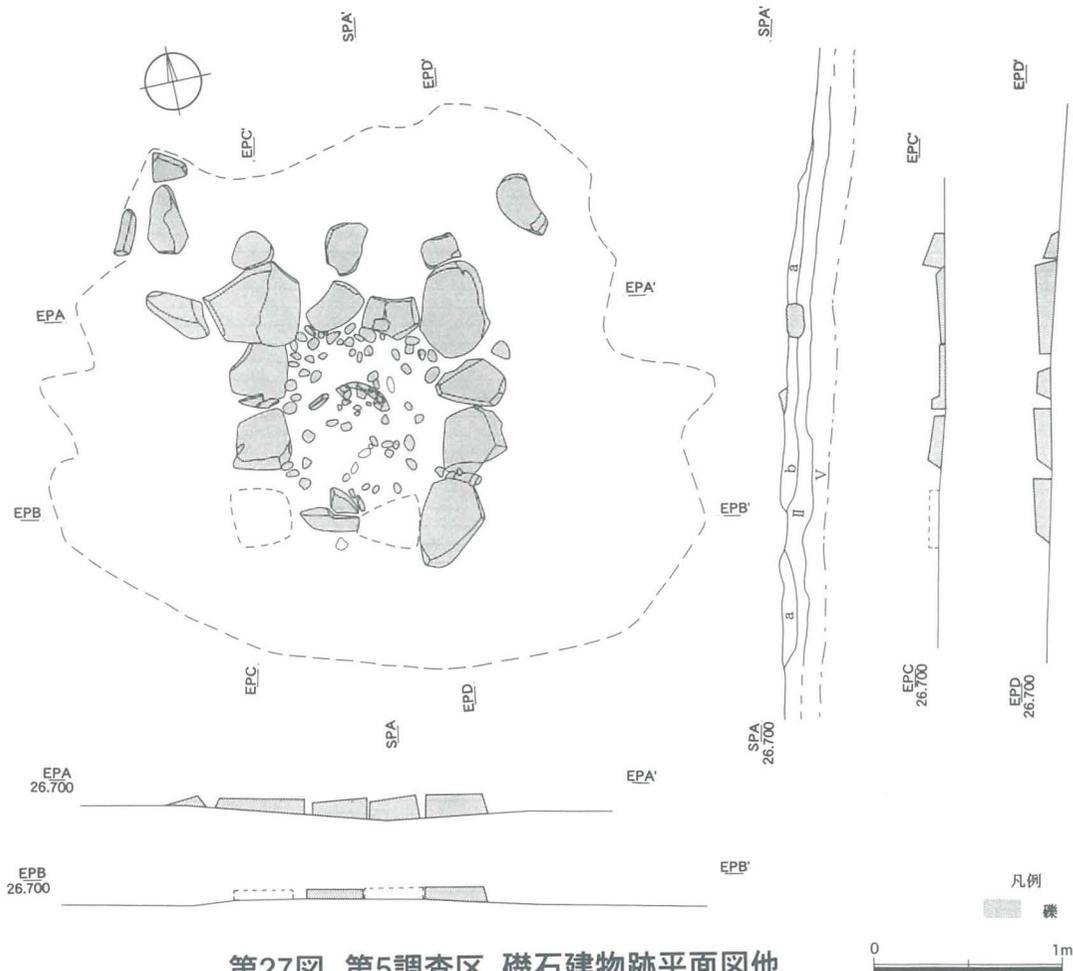
第25図 第5調査区土層堆積図他



第26図 第5調査区 土壌3平面図他

設定した。土層堆積ではⅡ、Ⅲ層がなくⅠ層の下はすぐⅣ層になっている。このⅣ層面にて多数の柱穴、溝が確認された。溝1覆土上面からP7が掘りこまれていることから、時期的には上からⅣ-1とⅣ-2の最低2時期あると考えられる。遺物

はⅣ-1層面のP1覆土掘り方から美濃鉄釉碗、唐津碗、青花碗等が一括出土している。いずれも17世紀初頭である。その他Ⅳ層面から青花、硯、銅製品等も出土している。(齊藤邦典)



第27図 第5調査区 礎石建物跡平面図他

表19 調査区土層観察表

第1調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')

I-1	10YR4/4	褐色	シルト中に細砂 少量 表土層	ハード
I-2	10YR3/4	暗褐	シルト	ややハード
II-1	10YR3/2	黒褐	シルト C微量 近世中頃以降	ややハード
II-2	10YR3/2	黒褐	シルト III-1ブロック微量 近世前期	ハード
III-1			欠	
III-2	10YR3/4	暗褐	シルト IV-1ブロック少量 中世以前の整地層	ハード
III-3	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト IV-1ブロック微量 中世以前の整地層	ハード
III-4	10YR4/6	褐	シルト IV-1ブロック微量 中世以前の整地層	ハード
III-5	10YR4/6	褐	シルト 鉄分を多く含む、IV-1ブロック少量 中世以前の整地層	ややハード
III-6	7.5YR3/4	暗褐	シルト 焼土を多く含む 中世以前の整地層	ややハード
III-7	10YR4/4	褐	シルト IV-1ブロック少量 中世以前の整地層	ややハード
IV-1	10YR4/4	褐	シルト ソフトローム	ハード
IV-2	10YR5/6	黄褐	シルト ソフトローム	ハード
VI	10YR4/4	褐	シルト 砂質がやや強い 基盤層	ハード
Pあ	10YR3/3	暗褐	シルト 焼土粒多量	ややハード
Pい	10YR3/2	黒褐	シルト IV-1ブロック少量	ややハード
Pう	10YR3/3	暗褐	シルト IV-1ブロック少量	ハード
Pえ	10YR3/4	暗褐	シルト IV-1ブロック少量	ハード
溝1-a	10YR3/3	暗褐	シルト C微量	ややハード
溝1-b	10YR3/3	暗褐	シルト	ややハード
溝1-c	10YR3/3	暗褐	シルト 焼土粒微量	ややハード

第1調査区 東西セクション南壁 (SPB-SPB')

I	10YR3/4	暗褐	シルト 小レキ褐色 粘土少量	ハード
II-1	10YR2/3	黒褐	シルト C微量	ハード
II-2	10YR3/2	黒褐	シルト C少量	ややハード
II-3	10YR2/2	黒褐	シルト	ハード
II-4	10YR2/3	黒褐	シルト 焼土粒微量	ややハード
II-5	10YR2/3	黒褐	シルト C微量	ハード
II-6	10YR2/3	黒褐	シルト中に粗砂微量	ハード
III-1	10YR2/3	黒褐	シルト ロームブロック少量	ハード
III-2	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト IV層ブロック少量	ハード
VI	10YR4/4	褐色	シルト 基盤層	ハード
P16	10YR2/2	黒褐	シルト中に細砂少量 ロームブロック微量	ソフト
P22-a	10YR2/2	黒褐	シルト ロームブロック少量 C微量	ソフト

表20 調査区土層観察表

P22-b	10YR2/3	黒褐	シルト	ロームブロック主体 C微量 Ko-d粒微量	ソフト
Pあ	10YR3/2	黒褐	シルト		ソフト
第4調査区 東西セクション南壁 (SPA-SPA')					
I	10YR3/3	暗褐	シルト	中に細砂微量 耕作土	ややソフト
II-1	10YR3/2	黒褐	シルト	Ko-dブロック少量斑点状にII-2の上に広がる	ややハード
II-2	10YR3/2	黒褐	シルト	中に細砂微量	ややハード
IV	10YR4/4	褐	シルト	ソフトローム	ハード
第5調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')					
I	10YR3/3	暗褐	シルト	中に粗砂、多量、玉砂利、微量	ソフト
II-1	10YR2/3	黒褐	シルト	中に細砂微量	ややソフト
II-2	10YR3/3	暗褐	シルト	玉砂利多量 集石の玉砂利が流れてきたか	ハード
II-3	10YR4/2	灰黄褐	シルト		ハード
V	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト		ハード
VI	10YR4/4	褐	シルト	ソフトローム	ハード
Pあ	10YR3/3	暗褐	シルト	中に細砂微量	ややソフト
土壌4-a	10YR2/3	黒褐	シルト	1cm~3cm程度の玉砂利が多量に入る	ややソフト
土壌4-a	10YR2/3	黒褐	シルト	ロームブロック微量	ややハード
土壌4-b	10YR3/3	暗褐	シルト	ロームブロック微量	ハード
土壌4-c	10YR3/2	黒褐	シルト	ロームブロック微量	ややハード
土壌4-d	10YR2/2	黒褐	シルト	ロームブロック少量	ハード
土壌4-e	10YR2/2	黒褐	シルト	ロームブロック多量	ハード
土壌4-f	10YR3/2	黒褐	シルト	ロームブロック少量	ソフト
土壌4-g	10YR4/2	灰黄褐	シルト	ロームブロック主体	ややソフト
第5調査区 東西セクション北壁 (SPB-SPB')					
I	10YR3/3	暗褐	シルト	玉砂利少量	ソフト
II	10YR3/2	黒褐	シルト	Ko-d粒微量	ややソフト
V-2	10YR3/4	暗褐	シルト		ハード
V-1	10YR3/3	暗褐	シルト		ややソフト
VI	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	やや粘質、ソフトローム	ハード
土壌1-a	10YR2/3	黒褐	シルト	1cm~3cm程度の玉砂利が多量に入る	ややソフト
土壌1-c	10YR4/2	灰黄褐	シルト	ソフトロームブロック微量	ハード
土壌1-g	10YR3/3	暗褐	シルト	粘質強い、ソフトロームブロック少量	ハード
土壌1-k	10YR3/2	黒褐	シルト	ソフトロームブロック微量	ハード
土壌1-l	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	ロームブロック少量	ハード
土壌1-m	10YR3/2	黒褐	シルト	ロームブロック微量	ややソフト
土壌1-n	10YR3/2	黒褐	シルト	ロームブロック微量	ややソフト
第6調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')					
I-1	7.5YR3/3	暗褐	シルト	草根多量	やや密
I-2				ローム盛土層	ハード
II	7.5YR3/3	暗褐	シルト	粒子が他の層に比し非常に細かい Ko-d15%	ソフト
III					
IV	10YR3/3	暗褐		縦クラック層	ハード
V	10YR4/4	褐		凝ソフトローム	ハード
VI	10YR4/3	黄褐		ソフトローム	
VII	7.5YR5/6	明褐			ハード
P5-A	7.5YR3/4	暗褐	シルト	ブロック状白色微少砂礫含有(やや黄色味強い) 掘り方	ややハード
P5-B	7.5YR3/4	暗褐	シルト	ボロボロ。掘り方	粗
P5-C	7.5YR3/3	暗褐	シルト	ロームブロック若干混入。掘り方	やや粗
P5-D	7.5YR3/3	暗褐		やや木皮の粒状のもの混じる。柱痕	極粗 極めてソフト
P5-E	7.5YR4/2	灰褐		ロームブロック混じる3%~10%。掘り方	やや粗 ややソフト
P5-F	7.5YR3/4~2/3	暗褐 極暗褐		掘り方	
P6-a	7.5YR4/3	褐	シルト	C1% 白色微少砂礫3%	極めてハード
P6-b	7.5YR4/3	褐	シルト	ソフトロームブロック5% 白色微少砂礫3%	極めてハード
P6-d	7.5YR3/3	暗褐	シルト	ソフトロームブロック15%	やや粗
P6-c	7.5YR4/3	褐	シルト	ソフトロームブロック25%	やや粗
P6-e	7.5YR4/3	褐	シルト	ソフトロームブロック 粘性ややあり やや湿性	やや粗 ややハード
P6-f	7.5YR3/4	暗褐	シルト	粒子細かくサラサラ	密 ややハード
P6-g	7.5YR3/3	暗褐	シルト	焼土粒微量 炭化物1% 白色微少砂礫若干含む	ハード
P6-h	7.5YR3/3	暗褐	シルト	炭化物3% 粒やや大きい1cm大5ヶ	密 ややハード
P6-i	7.5YR4/3	褐	シルト	gにロームブロックが入り堅緻となったもの ロームブロック15%	ハード
P6-j	7.5YR3/3	暗褐	シルト	ロームブロック10% 炭化物1~2%	ややソフト
P6-k	7.5YR3/3	暗褐	シルト	5cm大玉砂利1ヶ	やや粗
P6-l	7.5YR4/3	褐	シルト	ロームブロック50% ロームブロック部分のみ堅緻 全体としてやや堅緻	ややハード
P6-m	7.5YR3/3	暗褐	シルト	ロームブロック20%	やや粗
P6-n	7.5YR3/3	暗褐		ロームブロック含有	やや粗
P6-o	7.5YR4/3+7.5YR3/6	褐+明褐		ハードロームブロック	
P7	10YR3/3	暗褐	シルト		やや粗
P8	7.5YR3/2	黒褐	シルト	ロームブロック7%	粗
第7調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')					
I-1	10YR3/3	暗褐	シルト		ソフト
I-2	10YR3/2	黒褐	シルト		ソフト
I-3	10YR3/2	黒褐	シルト	ローム小ブロック少量	ややソフト
I-4	10YR3/3	暗褐	シルト		ソフト
I-5	10YR3/4	暗褐	シルト		ややソフト
I-6	10YR2/3	黒褐	シルト		ハード
IV-1	10YR4/4	褐	シルト		ハード
IV-2	10YR2/3	黒褐	シルト		ハード
IV-3	10YR2/2	黒褐	シルト		ハード
V	10YR2/3	黒褐	シルト		ハード
VI	10YR4/4	褐	シルト	ソフトローム	ハード
第7調査区 南北セクション東壁 (SPB-SPB')					
I-1	10YR4/3~10YR4/4	にぶい黄褐~褐	シルト		
I-2	10YR4/2~10YR4/3	灰黄褐~にぶい黄褐	シルト	白色微小礫含有	ややハード
II-1	7.5YR3/4	暗褐	シルト	粒子極めて細かいKo-d5% (所々に)	
II-2	10YR3/3	暗褐	シルト		

表21 調査区土層観察表

III	7.5YR4/4	褐	微小小白小礫全面	ハード
IV-1	10YR3/2	黒褐	シルト 縦クラックかなり入る ブロック状 堅緻(土塊掘り込み面)	粗 ハード
IV-2	7.5YR3/2	暗褐	白色微小礫含有	ハード
V	10YR3/3	暗褐	シルト やや粘性あり	やや密 ハード
VI	10YR4/4	褐	シルト ソフトローム	密 ハード
土壌1-a	10YR3/3	暗褐	シルト 微小焼土粒1% C1%	やや粗
土壌1-b	7.5YR3/2	黒褐	C1% 焼土粒1%	やや粗
土壌1-c	10YR4/2-10YR4/3	にぶい黄褐 灰褐	白色微小礫含有 炭化物、焼土粒2%	粗 ハード
土壌1-d	10YR3/3	暗褐	シルト C1%粒状ボロボロ 焼土粒1%	密
土壌1-e	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト質ブロック	ハード
土壌1-f	10YR3/3	暗褐	シルト ボロボロ 焼土粒	粗
土壌1-g	7.5YR3/3	暗褐	シルト 粒状	やや粗
土壌1-h	10YR3/3+7.5YR4/2	暗褐+灰褐	シルト質ブロック	粗、密 ソフト、ハード
土壌1-i	7.5YR3/3-10YR4/3	暗褐	シルトブロック C1% C焼土粒1%	やや密 ハード
土壌1-j	7.5YR3/3	暗褐	シルト 草根多い(微小根)	やや粗
土壌1-k	7.5YR4/2	灰褐	シルト 草根入るがより堅緻	
土壌1-l	7.5YR3/3	暗褐	シルト	やや粗
土壌1-m	7.5YR4/2-7.5YR3/3	灰褐 暗褐		極ハード
土壌1-n	7.5YR4/2	灰褐	シルト Ko-d粒7% 焼土粒0.3%	やや粗
土壌1-o	10YR3/3-10YR4/2	暗褐	シルトブロック層 炭化物3% 黄色味強い 埋め戻し土	ハード
土壌1-p	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト ロームブロック ボロボロ 埋め戻し土	粗
土壌1-q	10YR3/3+10YR5/4-5/6	暗褐	シルト ロームブロック 埋め戻し土	やや密
土壌1-r	10YR3/3	暗褐	シルト ロームブロック3% C2% 埋め戻しKo-d2%	やや粗
土壌1-s	10YR3/2	黒褐	シルト Ko-d2%	やや粗
土壌1-t	10YR3/2-10YR3/3	黒褐 暗褐	シルト ロームブロック 埋め戻し土	ハード
土壌1-u	10YR4/2-10YR3/3	灰黄褐 暗褐	シルト C ロームブロック25%	やや密 ハード
土壌1-v	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト ロームブロック10% Ko-d3% rよりも明るくロームブロックも入るがKo-dも入る	uよりややソフト 密

第8調査区 東西セクション南壁 (SPA-SPA')

I	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト 草根多量	粗 ややハード
1	7.5YR4/3	黄褐	シルト I層よりやや黄色味強い	やや密 極ハード
2	7.5YR4/4	褐	シルト 微小白色礫粒わずか入る	密 ややソフト
3	7.5YR4/4	褐	2より若干暗い、2よりやや堅緻	密 ややソフト
4	7.5YR4/4	褐	シルト 微小白色礫粒わずか入る	3よりややハード
5	7.5YR4/4	褐	3とはほぼ同じ 白色微小礫粒	密
6	7.5YR4/3	褐		密 ハード
7	7.5YR4/3	褐	シルト	7よりソフト 密
8	7.5YR4/4	褐		密 ややハード
9	7.5YR4/4	褐	シルト やや湿性	ソフト
10	7.5YR4/4	褐	シルト 白色微小礫入る	ややハード
溝1	10YR4/2	灰黄褐		
溝2-a	7.5YR4/4	褐	シルト 1-8に比し密度が粗く粘性あり	密 ハード
溝2-b	7.5YR4/3-7.5YR4/4	褐	シルト 1-8に比し密度が粗く粘性あり 湿性	ややソフト
溝2-c	7.5YR4/3	褐	シルト 1-8に比し密度が粗く粘性あり 湿性	
溝2-d	7.5YR4/3	褐	シルト 1-8に比し密度が粗く粘性あり 湿性 Cよりやや暗い	
溝2-e	7.5YR4/4	褐	シルト 1-8に比し密度が粗く粘性あり 湿性	

第11調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')

I-1	10YR3/3	暗褐	シルト	ソフト
I-2	10YR2/3	黒褐	シルト	ソフト
I-3	10YR3/4	暗褐	シルト	ややハード
I-4	10YR3/3	暗褐	シルト	ややソフト
I-5	10YR3/4	暗褐	シルト	ハード
I-6	10YR3/2	黒褐	シルト 南側下面にビニール	ややソフト
I-7	10YR3/3	暗褐	シルト	ハード
I-8	7.5YR3/3	暗褐	シルト やや粘質あり、ガラス粒混入	ソフト
I-9	10YR3/3	暗褐	シルト	ソフト
II-1	10YR2/3	黒褐	シルト ローム粒微量	ややハード
II-2	10YR4/2	灰黄褐	シルト中に細砂微量 C微量	ハード
II-3	10YR3/4	暗褐	シルト	ややソフト
II-4	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト Ko-d主体	ややソフト
II-5	10YR3/3	暗褐	シルト	ハード
II-6	10YR3/4	暗褐	シルト	ハード
IV	10YR2/2	黒褐	シルト	ハード
VI	10YR4/4	褐	シルト ソフトローム	ハード
VII	10YR4/4	褐	粘土中に細砂少量、基盤層	ハード
a	10YR3/4	暗褐	シルト C微量、ローム粒微量	ややハード
b	10YR4/4	褐	シルト C微量、ローム粒多量	ややハード
c	10YR3/2	黒褐	シルト C多量、焼土微量	ややハード
d	10YR4/4	褐	シルト ローム粒多量	ややソフト
e	10YR3/3	暗褐	シルト C微量	ややハード
f	10YR3/2	黒褐	シルト C少量、ローム粒少量	ハード
g	10YR2/3	黒褐	シルト ローム小ブロック微量	ハード
h	10YR4/4	褐	シルト ローム粒主体	ハード
i	10YR3/3	黒褐	シルト C微量、焼土粒微量	ややハード
j	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト 小礫微量	ハード
k	7.5YR3/4	暗褐	シルト	ハード
l	10YR3/4	暗褐	シルト	ソフト
m	10YR3/4	暗褐	シルト ローム粒微量	ハード
n	10YR3/3	暗褐	シルト中に細砂微量、C微量	ややソフト
o	10YR5/4	にぶい黄褐	基盤ブロック少量、小円礫少量	ややハード
p	10YR4/6	褐	シルト 基盤ブロック少量	ややハード
q	10YR3/4	暗褐	シルト やや粘質あり	ハード
r	10YR4/4	褐	シルト やや粘質あり、小円礫微量	ハード
s	10YR2/2	黒褐	シルト ロームブロック少量	ハード
t	10YR3/4	暗褐	シルト	ハード

表22 調査区土層観察表

第14調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')

I-1	7.5YR4/4	褐	シルト	サラサラ	ソフト やや密
I-2	7.5YR4/2	灰褐	シルト		やや密 ややハード
I-3	7.5YR4/2	灰褐	シルト	草根	やや粗 ソフト
I-4	7.5YR3/3	暗褐	シルト	草根	やや粗 ソフト
I-5	7.5YR3/3	暗褐	シルト	草根	I-4より粗
I-6	7.5YR3/3	暗褐	シルト	I-5より均一	密 ソフト
I-7	10YR3/3	暗褐	シルト	中に粗砂微量	ややソフト
I-8	10YR3/4	暗褐	シルト	ロームブロック少量	ややハード
I-9	10YR3/2	黒褐	シルト		ややハード
III-1	7.5YR4/2	灰褐			やや密 ややハード
III-2	10YR4/4	褐	シルト	均一	ソフト 密
溝1-a	7.5YR4/3	褐	シルト	下部にKo-d均一層	密 ソフト
溝1-b	7.5YR4/2	灰褐	シルト	ほぼ均一	密 ソフト
空壕-A	7.5YR4/4	褐	シルト		ややソフト
空壕-I	7.5YR3/3	暗褐	シルト		やや粗 ややハード
空壕-U	7.5YR3/3	暗褐	シルト		やや密 ソフト
空壕-E	7.5YR4/3	褐	シルト	炭化物	やや粗 ソフト
空壕-O	7.5YR4/3	褐	シルト	炭化物1%	密 ハード
空壕-Ka	7.2YR4/3	褐	微小白色礫1%		密 ハード
空壕-Ki	7.5YR4/3	褐	シルト	白色微小礫1%含有	極めてハード
空壕-Kc	7.5YR4/3	褐	シルト	微小白色礫1%含有	やや粗 極ハード
空壕-Ke	7.5YR3/2	黒褐	シルト	10YR5/3にぶい黄褐粒位1mm~2mm大7%	やや密 ハード
空壕-Ko	7.5YR3/2	黒褐	10YR5/3にぶい黄褐シルト粒位1mm~2mm7%	10YR3/3シルトの入るところ堅くなる	ケよりもハード 密
空壕-Ks	7.5YR3/3	暗褐	10YR5/3にぶい黄褐シルト含有ブロック		やや密 ソフト
空壕-Ksh	7.5YR3/2	黒褐	10YR5/3にぶい黄褐シルトが所々に含有するがその場所が堅緻、全体としてソフト		ソフト 密
空壕-Sc	7.5YR3/3	暗褐	微小白色礫10YR5/3シルトブロック含有5%		
空壕-Sp	7.5YR3/3	暗褐	シルト	10YR4/4ロームブロック含有10%	極ハード
空壕-Sg	7.5YR4/3	褐	シルト	10YR3/3シルト10YR5/3シルトの入るところは固くしまる	やや粗 密 ややソフト
空壕-Si	7.5YR3/4	暗褐	微小白色礫3%		極ハード 密
空壕-Sj	7.5YR3/4	暗褐	シルト	10YR5/3にぶい黄褐シルトブロック10%	やや密 ややソフト
空壕-Sk	7.5YR4/3	褐	10YR5/3にぶい黄褐シルトブロック含有		ハード
空壕-Sl	7.5YR4/3	褐	シルト	10YR5/3~10YR5/6にぶい黄褐ブロック含有5~10% 粘性強い	極ハード
空壕-Sn	7.5YR4/2	灰褐	10YR4/4~10YR4/6ロームブロック含有40%	10YR5/3シルトはなし 粘性強い	極ハード 密
空壕-Sr	7.5YR4/3	褐	7.5YR5/6暗褐ソフトロームブロック (酸化してない) これが酸化して10YR5/3になる		ややソフト やや密
空壕-Ss	7.5YR2/3+7.5YR1.7/1	極暗褐 黒	シルト	(70:30)	密 ややハード
空壕-Su	7.5YR4/3	褐	シルト		密 ハード
空壕-Sv	7.5YR4/3	褐	7.5YR4/4褐シルトソフトローム混20%を主体とした弱粘性層	Ko-d1~2%混入、湿性	ハード 密
空壕-Sw	7.5YR4/3	褐	シルト	7.5YR4/4褐ソフトローム含有15%、微小白色礫1%~5%含有、湿性	やや密 ややハード
空壕-Sx	7.5YR3/4	暗褐	シルト	7.5YR4/4褐ソフトローム15%、腐植土混入5cm大	やや密、ややハード、湿性

第14調査区 東西セクション北壁 (SPB-SPB')

I-1	7.5YR4/4	褐	シルト	草根	密 極めてソフト
I-2	7.5YR4/2~7.5YR4/3	灰褐 褐	草根	ロームブロック1%	密 ソフト
II	10YR3/4	暗褐			密 ソフト

第14調査区 南北セクション西壁 (SPC-SPC')

I-1	7.5YR4/4	褐	シルト		密 ソフト
I-2	7.5YR4/2~7.5YR4/3	灰褐 褐	ロームブロック		密 ソフト
I-3	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	小円礫 C微量	ハード
I-4	10YR3/3	暗褐	シルト	乾燥するとブロック状に割れる	ハード
I-5	10YR3/2	黒褐	シルト		ソフト
I-6	10YR3/4	暗褐	シルト		ハード
I-7	10YR3/4	暗褐	シルト	中に細砂少量	ハード
IV-1	10YR3/3	暗褐	シルト	基盤粒少量	ハード
IV-2	7.5YR3/4	暗褐	シルト	C少量	ややソフト
IV-3	7.5YR3/2	黒褐	シルト	基盤ブロック多量	ハード
V	7.5YR4/4	褐	シルト		ややハード
VI	10YR4/6	褐	シルト	やや粘質 ソフトローム	ハード
溝1	10YR3/3	暗褐	シルト		ややソフト
空壕-a	10YR3/3	暗褐	シルト	C微量、黒褐色土ブロック少量、基盤粒多量	ハード
空壕-b	10YR4/4	褐	シルト	中に粗砂微量、C微量、基盤粒多量、下部にKo-dブロック	ハード

第15調査区 南北セクション西壁 (SPA-SPA')

I-1	10YR2/3	黒褐	シルト	ガラス片など混入	ソフト
I-2	10YR3/3	暗褐	シルト	小円礫少量	ややソフト
I-3	10YR3/2	黒褐	シルト		ハード
IV-1	10YR3/3	暗褐	シルト	やや粘質、ローム小ブロック微量	IV-1
IV-2	10YR2/3	黒褐	シルト	乾燥するとブロック状にひび割れる	IV-1
IV-3	10YR3/2	黒褐	シルト	焼土粒 C微量	IV-1
IV-4	10YR3/3	暗褐	シルト	ローム小ブロック少量	IV-2
IV-5	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	ローム小ブロック少量	IV-2
V	10YR4/4	褐	シルト	やや粘質	ハード
VI	10YR3/4	暗褐	シルト	粘性あり ソフトローム	ハード
P15	10YR3/3	暗褐	シルト		ソフト
P14-a	10YR3/4	暗褐	シルト	ローム小ブロック少量	ハード
P14-b	10YR3/3	暗褐	シルト	C少量	ハード
溝1-a	10YR3/2	黒褐	細砂		ややソフト
溝1-b	10YR2/2	黒褐	シルト	ローム小ブロック少量	ややハード
溝1-c	10YR3/3	暗褐	シルト		ハード
溝1-d	10YR3/4	暗褐	シルト	ローム粒微量	ハード
溝1-e	10YR3/3	暗褐	シルト	ローム粒微量	ハード
溝1-f	10YR3/2	黒褐	シルト	ローム粒少量、上面にC少量	ハード

表23 遺構土層観察表

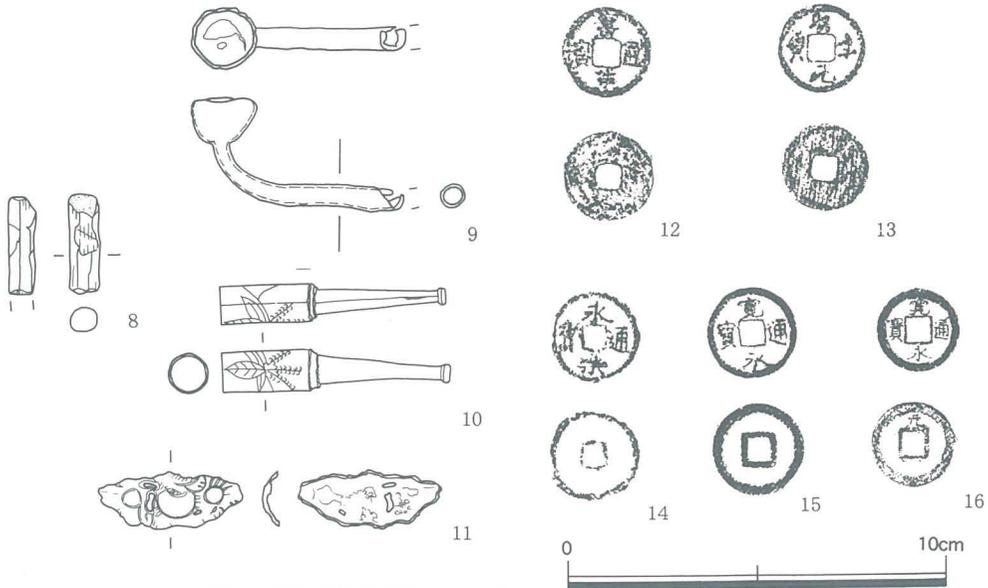
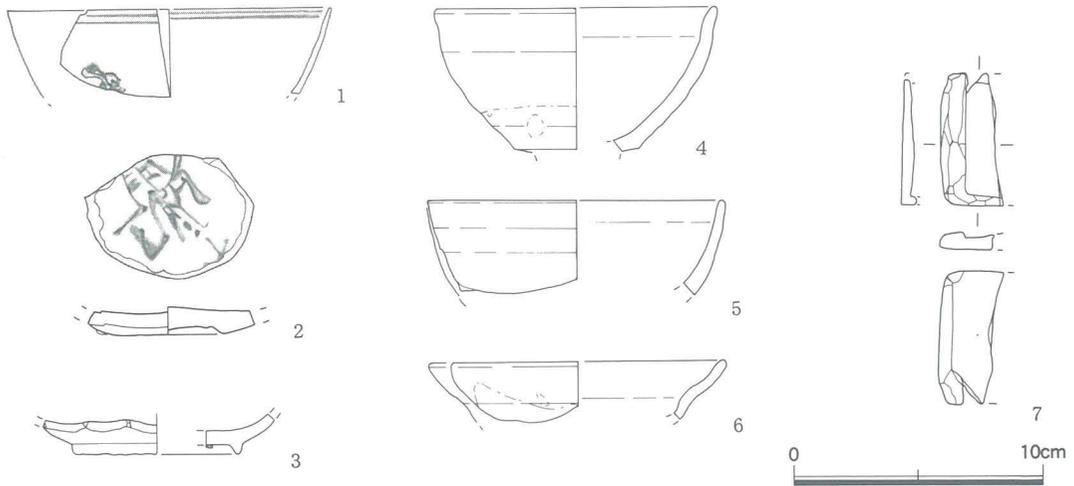
第5調査区 土壌1					
a	10YR2/3	黒褐	シルト	1cm~3cm程度の玉砂利が多量に入る	ややソフト
b	10YR2/3	黒褐	シルト	2cm~8cm程度の玉砂利が多量に入る	ややソフト
a	10YR3/3	暗褐	シルト	C微量	ハード
b	10YR3/2	黒褐	シルト	ソフトロームブロック微量	ハード
c	10YR4/2	灰黄褐	シルト	ソフトロームブロック微量	ハード
d	10YR3/2	黒褐	シルト	ソフトロームブロック少量、Ko-d微量	ハード
e	10YR4/4	褐	シルト	ソフトロームブロック多量	ハード
f	10YR3/3	暗褐	シルト	ソフトロームブロック微量	ややハード
g	10YR3/3	暗褐	シルト	粘質強い、ソフトロームブロック少量	ハード
h	10YR4/2	灰黄褐	シルト	粘質強い、ソフトロームブロック多量	ややハード
i	10YR3/3	暗褐	シルト	ソフトロームブロック少量	ハード
j	10YR3/3	暗褐	シルト		ややハード
k	10YR3/2	黒褐	シルト	ソフトロームブロック微量	ハード
l	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	ロームブロック少量	ハード
m	10YR3/2	黒褐	シルト	ロームブロック微量	ややソフト
n	10YR3/2	黒褐	シルト	ロームブロック微量	ややソフト
o	10YR3/3	暗褐	シルト	ロームブロック多量、C微量	ややハード
Fit	10YR3/2	黒褐	シルト	中に細砂微量、ロームブロック少量	ハード
q	10YR3/2	黒褐	シルト	ロームブロック少量	ややソフト
r	10YR3/3	暗褐	シルト	中に細砂微量、ロームブロック多量	ややハード
第5調査区 土壌2					
a	10YR3/3	暗褐	シルト	中に細砂微量ロームブロック微量	ややハード
b	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	ロームブロック少量	ハード
c	10YR3/3	暗褐	シルト	ロームブロック少量	ややソフト
d	10YR3/2	黒褐	シルト	ロームブロック多量	ややハード
e	10YR2/2	黒褐	シルト	ロームブロック少量	ややソフト
f	10YR3/2	黒褐	シルト	中に細砂微量、ロームブロック少量	ややソフト
g	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	粘質強い	ややハード
h	10YR2/3	黒褐	シルト	中に細砂微量ロームブロック微量	ややソフト
i	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	粘質強い、ロームブロック主体	ハード
第5調査区 土壌3					
a	10YR3/3	暗褐	シルト	中に細砂微量、ロームブロック微量、焼土粒微量	ややソフト
b	10YR3/3	暗褐	シルト	中に細砂微量、C微量、焼土粒少量	ややハード
c	10YR2/3	黒褐	シルト	C少量、ロームブロック少量、焼土粒微量	ややソフト
d	10YR2/2	黒褐	シルト	C少量、ロームブロック微量、焼土粒少量	ややソフト
e	10YR2/2	黒褐	シルト	中に粗砂微量、C多量、ロームブロック少量、焼土あり 焼骨多量	ソフト
f	10YR3/3	暗褐	シルト	C微量、焼土粒微量	ややハード
g	10YR2/3	黒褐	シルト	C少量、焼土粒微量	ややハード
h	10YR3/3	暗褐	シルト	焼土粒微量	ややハード
i	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	ロームブロック少量	ハード
j	5YR2/4	極暗赤褐	粗砂	焼土、焼骨多量	ソフト
k	10YR4/2	灰黄褐	シルト	中に細砂微量C微量	ソフト
l	10YR3/3	暗褐	シルト	やや粘質、ロームブロック微量	ややソフト
m	10YR3/2	黒褐	シルト	C微量、ロームブロック少量	ややハード
n	10YR2/3	黒褐	シルト		ややソフト
o	10YR3/3	暗褐	シルト	ロームブロック少量	ややソフト
p	10YR3/4	暗褐	シルト	中に細砂微量、ロームブロック微量	ややハード
q	10YR3/3	暗褐	シルト	ロームブロック多量、C微量、Ko-d微量	ややハード
r	10YR3/4	暗褐	シルト	ロームブロック主体	ややハード
s					
u	10YR3/3	暗褐	シルト	ロームブロック主体	ややハード
v	10YR3/3	暗褐	シルト	ロームブロック微量、C少量	ややハード
w	10YR4/4	褐	シルト	ロームブロック主体	ハード
第5調査区 礎石建物跡					
a	10YR2/3	黒褐	シルト	1cm~3cm程度の玉砂利が多量に入る	ややソフト
b	10YR2/3	黒褐	シルト	2cm~8cm程度の玉砂利が多量に入る	ややソフト
II	10YR2/3	黒褐	シルト	中に細砂微量	ややソフト
V	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト		ハード

表24 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	種類	器種	軸調	胎色調	備考	地区	層位	口径mm	器高mm	底径mm
第28図1	青花	碗	青味白	白		15	P1	(130)		
第28図2	青花	皿	黄味灰	明るい茶灰	碁笥底。二次被熱。	15	III			44
第28図3	大窯	丸皿	緑味灰	明るい茶灰	全面に灰軸を施す。高台内にトチンの跡あり。	15	Pit5			(68)
第28図4	瀬戸大窯	天目茶碗	黄茶	明るい茶灰	体部下半は露胎。	15	P1	(114)		
第28図5	唐津	碗	オリープ灰	明るい茶灰		15	P1	(120)		
第28図6	唐津	皿	明るいオリープ灰	明るい茶灰		7	II	(118)		

表25 出土遺物観察表 (銅製品他)

図版番号	器種	備考	地区	層位	長さmm	厚さmm	幅mm	重さg
第28図7	硯		15	III	2.2	7	5.3	
第28図8	煙管	雁首部。	1	Pit9				
第28図9	煙管	吸口部。線刻を施す。	10	I	60	10	10	6.8
第28図10	箆筥金具?		7	土壌1	37.5	1	14	2.6
第28図11	骨角器		7	土壌1	26	6	7	



第28図 調査区出土遺物

表26 出土遺物集計表（銅銭）

銭種	初鑄年	調査区				総計
		1	3	5	7	
至道元宝	995			1		1
祥符通宝か	1008		1			1
嘉祐通宝	1056			1	1	2
聖宋通宝	1101		1			1
政和通宝	1111			1		1
洪武通宝	1368			3		3
永楽通宝	1408				1	1
寛永通宝（古）	1637	1				1
寛永通宝（新）	1739		1			1
無文銭？				2		2
不明				22	1	23
総計		1	1	32	3	37

表27 出土遺物観察表（銅銭）

図版番号	器種	初鑄年	地区	層位	備考
第28図12	嘉祐通宝	1056	7	土壇1	
第28図13	聖宋通宝	1101	5	土壇3	
第28図14	永楽通宝	1408	7	土壇1	
第28図15	寛永通宝（古）	1637	1	II	
第28図16	寛永通宝（新）	1739	3	I	背面に「元」の文字。鉄銭。

表28 出土遺物集計表（鉄製品）

器種	破片数	重量 g
折釘	28	109.9
鉄鍋	3	124.4
平釘	1	23.3
丸釘	3	24.4
針金	2	11.6
不明	33	550
総計	70	843.6

表29 遺構土壌選別表

(単位：g)		第1調査区		第5調査区			第7調査区	第10調査区	第15調査区	
区別	種別	焼土1	焼土2	土壌1	土壌2	土壌3	土壌1	土壌1	土壌1	
植物性遺物	木炭			3.6		1.3				
	米			0.4			2.8		0.2	
	クルミ						1.1			
	小豆					0.4	0.6			
	ぶどう						0.4			
	茅材								0.5	
	炭化樹皮									
	不明種子		0.8	1.8	1.4	3.3	3.8		0.7	
動物性遺物	魚骨(椎骨・小)						0.7	0.5	0.4	
	魚骨(耳骨)						0.2			
	歯・爪					0.4	0.9	0.2	0.2	
	不明骨(大)									
	不明骨(小)	0.3	0.5	0.5			17.0	1.7	0.2	
	貝			0.4			0.4			
	焼骨						1028.9			
	虫			0.5	0.2					
その他	不明溶解物(粒状)		0.4			0.5	83.6		0.3	
	鍛造測片						9.3			
	磁着石						5.9			
	焼土塊	9.4	8.6			340.7	170.6	23.4	5.5	
	スラッグ						0.6			
	鉄製品			1.4	0.5	22.4	158.0			
	銅製品				1.5		1.0			
	土器						138.9			
	石器						0.2	20.2	2.7	
	黒曜石							23.3		
	玉砂利							74.9	1.9	
	不明炭化物							29.8		
	炭	0.1	0.4			3.4	15.5	196.4	0.2	7.4
		採取土量(kg)	10.2	1.8	640.8	484.7	802.8	1932.3	23.1	130.3

表30 出土遺物集計表(陶磁器等)

地区		青磁	青花	大窯	唐津	肥前	備前	近代以降	骨角器	石製品	銅製品	捺文	縄文	石器	不明	合計
1	I				1						2					3
	II		2	1	2											5
	Pit7													1		1
	排土		2		2											4
2	排土							2								2
	I				1			4								5
6	排土			1												1
	I			3												3
	II		4	2	3			1						2		12
	土壌1	1	1	2					1		1		1	3		10
7	攪乱		1		1								4	1		7
	溝2													1		1
9	IV												4	5		9
	I						1			1						2
10	II				3								1			4
	Pit2														1	1
	土壌2													1		1
	排土		1		1											
11	I					2		2								4
	II上					2		8		7						17
12	I							1								1
	I					1								12		13
14	I			1	2			5						3		11
	II		2			4								1		7
	溝1		1													1
	溝2											47	15			62
15	III		1	2	1	1			3	1	1			3		13
	IV		1											1		2
	Pit1		4	5	20											29
16	I													1		1
	溝1													1		1
合計		1	20	17	37	10	1	23	1	3	12	1	57	51	1	235

2. 出土遺物 今回の調査では合計301点の遺物が出土している。そのうち陶磁器は106点、土器は58点、石器は51点、銅銭37点である。

陶磁器は岬の地区で出土している。岬の先端付近の第1調査区や第7調査区といった館神社周辺や第14調査区や第15調査区付近で出土する傾向があるようである。第7調査区土壌1で出土した青磁の稜花皿が唯一の15世紀台の遺物であるがその他は16世紀から17世紀初頭にかけてのものである。器種別に見ると碗皿が中心であるが第1、6、

### Ⅲ 小 括

ここでは第5調査区で検出した土葬墓、火葬墓、礎石建物跡について考察したい。

土葬墓 今回の調査では2基の土葬墓を検出した。いずれの土葬墓もやや北東寄りに長軸を持ち、似通った規模である。土壌1の時期については覆土から瀬戸・大窯の皿などが出土しているところから16世紀前葉以後であると考えられる。土壌2についても時期を積極的に決定する根拠に乏しいが、Ko-dを被った礎石建物跡に伴う砂利敷きの直下にあり、砂利敷きと土壌2の間に堆積土がほとんど見られないことから、土壌1と大きく時期を違えることはないと思う。

土壌2からは薄い板状の木片が出土しており、また鉄釘の分布状況からいっても木棺が収められていたことは間違いの無いところであろう。一方土壌1については土壌2とは対照的に木片や鉄釘などの木棺の存在を裏付ける確証はない。鉄釘を使わない木棺の使用も考えられなくはないが、直に埋葬した可能性も考えられるだろう。

また土壌2の直上に礎石建物に伴う砂利敷きが認められることから埋葬された当初から墳丘を作っていなかったと考えられる。もしも埋葬した当初は墳丘を作っていたならば礎石建物を建てる際に墳丘を完全に削平したことになり、両者の時間差があまりないことからいっても墳墓を破壊するという行為は考えがたいところである。また墓標の痕跡も認められず、直接墓の位置を示すものは無いといえる。土壌1についても墳丘や墓標を立てた形跡が見られず、土壌2と同様に墓の位置を示していなかったと考えられる。

火葬墓 土壌3は火葬墓である。副葬品と見られる銅銭や人骨片を検出したことから火葬墓とし

15調査区では天目茶碗が出土している。過去には茶臼が表面採取されている。また第15調査区では硯が出土している。

銅銭は大半が第5調査区の土壌墓から出土している。第5調査区では至道通宝（初鑄年995年）から永楽通宝（初鑄年1408年）まで見られるが、寛永通宝（初鑄年1637年）は見られない。不明としたものには割れたものなどがあるが、無文銭と考えるもの2枚を含む。（三浦英俊）

たが検出面から炭化物や焼土、焼けてもろくなった礫が認められ、火葬墓である前に火葬施設であるといえよう。土壌内の礫は墓標の役割を果たすというよりは火の廻りをよくするためのものであろう。

炭化物の堆積層中から炭化した木片が付着した鉄釘が出土しており被葬者は木棺に収められた状態で火葬されたと考えられる。火葬した後に改めて収骨したかどうかは判然としない。

土壌3について問題になるのはその構造である。土壌1、2よりもやや大きめの土壌を掘っているが、半分ほど埋め戻している。このときにはおそらく何も埋葬していないと考えられる。すなわち火葬跡より下の層では人骨をはじめとして木片、鉄釘や銅銭などの埋葬の痕跡と見られる確証は得られず、また土壌3や他の土壌の遺物の出土状況から考えても土壌3下層にあった遺物だけが失われたとは考えにくい。何も埋葬せずに埋め戻したうえで礫を並べるなど火葬のための準備をし、火葬したという状況が考えられる。

追葬、あるいは後世のものが偶然重なった可能性もないではないがそうした切り合い関係は平面においても断面においても確認することはできなかった。

また土壌3の底面付近で検出したKo-dも解釈しづらいところである。もしも下層に木棺などによる埋葬の痕跡が認められれば埋葬の後に降下したKo-dが木棺が土圧によって潰された際に一緒に落ち込んだということも考えられるが、前述した通り先に埋葬がなされていたとは考えにくい。とすれば墓壇を掘り上げて何も手を加えないうちに丁度よく駒ヶ岳の爆発が起こって火山灰が降っ

てきたことになるのであろうか。

いずれにしても土壙3において火葬が行われたのはKo-d降下後であることは確実であり、他の2つの土葬墓や礎石建物跡よりも後のことである。

**結語** 今回の調査で検出した土壙墓群は古文書などの文献資料には全く現れておらず、またもともと背の高い雑草が生い茂っていた当地を調査区を設定するために草刈りを実施した後でも墳丘のような地形の変化は見られず、発掘を始めて初めて土壙墓群の存在が明らかになるという、全く予想外の成果であった。被葬者がどのような人物であるかは将来の調査に期待したいところであるが現在の石崎集落近辺に暮らすなど、何らかの関わりを持つ人物であることは間違いのないところであろう。

土葬墓と火葬墓の間で比較的長期間の時期差が考えられることも見逃せない。前述した通り墳丘や墓標といった個々の墓の位置を示すものがないにもかかわらず、長期にわたって墓地として認

知されていたことになる。恐らくは墓標の役割を果たしていたのが礎石の上に建っていたであろう建造物であろう。この建造物が何であるかは更なる調査と検討が必要であり、ここで断定することはできないが平安時代末期に成立したとされる『餓鬼草子』のなかの墓地の様子を表した場面では墳丘の上などに卒塔婆や五輪塔を設置しているものがあり、当地にも同様の施設があったのであろうか。なお今年度調査した夷王山墳墓群でも同様の礎石を検出しており、報告書を参照されたい。

分布調査という調査目的のため調査範囲をあまり拡大せず3基のみの検出となったが、恐らく墓地としての広がりはまだあると考える。今回の調査で検出した墓地と15世紀半ばに生きた厚谷将監重政や比石館跡といかほどの関係があるかは不明なところであるが、今後本格的な調査が行われればさらにはっきりとした事が判明するだろう。

(三浦英俊)

## IV まとめ

第14区(第24図、附図2)にて空壕、柱穴、溝、土壙が確認された。調査により2時期以上あることが確認された。基本的には、P6がⅢ層面、空壕覆土上面からの掘りこみであり、空壕より北側の調査内の大多数の柱穴がⅢ層面である。空壕は溝1よりも古い時期のⅣ、Ⅴ層面を掘りこみしている。空壕周辺では、Ⅱ、Ⅲ層が全く堆積しておらず、削平されている。Ⅱ層がないことからⅡ層以後の削平と考えられる。従って空壕と同様Ⅴ層面から掘りこんでいる同時期のP58、10も同様に削平を受けている。これらのピットは空壕と同時期であり、これを渡る橋のような施設と考えられる。空壕も西側の幅が狭く、上端部分が欠失し浅くなっている。これも近現代の削平かあるいは崩落現象かと考えられる。また溝1覆土の下にはP15が掘りこまれており、また溝1覆土上面から掘りこまれている柱穴はない。このことからこの地区では溝1が一番新しい。しかし覆土内にKo-d均一層があることからKo-d以前の時期であり、覆土の遺物から16世紀末～17世紀初頭と思われる。この溝については布掘のように内部に小ピットを持たないため、その性格は不明である。一方第15区においても溝が検出された。溝は調査区北端で

あり、電柱等の障害物に阻まれ、幅すら明確に確認出来なかったが、推定幅1.8m、深さ60cmほどあり、底部はやや幅を持ち小型の空壕のようである。やはり14区と同様この調査区でも最低2時期確認されているが整地層であるⅢ層は堆積しておらず、いずれもⅣ層中世面からの掘りこみの柱穴群である。上面のⅣ層-1のP1から16世紀末～17世紀初頭の遺物群が出土しており、この面は16世紀末～17世紀初頭である。またⅣ層-2からの遺物は若干古くなるが、16世紀内に納まるものであり、15世紀まで上がらない。さらに中央部の道を挟んだ第16調査区において空壕の延長部を探したが、削平あるいは崩落によるものか不明であるが、土が殆ど削平されており、確認出来なかった。一方第8区においても2基の溝が確認されたが、いずれも南北方向に走っており第14区とはほぼ直交する形となるが、中間部が未調査のためその関係は明瞭ではない。第7調査区において土壙、柱穴群が検出された。土壙は大型の方形であり、覆土から永楽通宝等の銭3点、青磁、煙管、玉5点が出土した。フローテーション(表23)により玉のほか覆土から小札、小柄、和釘の小破片が多数、不溶解物、炭化物、焼土塊が多量に検出されてい

る。表23によると植物性や動物性の遺物に比べ、鉄製品や焼土塊、磁着しないが、金属かガラス質のものが高温により溶けた状態のもので、表面が気泡状の穴を有している不透明溶解物が圧倒的に多い。またこの土壌1は四隅に柱が打ちこまれており、上部構造の存在を覗わせる。覆土内からの遺物出土傾向から食物残渣廃棄等の土壌ではないこと。玉、陶磁器等も検出されているが、小破片であり、銭が3枚と非常に少ないことから墓の可能性は低いように思われる。むしろ150gを超える小札や和釘、小柄の鉄製品の破片、炭化物、焼土塊等の多量の検出、また鍛造剥片も見られることから、鍛冶関係の遺構と考えたほうが妥当ではないだろうか。尚覆土は下部がロームブロックが入り、やや埋め戻しているようである。尚下部底面近くの覆土にKo-dが入り、覆土より上の層にII層が自然堆積することからKo-d以前の遺構である。また覆土上面から柱穴が掘りこまれており、この地区ではやはり第15区と同様2回の時期が考えられ、この土壌は古い方の時期と考えられる。この土壌に類似したものとしては青森県浪岡城跡の発掘調査にて検出されているSX31があるが、ここでは墓塚としている。これらのことから11区、14区、15区と同様2回の時期が確認されており、この比石館跡では中世面が少なくとも2回あったと考えられる。古い時期は遺物から16世紀代であり、もう一つのやや新しい時期は遺構から出土する遺物や遺構外出土遺物から16世紀末～17世紀初頭、Ko-d以前の時代とすることができる。一方文献では「…長祿元年五月十四日夷狄蜂起來而攻撃志濃里之館小林太郎左衛門尉良景…其後攻落…比石之館主畠山之末孫厚谷右近將監重政所々重鎮…」(新羅之記録)とあり15世紀代に比石館が機能しているとしている。またその後の記録としては

「天文15 丙午 春 下国安東尋季、出羽国河北郡深浦の森山館主飛騨季定の反乱鎮圧のため本拠地の同郡檜山より発向。3月15日森山館陥落、季定自尽。時に蛭崎季広は尋季により厚谷季政らの士卒84人を従えて海路小泊に渡り3月5日森山到着、搦手の大将として森山館の攻撃に参加」(新北海道史年表)。とあり、その後福山秘府、新北海道史年表には「寛永十四年の福山火災の折寺社町奉行酒井伊兵衛広種とともに厚谷四郎兵衛貞政が松前公広を救った」との意味の記述があり、厚谷家記によると前の代の季貞の時に松前藩家臣となっていたとの意味の記述もある。しかし初代重政からこの間の2、3代目がどこに住んでいたか不明である。長祿元年(1456)からこの寛永14年(1637)の間の時期であり、遺物からみるとこの比石館からこの時期の遺物が出土しており、ここに住んでいた可能性がある。この地区をすべて調査したわけではないが、基本的に15世紀代の遺物が1点も出土しないことから、コシャマインの戦い当時の比石館はこの場所ではなく別の場所であった可能性も考えられる(附图2)。現石崎川は東の下方を流れているが、宇石崎地区は石崎川の扇状地であり、この上に市街地が発達している。従って、15世紀末の時代、川筋事態も蛇行しながら流れていたと考えられ、川の位置がこの石崎市街地一帯のどこかであったと考えられる。となると、記録にみえる比石館は別の場所でも差し支えなく、東側の舌状に緩斜面をもつ石崎八幡宮の裏山か、あるいは宇石崎地区市街地の入り口の海岸に張り出した舌状の平坦部を持つ丘陵の可能性もある。2～3年後、石崎市街地の分布調査に入る予定であるが、その際この2つの丘陵にもトレンチを入れ、その確認を行いたい。

(齊藤邦典)

# 字向浜地区分布調査

## I. 調査の概要

### 1. 調査の経緯

上ノ国町字向浜地区は上ノ国町の北部を流れる天ノ川の左岸に形成された砂丘上に位置する戸数30軒ほどの集落である。

対岸には平成9年度に詳細分布調査が行われた上ノ国町字上ノ国地区を望む。さらに南西には上之国勝山館跡、南には上之国花沢館跡が見える。北東には洲崎館跡と推される丘陵地帯が連なっている。当地区のほぼ中央に位置する川裾神社は天保2年(1831年)創立と伝えられ、伊邪那岐(いざなぎ)命を祀る。

当地区を東西に走る町道は松前から江差へ抜ける福山街道の名残であり、天の川を隔てた字上ノ国との間には少なくとも江戸時代には渡し舟が通されていたことが記録に残っている。この渡し舟は戦前頃まで続き、両地区の行き来に利用されていた。

また当集落の南東に隣接する空地は河川改修された旧目名川の跡地である。太平洋戦争直後に撮影された航空写真には新旧2本の目名川が写っており、旧目名川は自然に消滅していったようである。

当地区の成立についてははっきりしないが、大正年間の記録には戸数35軒を数える集落であった。また明治時代には天ノ川上流の字湯ノ岱地区で切り出され、流送してきた材木を貯めておく土場という施設があり、土場に関わる杣夫たちと杣夫を相手に商売をする人たちでにぎわっていたという。

当地区では表面採集によって明治時代の陶磁器を得ることができるが、本格的な調査はなされていなかった。また当地区は洲崎館跡と隣接しているため洲崎館との関連性も考えられる。そこでこうした状況をふまえて詳細遺跡分布調査をおこない、字向浜地区の成り立ちについて探ることとなった。

### 1. 調査の方法

字向浜地区において地権者の理解と同意が得られた地点について調査をおこなった。地区設定は1~2m×4~5m程度のトレンチ、あるいは一辺1~2m程度のテストピットを基本とし、状況に応じて拡大した。調査区名は調査に着手した順に第1調査区、第2調査区...とした。

調査は遺構を確認しつつ可能なかぎり掘り下げた。遺物はI層については一括で取り上げ、II層以下については層位ごとに平板によって取り上げた。遺構覆土についてはできるだけ全量採取し、後日フローティングにより選別して計量した。

### 2. 調査の経過

平成12年5月10日 調査開始 第1調査区、第2調査区で木製品を検出する。

平成12年5月16日 第4調査区において溝を検出。

平成12年5月29日 第9調査区に移る。以後第9~13調査区において多量の陶磁器を検出。

平成12年7月6日 調査終了

### 3. 基本層序

第1~8調査区と第9~第13調査区では層位の形成過程が全く異なっており、一概に述べることはできないがおおむね次の通りである。

I層 近代以降の整地層、あるいは堆積土層。

II層 近世以降の堆積土層。第1~8調査区では当該時期に古い目名川が流れていたことがわかっており、さらに細分される。

・II1層 江戸時代末期、明治時代の堆積土層。

・II2層 江戸時代の堆積土層。駒ヶ岳D火山灰(Ko-d)を含む層である。

・II3層 江戸時代初期までの堆積層。目名川の流路の変化で、粘土層と砂層が交互に重なっている。

III層 2.5Y3/3オリーブ褐色~10YR4/3にぶい黄褐色 細砂

IV層 砂層 (三浦英俊)

## II 調 査

第1調査区、第6調査区（第29図）旧河川跡と考えられる草地に設定した調査区である。本地区を含む旧河川跡で行った調査では湧水が激しく、遺構の有無を確認しきれなかった箇所がある。

本地区の土層の状態は自然堆積した粘土質であり、旧河川の流れに伴って堆積したものと考えられる。Ⅱ層の中ほどにKo-dが少量ながら確認でき、第1調査区ではKo-dよりも下層から木製品、自然木が出土したが陶磁器など時代の特定ができる遺物は出土していない。

第4調査区、第5調査区（第29図）旧河川跡と考えられる草地に設定した調査区である。第1調査区、第6調査区と同じく土層の状態は自然に堆積した粘土質である。ただし、Ⅱ3層以下は砂層と粘土層が交互に重なって堆積しており、旧河川の水の流れの状態の差が砂を堆積させるか粘土を堆積させるかの違いにつながったと考えられる。Ⅱ3層からは杭や板材などの木製品が出土したが未成品、あるいは木屑と考えられるものも多く含まれている。

(1) 溝1、溝2（第29図）Ko-dを含んでいるⅡ2層の下で溝跡を2本検出した。溝1、溝2ともに幅70～80cmで、深さは約20cmである。溝1は第4調査区、第5調査区にまたがって検出している。溝2がつくられて以降は砂層が形成されていないので旧河川の流れに何らかの影響を及ぼす施設の一部と考えられる。遺物は板状の木製品などが出土している。（三浦英俊）

### 第9調査区（第30図、附図1）

国道228号線から町道がほぼ西方向に砂館神社の前を通りすぎて、字向浜地区を縦断し、さらには現天の川河口付近まで伸びている。この町道を洲崎館跡から天の川河口に向かって約900m行った地点の向浜の集落のほぼ中央部で、町道に沿って海側に6m×6mの調査区を設定した。Ⅲ層面から柱穴、小ピット、炭化物が薄く分布する箇所を検出した。時期的には近世末期である。

堆積土層はⅡ、Ⅲ層ともシルトが若干混じる細砂であるがⅣ層はシルトを含まない粗砂であり、粒子が大きく、川砂様である。遺物は近世瀬戸、美濃のほか肥前、唐津

### 第10、11区（第30図、附図1）

第9調査区に隣接して調査区を設定した。

第10調査区土層堆積図によると、Ⅱ層面とⅢ層面2時期からの柱穴の掘りこみあり。11区では主にⅡ層からの掘りこみが多い。柱穴、土壌、炭化物範囲が検出された。遺物は9区と同様の傾向を示す。

### 第12調査区（第30図、附図1）

10区に隣接して調査区を設定した。Ⅱ層から60基の柱穴、10基の土壌、その他小ピットが検出された。土壌、柱穴は調査区内北側に集中する。土層堆積は土壌、柱穴ともⅡ層掘りこみの近代初頭からであり、以下の層からの掘りこみは見当たらない。柱穴、土壌がかなり錯綜しており、数度の建物の建て替えが行われている。尚土層堆積で見る限り土壌はⅡ層面、柱穴はⅡ-2やⅡ-4層面からの掘りこみであり、若干の時期差がある。しかし平面図では土壌が柱穴に切られているものもあり、土壌と柱穴がセット関係になる可能性が強い。Ⅱ層はシルトが若干混じった細砂であり、非常に遺構壁面が脆い状態である。またSPA～A'のⅡ-4層やSPB～B'のⅡ-6層では炭化物の多量堆積がある。このような層的な炭化物の堆積は昭和40年代以前にも火災があったことを物語っている。尚図示していないが、SPA～A'間には幅30cm程のトレンチを土層断面に並行して入れており、P60～P80までの平面は図示していない。

### 土壌1（第31図、30図）

約90cm×90cm、深さ30cmのほぼ方形の土壌である。底部には残存厚さ2～4cmほどの板材が同一方向にびっしりと敷き詰められている。覆土は上面にロームブロックが入る層もあるが、全体に小玉砂利が入りやや粗の状態である。また図にあるように覆土内から90点余の多量の木質付着の丸釘が検出されている。底部の木質から若干レベル差の有る状態で、覆土中央部に木質が存在することから、この土壌は釘の打たれた箱状のものが埋まった状態と考えられるが、土壌覆土に掘り方覆土がないため埋め込み状とも考えられる。

### 土壌8（第31図、30図）

覆土上面に20cm大の礫で覆われている土壌である。155cm×90cm、深さ20cmの不整円形。中央部

が80cmの幅で底部が15cmほど深くなる。覆土にはロームブロックがほぼ全体に含有し、ハードなことから埋め戻しの状況である。

#### 土壌 3、4、5 (第31図、30図)

土壌 3 は75cm×70cm、深さ33cm、土壌 5 は95cm×80cm、深さ20cmの不整形円形であり、覆土は土壌 3 は粗砂主体、土壌 5 はシルト主体に粗砂が若干である。いずれも底部には小玉砂利が入る。自然埋没である。

#### 土壌 9 (第31図、30図)

97cm×80cm、覆土上面は削平されたが、推定深さ20cm程で浅い。自然埋没である。

#### 第13調査区 (第32図、30図)

第12調査区と第9調査区との間に位置する。4.7m×7.5mの調査区。7基の土壌、49基の柱穴、炭化物集積範囲が検出された。Ⅱ層とⅢ層の時期があり、Ⅱ層に多く分布する。土層堆積は土壌13、P1、P6等Ⅲ層面からの掘りこみが多い。Ⅲ層面では土壌が中心であり、Ⅱ層面では柱穴と土壌となるが、土壌はほとんど柱穴に切られている。この場所で、最初は土壌を作る空間で、のちには建物空間へと変化していったことがわかる。遺物は近世肥前、唐津のほか近代以降が他地区と同様多い。

#### 土壌 1 (第32図、第30図)

70cm×80cmの不整形円形。深さ12cm程と浅い。フローテーションにより、鉄製品が134gと多量に出土している。

#### 土壌 5、8 (第32図、第30図)

土壌 5 は75cm×65cm、深さ25cm。土壌 8 は70cm×65cm、深さ20cmと浅い。

#### 土壌 3 (第33図、30図)

70cm×94cmの不整形円形、深さ48cm。壁面が急傾斜で立ち上がる。下端は約40cmのややゆがんだ方形をなす。四隅には直径6cm程の杭が打ち込まれ、その外側には高さ15~20cmの板材が横に立てられる。3面にしかこれらの板材は残存していないが、本来は4面にあったと思われる。フローテーションの結果、38.7gの鉄製品が検出され、その殆どが小型の釘であった。

#### 土壌 2 (第34図、30図)

80cm×80cmのほぼ円形。深さは32cm。壁面の立ち上がりは急である。P36と重複しており、P36は土壌 2 が自然埋没していく過程で掘りこまれている。覆土は上部1~4はシルト主体であるが、下部では粗砂となる。

#### 土壌 7 (第34図、30図)

70×75cmの不整形円形、深さ12cmと浅い。壁面の立ち上がりはやや急である。覆土は細砂~粗砂で自然埋没である。

#### 土壌 6、14 (第34図、30図)

土壌 6 は80cm×67cmの不整形円形。深さは24cmで、壁面の立ち上がりは緩やかである。土壌14は深さ20cm、壁面の立ち上がりは急である。2基とも自然埋没である。

#### 土壌 12 (第34図、30図)

50cm×58cmの不整形円形。深さ15cmで壁面の立ち上がりは緩やかである。

#### 土壌 10、11 (第34図、30図)

土壌10は66cm×66cmの円形。深さ17cm程で浅いが、壁面の立ち上がりは緩やかである。土壌11は38cm×48cm、深さは8cmと浅い。

#### 土壌 9 (第33図、30図)

77cm×53cmの不整形円形。深さ21cm。

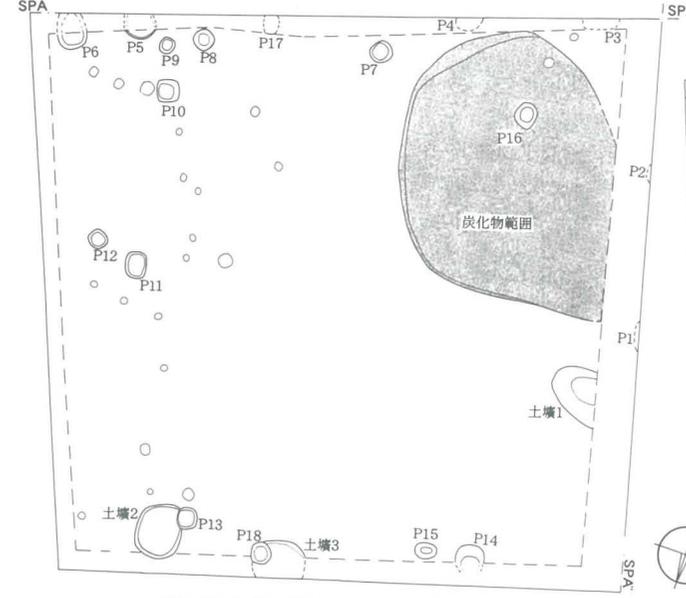
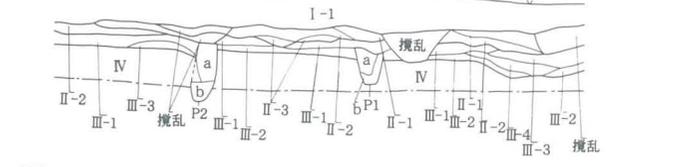
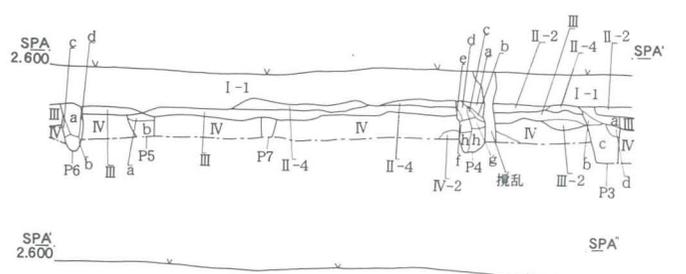
第13調査区での土壌は13基ほど検出しているが、フローテーション等の結果によると、殆どの土壌で種子等は微量であり、主に鉄製品、陶磁器片が多量に検出された。

#### 第14調査区 (第29図、30図)

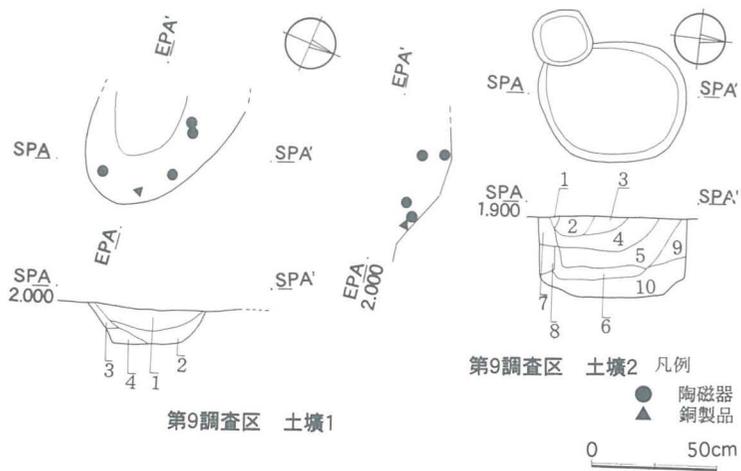
川裾神社境内。第9~13調査区から200m程洲崎館跡方向へ町道を戻った海側に川裾神社がある。調査区はこの神社の境内の町道よりの箇所である。この神社北西側の海浜に面した神社裏側は小高い砂丘となっており、季節風の当たらない地域である。遺構は確認できなかったが、中世白磁1点が出土した。土層堆積は、Ⅰ層の堆積は厚いが、所謂、洲崎館跡や比石館跡、勝山館跡に見られるⅡ層があり、Ko-dの自然堆積が見られた。第9~13調査区とは違う土層堆積であった。

(齊藤邦典)



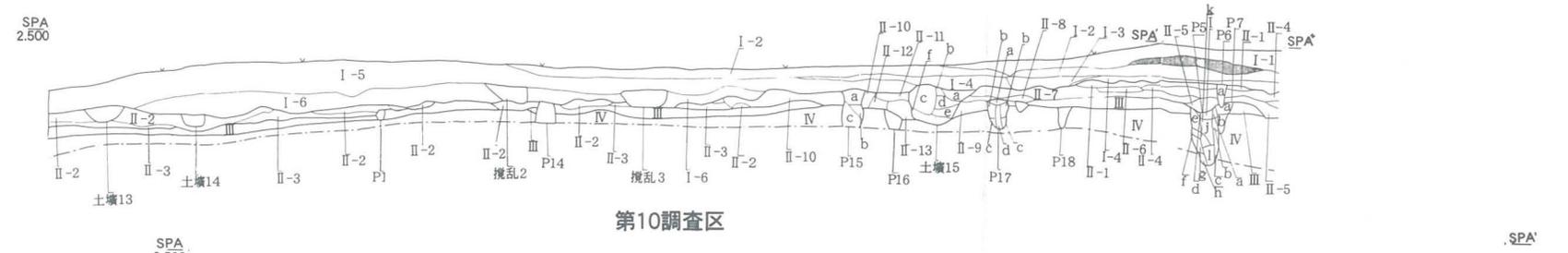


第9調査区 第III層遺構配置図

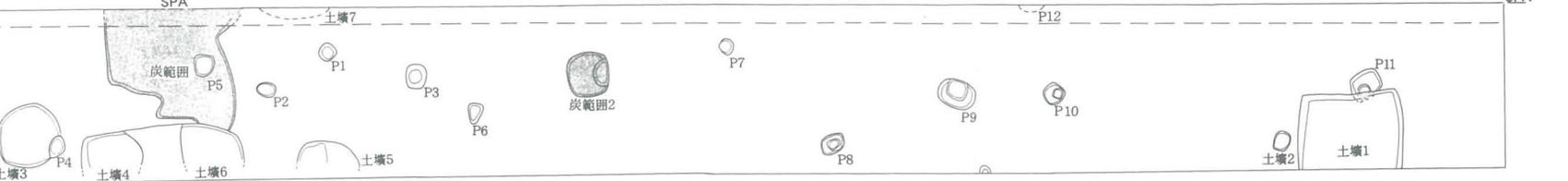
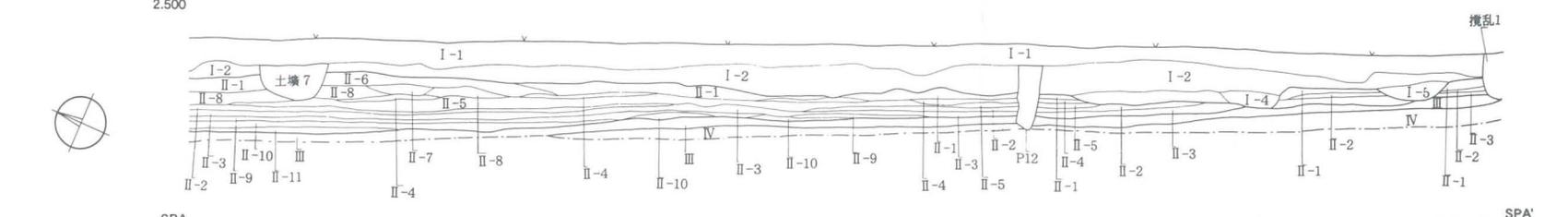


第9調査区 土壙1

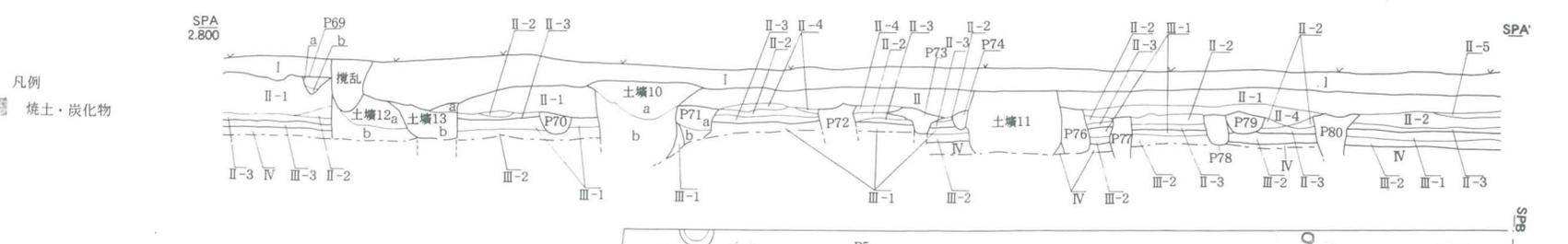
第9調査区 土壙2 凡例  
● 陶磁器  
▲ 銅製品  
0 50cm



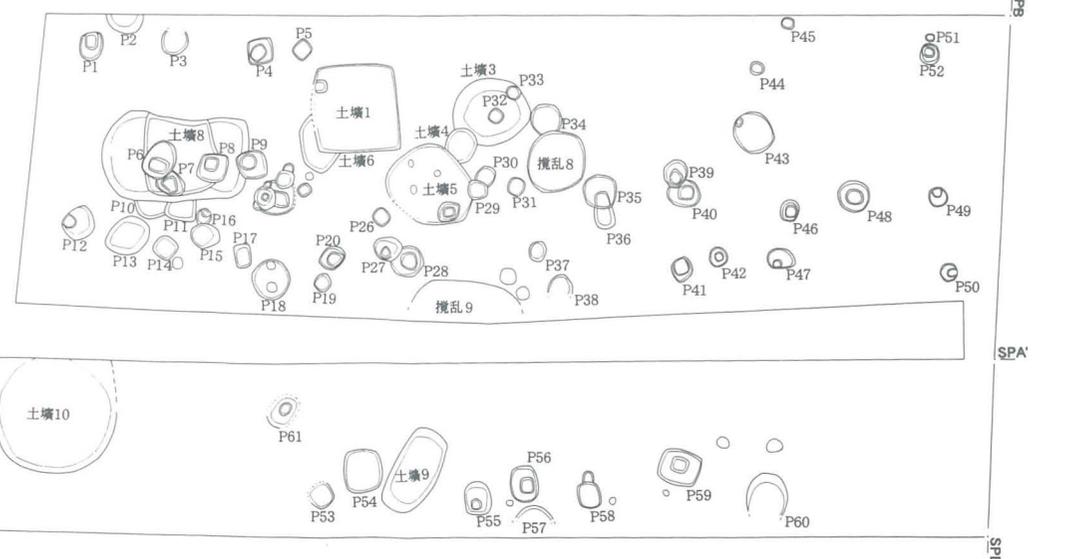
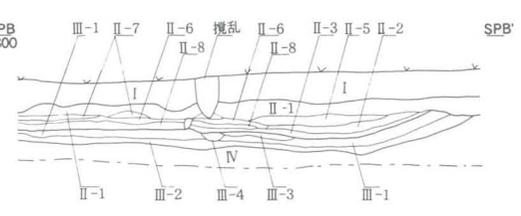
第10調査区



第11調査区 第II層遺構配置図



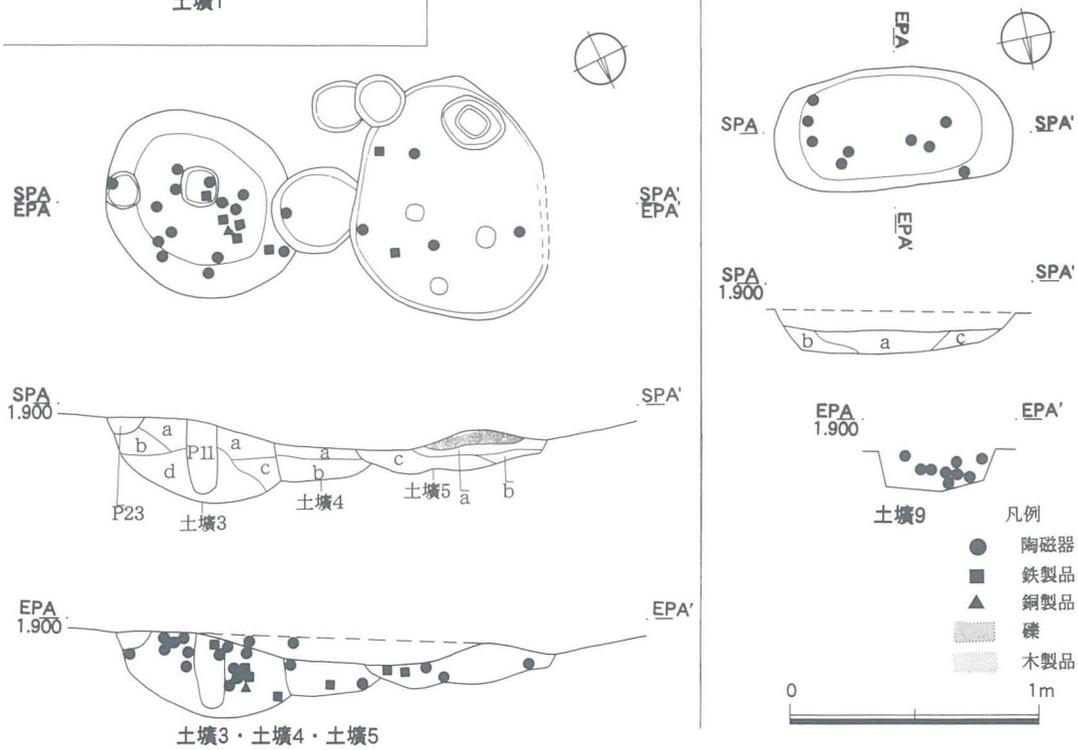
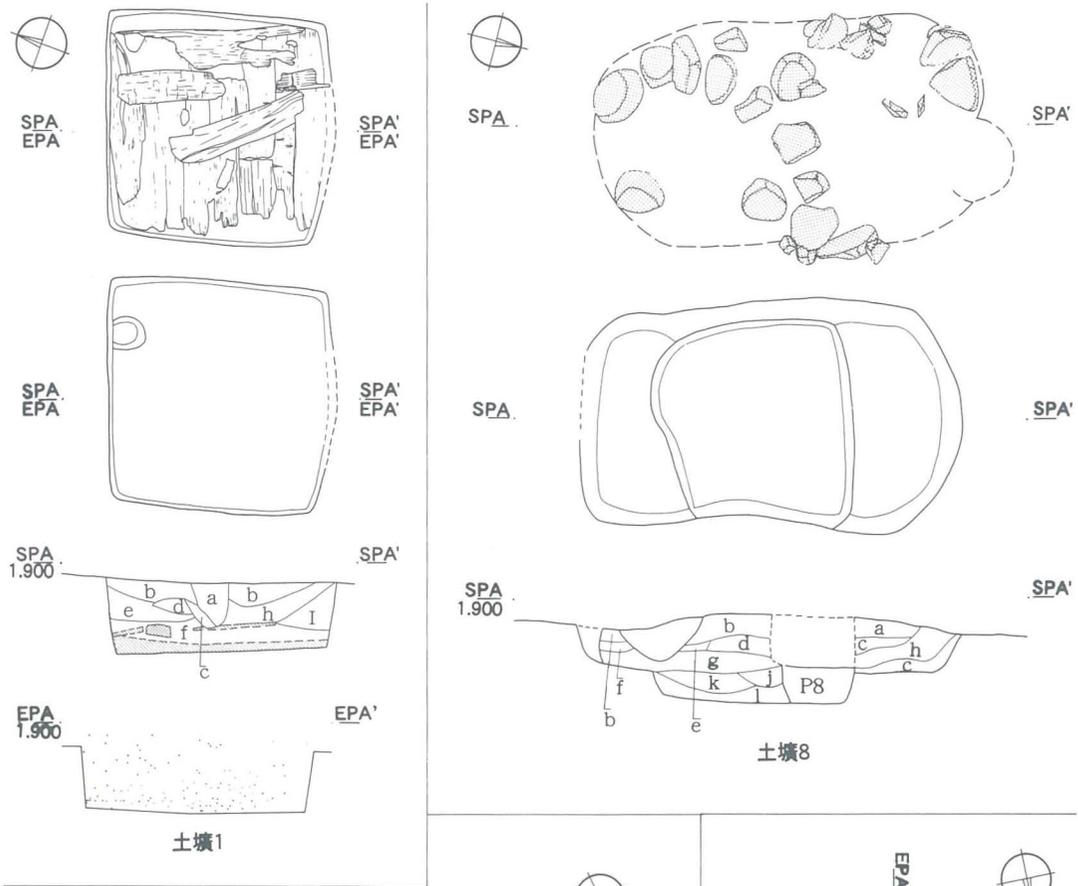
凡例  
■ 焼土・炭化物



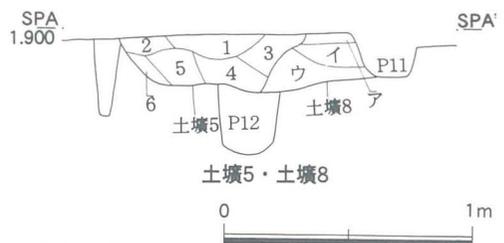
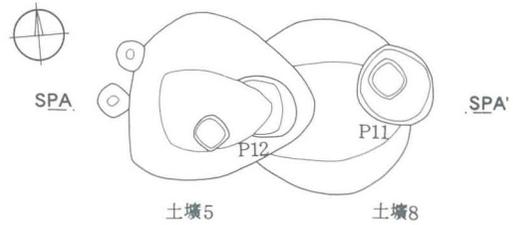
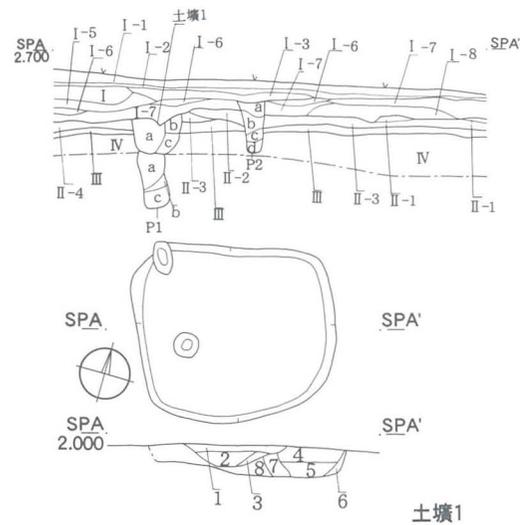
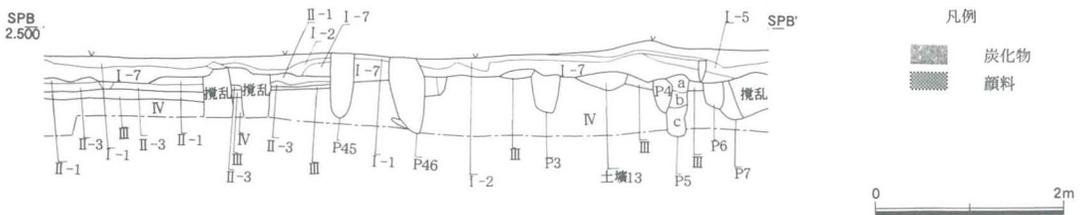
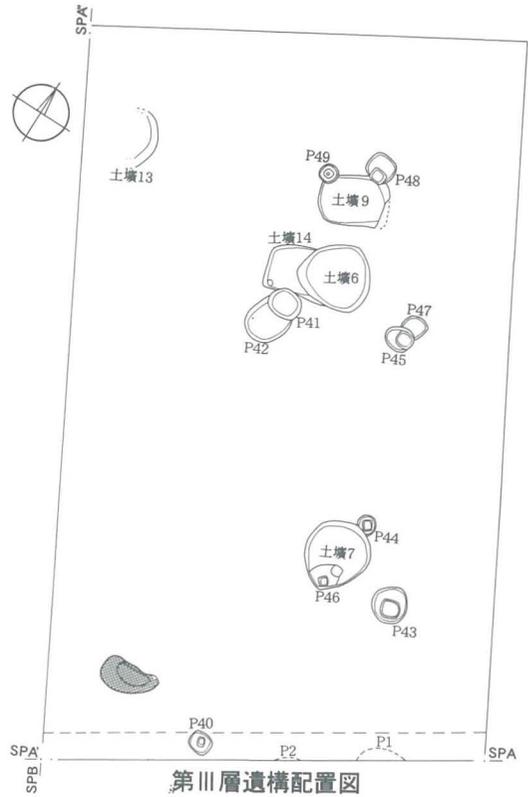
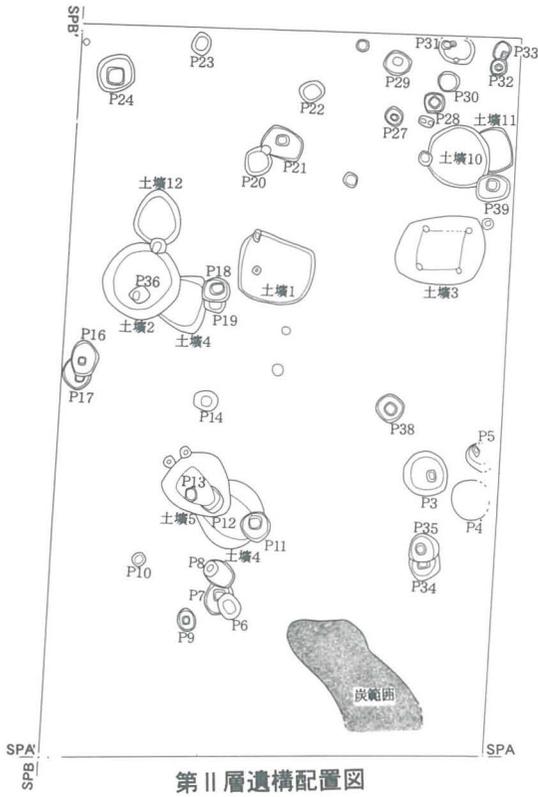
第12調査区 第II層遺構配置図

第30図 調査区土層堆積図他

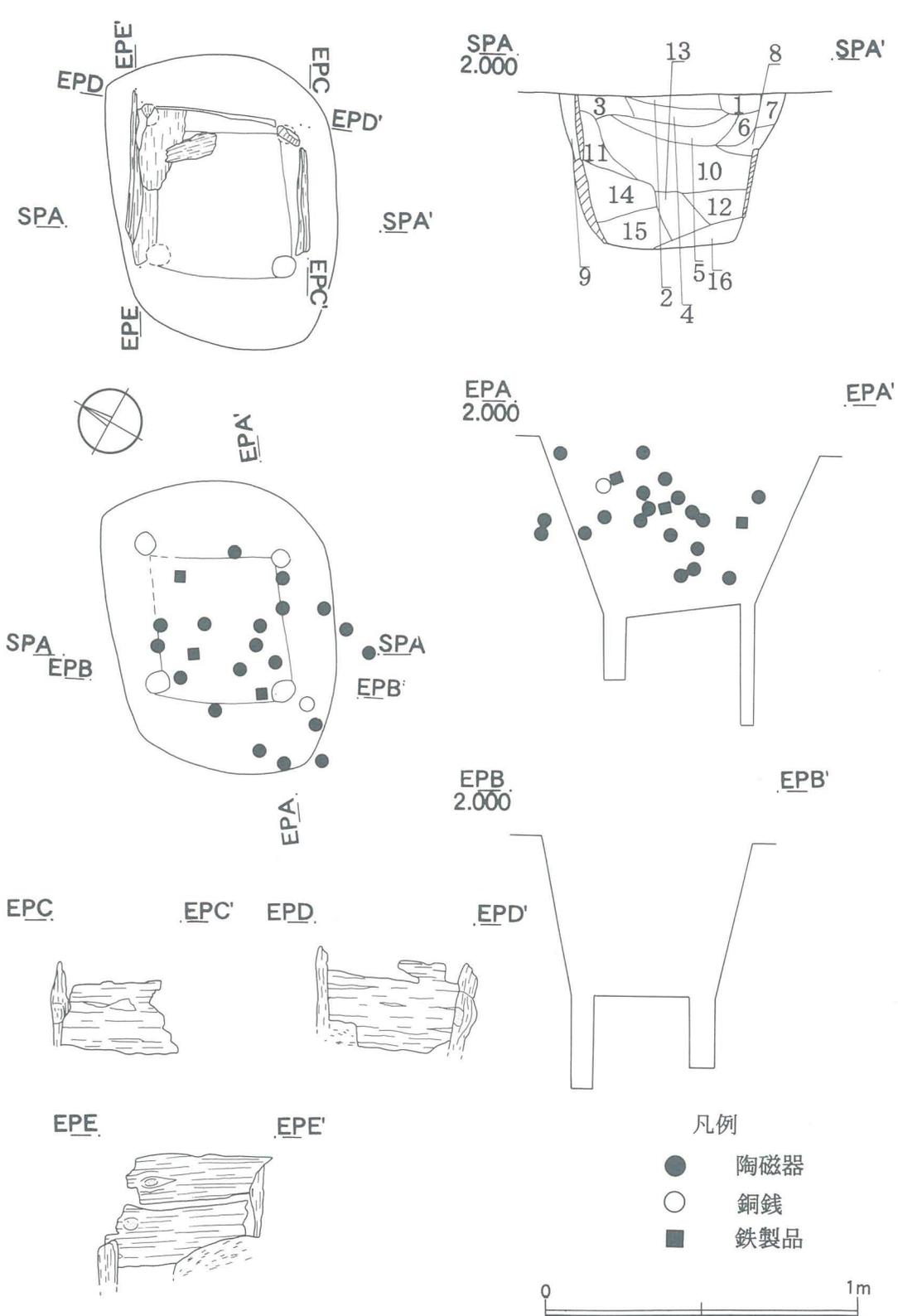
0 2m



第31図 第12調査区遺構平面図他



第32図 第13調査区土層堆積図他



第33図 第13調査区 土壙3平面図他

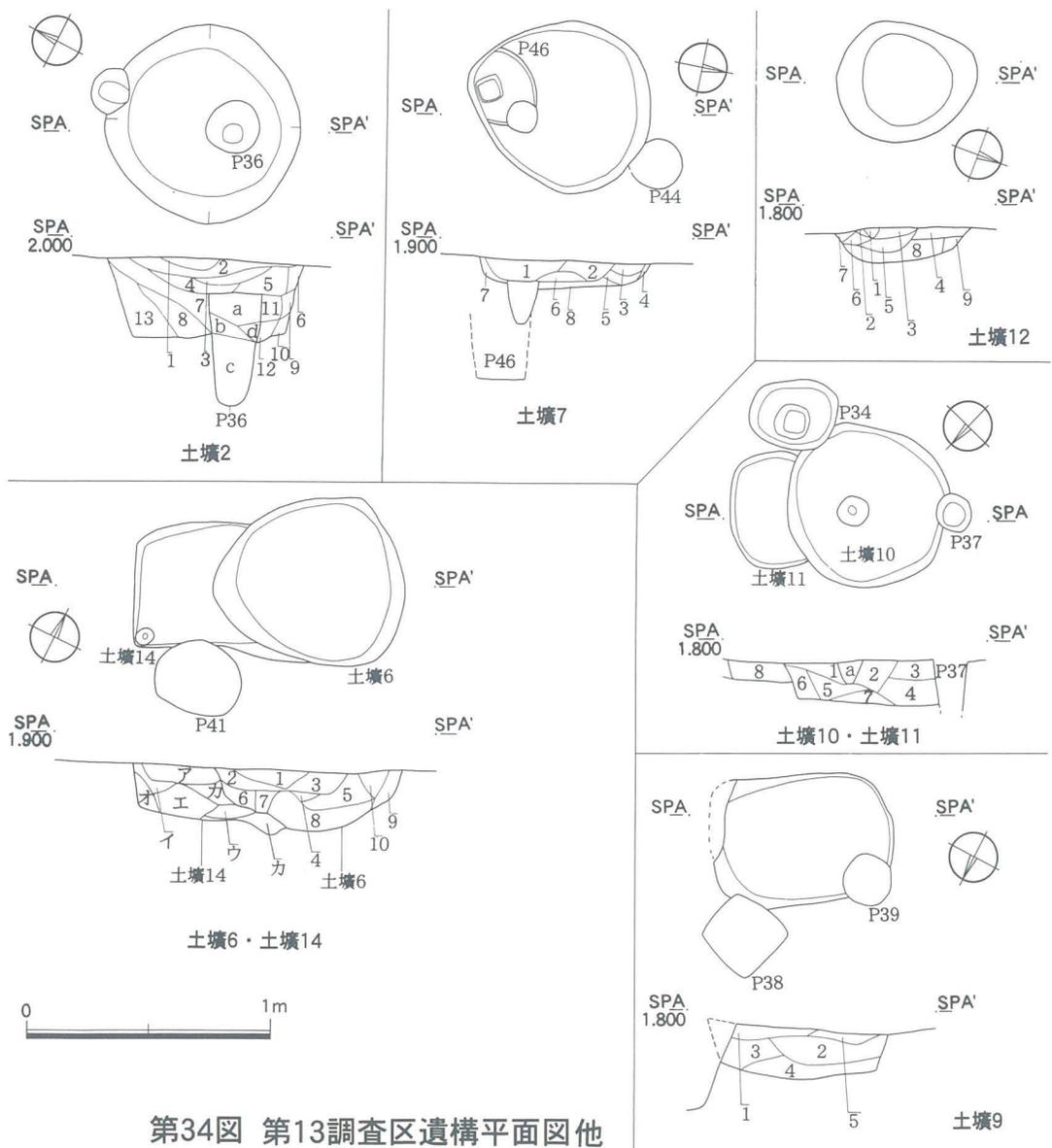


表31 調査区土層観察表

第1調査区 南北セクション東壁 (SPA-SPA')

I-1	10YR4/4	褐	シルト	ややハード
I-2	2.5Y4/3	オリーブ褐	シルト 粘質やや強い 鉄分を多く含む	ややハード
II-1	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土 Ko-d粒少量	ややソフト
II-2	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土 木片、自然木を多く含む	ソフト
II-3	2.5Y4/1	黄灰	細砂	ソフト
III	5Y4/1	灰	細砂	ソフト

第4調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')

I-1	10YR4/4	褐	シルト	ややハード
I-2	2.5Y4/3	オリーブ褐	シルト 鉄分多い、粘質強い	ややハード
II	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト やや粘土質、Ko-d粒少々	ややハード
II-3-1	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土 やや砂質	ややソフト
II-3-2	5Y3/2	オリーブ黒	粘土	ソフト
II-3-3	2.5Y3/2	暗灰黄	細砂 2.5Y3/3暗オリーブ褐細砂50%	ソフト
II-3-4	5Y4/1	灰	細砂	ややソフト
II-3-5	5Y4/1	灰	細砂	ややソフト
II-3-6	5Y4/2	灰	細砂	ソフト
II-3-7	2.5Y3/2	黒褐	粘土	ソフト
II-3-8	5Y4/1	灰	細砂	ソフト
II-3-9	2.5Y3/2	黒褐	粘土	ソフト
III	5Y4/1	灰	細砂	ソフト

表32 調査区土層観察表

溝1-a	10YR3/2	黒褐	粘土	ソフト
溝1-b	2.5Y3/2	黒褐	粘土	ソフト
溝2	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土中に細砂少々	ソフト
第4調査区 東西セクション南壁 (SPB-SPB')				
I-1	10YR4/4	褐	シルト	ややハード
I-2	2.5Y4/3	オリーブ褐	シルト 粘質強い、鉄分多い	ややハード
II-2	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト やや粘土質、Ko-d粒少々	ややハード
II-3-1	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土 やや砂質	ややソフト
II-3-2	5Y3/2	オリーブ黒	粘土	ソフト
II-3-3	2.5Y3/2	暗灰黄	細砂 2.5Y3/3暗オリーブ褐細砂50%	ソフト
II-3-4	5Y4/1	灰	細砂	ややソフト
II-3-5	5Y4/1	灰	細砂	ややソフト
II-3-6	5Y4/2	灰	細砂	ソフト
II-3-7	2.5Y3/2	黒褐	粘土	ソフト
II-3-8	5Y4/1	灰	細砂	ソフト
II-3-9	2.5Y3/2	黒褐	粘土	ソフト
II-3-10	5Y4/1	灰	細砂	ソフト
II-3-11	5Y4/1	灰	細砂	ソフト
II-3-12	2.5Y3/2	黒褐	粘土	ソフト
II-3-13	5Y4/1	灰	細砂	ソフト
II-3-14	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	ややハード
溝1-a	10YR3/2	黒褐	粘土	ソフト
溝1-b	2.5Y3/2	黒褐	粘土	ソフト
溝1-c	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土	ソフト
溝2	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土中に細砂少々	ソフト
第5調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')				
I-1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト 鉄分を極わずかに含む	ハード
I-2	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト やや粘質あり、鉄分多く含む	ハード
II-1	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト 粘質強い、	ハード
II-2	2.5Y3/2	黒褐	シルト 粘質強い、Ko-d粒少々	ハード
II-3-1	2.5Y4/1	黄灰	細砂+シルト (50:50)	ややハード
II-3-2	2.5Y3/2	黒褐	細砂	ややソフト
II-3-3	2.5Y3/2	黒褐	粘土+細砂 (70:30) 粘土と細砂が層状に重なる	ややソフト
II-3-4	2.5Y4/1	黄灰	細砂	ソフト
II-3-5	2.5Y3/1	黒褐	粘土	ソフト
II-3-6	5Y3/1	オリーブ黒	細砂	ソフト
II-3-7	2.5Y4/1	黄灰	粘土+細砂 (60:40)、粘土と細砂が層状に重なる	ややソフト
II-3-8	5Y4/1	灰	細砂	ソフト
II-3-9	2.5Y3/2	暗灰黄	粘土+細砂 (90:10)	ややソフト
II-3-10	5Y4/1	灰	細砂	ソフト
II-3-11	2.5AY3/2	暗灰黄	細砂+粘土 (70:30) 細砂と粘土が層状に重なる	ややハード
II-3-12	2.5Y3/1	黒褐	粘土+細砂 (50:50) 細砂と粘土が層状に重なる	ソフト
II-3-13	2.5Y3/2	暗灰黄	細砂、粘質強い	ソフト
溝1-a	2.5Y3/2	黒褐	粘土+細砂 (90:10)	ソフト
溝1-b	2.5Y4/1	黄灰	粘土	ソフト
溝1-c	10YR3/2	黒褐	粘土	ソフト
溝1-d	2.5Y3/2	黒褐	粘土	ソフト
溝1-e	2.5Y3/1	黒褐	粘土+細砂 (80:20)	ソフト
溝1-f	2.5Y3/2	黒褐	粘土+細砂 (90:10)	ソフト
第5調査区 東西セクション南壁 (SPB-SPB')				
I-1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト 鉄分を極わずかに含む	ハード
I-2	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト やや粘質あり、鉄分多く含む	ハード
II-1	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト 粘質強い、	ハード
II-2	2.5Y3/2	黒褐	シルト 粘質強い、Ko-d粒少々	ハード
II-3-1	2.5Y4/1	黄灰	細砂+シルト (50:50)	ややハード
II-3-2	2.5Y3/2	黒褐	細砂	ややソフト
II-3-3	2.5Y3/2	黒褐	粘土+細砂 (70:30) 粘土と細砂が層状に重なる	ややソフト
II-3-4	2.5Y4/1	黄灰	細砂	ソフト
II-3-5	2.5Y3/1	黒褐	粘土	ソフト
II-3-6	5Y3/1	オリーブ黒	細砂	ソフト
II-3-7	2.5Y4/1	黄灰	粘土+細砂 (60:40) 粘土と細砂が層状に重なる	ややソフト
II-3-8	5Y4/1	灰	細砂	ソフト
II-3-9	2.5Y3/2	暗灰黄	粘土+細砂 (90:10)	ややソフト
II-3-10	5Y4/1	灰	細砂	ソフト
II-3-11	2.5AY3/2	暗灰黄	細砂+粘土 (70:30) 細砂と粘土が層状に重なる	ややハード
II-3-12	2.5Y3/1	黒褐	粘土+細砂 (50:50) 細砂と粘土が層状に重なる	ソフト
II-3-13	2.5Y3/2	暗灰黄	細砂、粘質強い	ソフト
溝1-a	2.5Y3/2	黒褐	粘土+細砂 (90:10)	ソフト
溝1-b	2.5Y4/1	黄灰	粘土	ソフト
溝1-c	10YR3/2	黒褐	粘土	ソフト
溝1-d	2.5Y3/2	黒褐	粘土	ソフト
溝1-e	2.5Y3/1	黒褐	粘土+細砂 (80:20)	ソフト
溝1-f	2.5Y3/2	黒褐	粘土+細砂 (90:10)	ソフト
第6調査区 南北セクション東壁 (SPA-SPA')				
I-1	10YR4/6	褐	シルト 草根	ハード
I-2	2.5Y5/2	暗灰黄	シルト 鉄分粒まだらに入る	ハード
I-3	2.5Y5/2	暗灰黄	シルト I-2に比し灰味強い、鉄分粒	ハード
I-4	2.5Y5/2	暗灰黄	シルト+砂 細砂、鉄分粒	
I-5				
I-6	2.5Y5/2	暗灰黄	粘土質 鉄分粒、湿性、粘性あり	
I-7	2.5Y5/1	黄灰	粘土 粘性強い、鉄分粒少ない	
II-1	10YR4/1	褐灰	粘土 鉄分まだら (ブロック大きい)、粘性強い	
II-2	10YR4/1~10YR4/2	褐灰 灰黄褐	粘土 白班火山灰 (Ko-d) 2~4%	ハード
II-2-1	10YR3/2	黒褐	粘土	ハード
II-2-2	10YR4/1	褐灰	粘土 II-1より明るい	ハード
II-2-3	2.5Y4/1	黄灰	縦状に細砂入る	
II-2-4	10YR3/2	黒褐	粘土	ハード
II-2-5	2.5Y4/1	黄灰	粘土	ハード
II-3	2.5Y4/2	灰黄褐	砂 (細砂) + 2cm大砂利層 植物層若干あり	やや粗
第9調査区 東西セクション南壁 (SPA-SPA')-南北セクション西壁 (SPA-SPA')				
I	10YR3/1	黒褐	シルト 玉砂利覆土10%、炭化物多量20%、草根多量	やや粗
II-1	10YR3/3	暗褐	細砂 (シルト5%くらい含む)。炭化物1%含有	やや密
II-2	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	やや粗
II-3	10YR2/3	黒褐	細砂+シルト シルト含有多い 炭化物	やや粗
II-4	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 シルト微量含む。炭化物	ハード

表33 調査区土層観察表

III-1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	細砂 炭化物	やや粗
III-2	10YR4/2	灰黄褐	細砂	密
III-3	10YR3/3	暗褐	細砂 シルト10%	やや密
III-4	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 ロームブロック1%	密
IV	2.5Y4/3	オリーブ褐	細砂～粗砂 II、III層に比し粒子が大きい。	粗
P1-a	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	細砂～粗砂	
P1-b	2.5Y4/2	暗灰黄	粗砂～細砂。III層の砂が入るがやや細かい砂も入る	やや粗
P2-a	10YR4/4	褐	細砂+シルト (5~7%) 炭化物7%	やや密
P2-b	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 シルト2% 明治期片口など出土	粗
P3-a	10YR4/3+2.5Y4/2	にぶい黄褐+暗灰黄	シルト+細砂	やや粗
P3-b	10YR4/2~10YR4/3	灰黄褐～にぶい黄褐	細砂～微砂。IIIに近似。IIIよりもやや粗	やや粗
P3-c	10YR3/4+2.5Y4/2	暗褐+暗灰黄	細砂 炭化物1%	やや粗
P3-d	2.5Y4/3	オリーブ褐	細砂 (の細砂) 0.5%。10YR4/3にぶい黄褐シルト微量	
P4-a	10YR3/4	暗褐	シルト+微砂	密、ハード
P4-b	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	やや粗
P4-c	10YR3/4~10YR4/3	暗褐～にぶい黄褐	細砂 シルト2~5%	粗 (bより粗)
P4-d	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 シルト微量	密、ハード
P4-e	10YR3/4~10YR4/4	暗褐～褐	細砂 シルト微量	やや粗
P4-f	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	粗
P4-g	10YR5/4	にぶい黄褐	細砂	粗
P4-h	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト	やや粗
P5-a	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 シルト微量	ハード
P5-b	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	細砂 10YR3/4暗褐シルト微量入る	やや粗、ややソフト
P6-a	10YR4/2	灰黄褐	細砂 シルト10%、粒径2~3mm玉砂利10%	密、ハード
P6-b	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	細砂	やや粗
P6-c	2.5Y4/2	暗灰黄	細砂	やや粗
P6-d	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 微小礫	やや粗
P7	10YR5/4	にぶい黄褐	細砂	密、ハード
第10調査区 南北セクション東壁 (SPA-SPA')-東西セクション (SPA-SPA'')				
I-1 (盛土)			炭化物+砂 (細砂～粗砂 50:50)+シルト シルト質強い、玉砂利3~4mm10%、上部草根	粗
I-2 (盛土)	10YR4/2	灰黄褐	細砂、玉砂利5%	粗
I-3 (盛土)	10YR3/3	暗褐	シルト+細砂。ローム粒、ロームブロック (赤褐～黄) 20%	ハード 全体としてやや密
I-4 (表土)	10YR3/2	黒褐	シルト+細砂 (70:30) 2mm~3cm大玉砂利10%	やや密
I-5 (表土)	10YR3/3	暗褐	シルト+細砂 (50:50) 炭化物7%、玉砂利2mm~3cm大10%	やや密
I-6 (表土)	10YR3/4	暗褐	シルト+細砂 (50:50) 炭化物1%、玉砂利2%	やや粗
II-1	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト (40:60) 玉砂利微量、1mm大1%以下	やや密
II-2	10YR4/4~10YR4/6	褐	細砂+シルト (80:20) ロームブロック10%	やや粗
II-3	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	粗
II-4	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト (50:50) 玉砂利1mm~1cm大7%、炭化物1%	ハード 密
II-5	10YR4/3	にぶい黄褐	砂+シルト ロームブロック25~30%、炭化物1%、投げ込み層 (整地層?)	ハード 密
II-6	10YR4/4	褐	シルト+細砂 (50:50) 炭化物1%、ロームブロックが下部に層状になす。玉砂利の5mm~1cm大がその中に入る	ハード 密
II-7	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト (80:20) 炭化物1%、ロームブロック微量、玉砂利3mm大10%	やや密
II-8	10YR3/4	暗褐	細砂+シルト (90:10) II-7より灰味強く砂層、玉砂利微量	やや密
II-9	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト (80:20) ロームブロック2%、炭化物微量	やや粗
II-10	10YR3/4	暗褐	粗砂+シルト (80:20) やや赤味混じる、細砂1%玉砂利微量	やや密
II-11	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト。	やや粗
II-12	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂。シルト微量混じる	やや粗
II-13	10YR3/4	暗褐	細砂+シルト (90:10)	やや粗
III	10YR3/4	暗褐	細砂 炭化物微量	密 ハード
IV	2.5Y4/4	オリーブ褐	細砂～粗砂	粗
P5-a (掘り方)	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	やや密
P5-b (掘り方)	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	やや粗
P5-c (掘り方)	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト (5%)	やや粗
P5-d (掘り方)	10YR3/4	暗褐	細砂+シルト 炭化物1%	やや密
P5-e (掘り方)	10YR3/4	暗褐	炭化物3%	やや密
P5-f (掘り方)	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 ロームブロック2%	やや粗
P5-g (掘り方)	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 ロームブロック15%	やや密
P5-h (掘り方)	10YR4/4	褐	細砂	やや粗
P5-i (柱痕)	10YR4/4	褐	砂+シルト (60:40)。炭化物1%、ロームブロック20%	やや密 ハード
P5-j (柱痕)	10YR4/4	褐	細砂 炭化物1%、ロームブロック5%	やや粗
P5-k (柱痕)	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	やや密
P5-l (柱痕)	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	やや粗
P6-a	10YR3/2	黒褐	細砂+シルト 玉砂利15%	やや密
P7-a	10YR4/4	褐	細砂～微粒砂、ロームブロック7%、bより細かい砂	ハード
P7-b	10YR4/2	灰黄褐	細砂	やや粗～粗
P15-a	10YR3/3	暗褐	粗砂 シルト10%、1~2mm大1%	やや密
P15-b	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	やや粗
P15-c	10YR3/4	暗褐	細砂+シルト (70:30) 草根やや入る	やや粗
P7-a	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト (10%くらい) 炭化物少量、草根	やや密
P7-b	10YR4/2	灰黄褐	細砂 シルト3%、aの方がシルト多い	やや粗
P7-c				
P7-d				
P8	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト	やや密
P14-a	10YR4/3	にぶい黄褐	玉砂利微量	やや粗
P16	10YR3/4	暗褐	細砂、シルト+2.5Y4/4オリーブ褐層の混合層	やや粗
土壌13	10YR3/4	暗褐	細砂+シルト 玉砂利2%	粗
土壌14	10YR3/4	暗褐	細砂+シルト 鉄製品出土	やや粗
土壌15-a	10YR4/2	灰黄褐	細砂+シルト (80:20) 3mm~4mm大玉砂利	やや密
土壌15-b	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト (90:10)	密 ハード
土壌15-c	10YR4/2	灰黄褐	細砂+シルト (80:20) ロームブロック10%、炭化物1%、1mm~3mm大玉砂利10%	密 ハード
土壌15-d	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト (90:10) ロームブロック7%、	やや密 粗
土壌15-e	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト (90:10) ロームブロック3%、dに似るがロームブロックやや多い	やや密
土壌15-f	10YR3/2	黒褐	細砂+シルト (10%未満)	粗
第11調査区 南北セクション東壁 (SPA-SPA')				
I-1	10YR3/3	暗褐	細砂 玉砂利多量、炭化物多量 (最近の火事に燃えるもの)、ビニールなど多数	ソフト
I-2	10YR2/3	黒褐	細砂 玉砂利多量、炭化物少量、ビニールなど多数	ややソフト
I-3	10YR3/2	黒褐	細砂 炭化物少量、II-2ブロック少量	ハード
I-4	10YR3/3	暗褐	細砂中にシルト微量。II-2ブロック少量	ソフト
I-5	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 II-2ブロック少量	ソフト
II-1	10YR3/2	黒褐	細砂 炭化物微量	ややソフト
II-2	10YR4/4	褐	シルト中に細砂微量	ハード
II-3	10YR3/3	暗褐	細砂	ややハード

表34 調査区土層観察表

II-4	10YR3/4	暗褐	細砂	ややハード
II-5	10YR3/2	黒褐	細砂	ややハード
II-6	10YR3/2	黒褐	粗砂 シルト10%、1~2mm大1%	ソフト
II-7	10YR4/2	灰黄褐	細砂	ハード
II-8	10YR3/3	暗褐	細砂	ややハード
II-9	2.5Y4/1	黄灰	細砂	ハード
II-10	10YR4/1	褐灰	細砂	ソフト
II-11	10YR3/3	暗褐	粗砂 海砂	ソフト
III	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂中にシルト少量、多少締まる	ややソフト
IV	10YR3/2	黒褐	細砂中に粗砂少量、海砂	ややソフト
土壌7	10YR3/2	黒褐	細砂 炭化物少量、ビニールなど多量	ソフト
P12	10YR3/2	黒褐	細砂中にシルト少量、II-2ブロック微量、玉砂り少量	ややハード
第12調査区 南北セクション東壁 (SPA-SPA')-東西セクション南壁 (SPB-SPB')				
I	10YR3/2	黒褐	細砂 10YR4/4褐色粘土層を含む、小玉砂り多量、炭化物多量、大礫を多く含む	ハード
II-1	10YR3/3	暗褐	シルト中に細砂少量、炭化物微量、小玉砂り少量、幕末から明治の整地層	ハード
II-2	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	ソフト
II-3	10YR3/4	暗褐	細砂	ややソフト
II-4	10YR2/2	黒褐	細砂 炭化物多量、小玉砂り多量、幕末ころの火事場跡か?	ややソフト
II-5	10YR3/4	暗褐	細砂	ややソフト
II-6	10YR2/1	黒		
II-7	10YR3/2	黒褐	シルト中に細砂少量、炭化物微量	ややハード
II-8	10YR2/3	黒褐	シルト中に細砂	
III-1	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	ソフト
III-2	10YR3/3	暗褐	シルト中に細砂多量	ソフト
III-3	10YR3/2	黒褐	細砂	ややハード
III-4	10YR2/2	黒褐	細砂 炭化物微量	ややソフト
IV				
P69-a	10YR4/1	褐灰	シルト ビニール袋あり	ややソフト
P69-b	10YR4/2	灰黄褐	細砂 ビニール袋あり	ソフト
P70	10YR2/3	黒褐	シルト中に細砂微量、小玉砂り微量	ソフト
P71a	10YR3/2	黒褐	細砂 小玉砂り微量、	ややソフト
P71b	10YR3/3	暗褐	細砂 炭化物少量	ソフト
P72	10YR2/2	黒褐	細砂 炭化物多量、大礫数個	ソフト
P73	10YR4/2	灰黄褐	シルト 炭化物多量、黄土少量	ソフト
P76	10YR2/2	黒褐	シルト中に細砂少量、炭化物少量、褐色粘土微量	ややソフト
P77	10YR3/2	黒褐	シルト中に細砂多量、炭化物少量、小玉砂り少量	ややソフト
P78	10YR3/2	黒褐	細砂 炭化物少量	ソフト
P79	10YR3/2	黒褐	細砂 炭化物多量	ソフト
P80	10YR3/3	暗褐	細砂 炭化物少量、褐色粘土ブロック少量、	ソフト
P74	10YR3/2	黒褐	細砂 炭化物少量、褐色粘土ブロック微量	ソフト
第13調査区 東西セクション南壁 (SPA-SPA')-南北セクション西壁 (SPA'-SPA')				
I-1	10YR2/2	黒褐	シルト	
I-2			炭化物層 木質部が多くあり現代の火事跡 (昭和45年代)	
I-3	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト (95:5) 玉砂り2mm~2cm大15%	
I-4	10YR5/4	にぶい黄褐	ローム 玉砂り20%	ハード 密
I-5	10YR5/4	にぶい黄褐	ローム 所々に10YR3/2暗褐シルト層入る (2%)	ハード
I-6	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト (85:15-90:10)	粗
I-7 (旧表土)	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト (70:30) 玉砂り3mm~1cm大10%	やや粗 ソフト
I-8	10YR3/3	暗褐	シルト+細砂 (60:40) アク1%、炭化物7%	やや密 ハード
II-1	10YR4/2	灰黄褐	細砂+粗砂 シルト混じり、細砂よりやや粗い	粗
II-2	10YR3/3	暗褐	シルト+細砂 (70:30) 炭化物3%、玉砂り (微小) 1~3%	やや密
II-3	10YR4/3~10YR3/4	にぶい黄褐 暗褐	シルト+細砂 (50:50)	やや粗
II-4	10YR3/1	黒褐	シルト+細砂 (40:60) 下部に炭化物層 (粘と土化)	
III	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト (90:10)	やや密
IV	2.5 Y4/2	暗灰黄	粗砂	粗
土壌1-a	2.5 Y4/3	暗灰黄	細砂 (IV層と殆ど同じ) やや明るい茶色味おびる、粗砂10YR3/2黒褐シルト	粗
土壌1-b	10YR3/2	黒褐	細砂+シルト、シルト主体 (70:30) 炭化物7%	やや粗
土壌1-c	10YR5/2	灰黄褐	粗砂 (IV層の粒子に近い)	粗
P1-a	10YR4/2	灰黄褐	細砂+シルト+2.5Y4/2暗灰黄細砂+粗砂 IVの砂よりやや茶色味	やや粗
P1-b	2.5Y4/2	暗灰黄	層の砂よりやや茶色味おびる	粗
P1-c	10YR4/2	灰黄褐	細砂+シルト+2.5Y4/2暗灰黄細砂+粗砂 IVの砂よりやや茶色味	やや粗
P2-a	10YR3/2	黒褐	細砂+シルト (80:20) 炭化物5%、玉砂り2~3mm大10%含有	やや密
P2-b	10YR3/2~10YR3/3	黒褐 暗褐	細砂+シルト (60:40) 玉砂り1~2mm大15%	やや密
P2-c	10YR3/2	黒褐	細砂+シルト	
P2-d	2.5Y4/2	暗灰黄	IVを主体としているが10YR4/3にぶい黄褐シルトが数%はいる。	
P3	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト ロームブロック3%	やや密
P4	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト (80:20)	やや粗
P5-a	10YR3/1	黒褐	細砂+シルト (60:40) 玉砂り10%	やや密
P5-b	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト (80:20)	やや粗
P5-c	10YR3/2	黒褐	シルト+細砂 (70:30) と10YR4/3にぶい黄褐細砂がまだらになる	やや粗
P6-a	10YR3/2	黒褐	シルト+細砂 (70:30) と10YR4/4にぶい黄褐細砂がまだらになる	やや粗
P7-a	10YR3/2	黒褐	シルト+細砂 (70:30) と10YR4/4にぶい黄褐細砂がまだらになる P6-aよりも細砂が多い。	やや粗
第14調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')-南北セクション東壁 (SPA'-SPA')				
I-1	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト (50:50) 現表土	やや粗
I-2	10YR4/6	褐	シルト 盛土	やや密
I-3	10YR4/2	灰黄褐	細砂+粗砂 IV層ベースの砂層	粗
I-4	2.5Y4/2	暗灰黄	細砂+粗砂 10YR3/3暗褐シルト2% (ブロック含有)、IV層ベースの砂層	粗
I-5	10YR4/2	灰黄褐	細砂+粗砂 (2.5Y4/6オリーブ褐シルト3%含有)。I-4に比しやや黄色み強い、IV層ベースの砂層	やや粗
I-6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	細砂+粗砂 純層	粗
I-7	10YR4/2+2.5Y4/6	灰黄褐+オリーブ褐	細砂+粗砂+ (シルト+細砂) (40:60)	やや粗
I-8	10YR3/2+10YR4/2	暗褐+灰黄褐	シルト+細砂 (50:50) まだら状となる。	やや粗
I-9	10YR3/2	黒褐	細砂+シルト (20:80) 旧表土	やや密 ハード
I-10	10YR3/2	黒褐	シルト+細砂 (95:5)	
II	10YR2/2	黒褐	シルト、白色火山灰ブロック層 江戸期	極ハード
I-1	10YR4/2	灰黄褐	細砂+シルト 10YR3/2黒褐シルトブロック混入	やや粗
I-2	10YR4/2	灰黄褐	細砂+10YR3/2黒褐シルト 白色火山灰含有2%	やや粗
I-3	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	やや密 ややハード
I-4	2.5 Y4/2	暗灰黄	細砂+粗砂 IV層にあたる	
Pあ	10YR3/2	黒褐	シルト+細砂 (40%くらい) 純層、草根	やや密

表35 遺構土層観察表

第9調査区 土壌1				
1	10YR3/4	暗褐	粗砂 2mm~5mm大玉砂利15%	やや粗 粗
2	10YR4/3	にぶい黄褐	粗砂~細砂 2mm大玉砂利	やや粗
3	10YR4/3	にぶい黄褐	粗砂~細砂 玉砂利なし	やや粗
4	10YR4/3	にぶい黄褐	粗砂 2mm~5mm大玉砂利5%	粗
第9調査区 土壌2				
1	10YR3/3	暗褐	細砂 シルト成分5~10%。平面から見ると枠の形となる	やや密
2	10YR3/4	暗褐	細砂 シルト2~5%	やや密
3	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	やや粗
4	10YR4/2	灰黄褐	細砂	やや密
5	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 シルト1~2%	やや密
6	10YR4/2	灰黄褐	細砂~粗砂 シルト1~2%	やや粗
7	2.5Y4/3	オリープ褐	細砂	やや粗
8	2.5Y4/3	オリープ褐	細砂	やや密
9	2.5Y3/3	暗オリープ褐	細砂 シルト1~2%	やや密
10	2.5Y3/2	黒褐	細砂 シルト5~10%	
第12調査区 土壌1				
a	10YR4/4	褐	シルト 褐色ロームブロック多量	ややハード
b	10YR3/3	暗褐	シルト 小玉砂利微量	ややソフト
c	10YR3/2	黒褐	細砂 小玉砂利微量	ややハード
d	10YR2/3	黒褐	細砂 小玉砂利微量	ややハード
e	10YR3/2	黒褐	シルト中に細砂少量 小玉砂利少量	
f	10YR2/2	黒褐	シルト 小玉砂利少量 炭化物微量	ややソフト
g	10YR2/3	黒褐	シルト中に細砂少量 小玉砂利少量	ややソフト
h	10YR4/2	灰黄褐	細砂	ソフト
第12調査区 土壌3				
a	10YR3/3	黒褐	細砂 小玉砂利少量 炭化物微量	ハード
b	10YR3/2	黒褐	細砂 炭化物微量	ハード
c	10YR4/2	灰黄褐	細砂 炭化物微量	ややハード
d	10YR2/3	黒褐	細砂 小玉砂利微量	ハード
第12調査区 土壌4				
a	7.5YR4/2	灰褐	シルト中に細砂少量 炭化物微量	ハード
b	10YR3/4	暗褐	細砂	ややハード
第12調査区 土壌5				
a	10YR2/2	黒褐	細砂 小玉砂利少量	ややソフト
b	10YR3/2	黒褐	シルト中に細砂多量	ややソフト
c	10YR2/2	黒褐	シルト中に細砂少量 小玉砂利多量 炭化物微量	ややハード
P23	10YR4/4	褐	シルト中に細砂微量	ハード
P11	10YR3/2	黒褐	シルト,小玉砂利多量	ややハード
第12調査区 土壌8				
a	10YR4/2	灰黄褐	細砂 炭化物少量 b層粘土少量	ハード
b	10YR4/3	にぶい黄褐	粘土 炭化物少量	ハード
c	10YR3/2	黒褐	細砂 炭化物微量	ややソフト
d	10YR4/2	灰黄褐	細砂 炭化物微量 b層粘土微量	ハード
e	10YR3/2	黒褐	細砂 炭化物微量 b層粘土少量	ハード
f	10YR3/1	黒褐	細砂 アク少量 炭化物少量	ハード
g	10YR3/2	黒褐	細砂中に粘土多量 炭化物多量	ハード
h	10YR3/2	黒褐	細砂 b層粘土多量 炭化物微量	
i	10YR3/1	黒褐	細砂	ややソフト
j	10YR3/2	黒褐	細砂 b層粘土微量 炭化物多量	ややハード
k	10YR3/2	黒褐	細砂	ややハード
l	10YR2/2	黒褐	細砂	ややソフト
第12調査区 土壌9				
a	10YR2/3	黒褐	細砂 小玉砂利少量 炭化物微量	ソフト
b	10YR2/2	黒褐	細砂 炭化物微量	ソフト
c	10YR2/2	黒褐	細砂 炭化物微量	ソフト
第13調査区 土壌1				
1	2.5Y3/3	暗オリープ褐	細砂	
2	2.5Y3/3	暗オリープ褐	細砂	1より密
3	2.5Y4/3	オリープ褐	細砂+シルト	粗
4	10YR3/3	暗褐	シルト+砂(細砂)	やや粗
5	2.5Y3/3	暗オリープ褐	細砂	やや粗
6	2.5Y4/4	オリープ褐	細砂	粗
7	2.5Y4/6	オリープ褐	細砂	粗
8	2.5Y3/3	暗オリープ褐	3cm大玉砂利	やや粗
9	10YR4/4	褐	シルト+2.5Y3/3暗オリープ褐細砂	やや密
第13調査区 土壌2				
1	10YR3/4	暗褐	シルト+砂(砂質シルト)	密
2	10YR3/3	暗褐	シルト+砂 2~5mm大玉砂利5%	密
3	10YR3/3	暗褐	シルト+砂(80:20) シルト質 微小玉砂利	密
4	10YR3/3	暗褐	シルト+10YR4/2灰黄褐細砂 層の上下にシルトあり中間は細砂。3に比し砂粒多い。炭化物1%	やや密
5	10YR3/3	暗褐	細砂	ハード 密
6	10YR3/3	暗褐	細砂 ロームブロック1~3%	ハード 密
7	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 10YR3/3シルト。玉砂利1~3%	やや密
8	2.5Y3/3	暗オリープ褐	細砂のみ	やや粗
9	2.5Y4/2	暗灰黄	細砂のみ	粗
10	2.5Y3/3	暗オリープ褐	細砂+ロームブロック	やや密
11	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 シルト3%含有	やや密
12	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 シルト3%。玉砂利3%	やや密
13				
P36-a	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 ロームブロック1%	ハード やや密
P36-b	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂 シルト3%以内	やや粗
P36-c	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂~粗砂 シルト1% Pit覆土	やや粗
P36-d	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	
第13調査区 土壌3				
1	10YR3/2	黒褐	細砂+シルト微量 玉砂利微量 ロームブロック。炭化物微量	ややハード 密
2	10YR3/2	黒褐	細砂+シルト微量 玉砂利微量	1よりややソフト やや密
3	10YR3/2	黒褐	細砂+シルト微量 玉砂利微量 炭化物	やや密
4	10YR2/2	黒褐	細砂+シルト 灰色アク含有 炭化物 シルト1~3より多い	ハード 密
5	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂	やや粗
6	10YR4/2	灰黄褐	細砂+シルト(80:20) 玉砂利1%	やや密
7	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト(95:5)	ハード 密

表36 遺構土層観察表

8	10YR3/2	黒褐	細砂+シルト(70:30)	ロームブロック玉砂利微量	
9	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂		粗
10	10YR3/2	黒褐	細砂+玉砂利(微小1~3mm大)+シルト(85:5:10)		やや粗
11	10YR3/3	暗褐	細砂+微小玉砂利+シルト(85:5:10)		やや密
12	10YR3/2	黒褐	細砂+微小玉砂利+シルト(65:5:30)		やや密
13	10YR3/4	暗褐	細砂+シルト+微小玉砂利(80:10:10)		やや粗
14	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト+玉砂利(80:10:10)	微小玉砂利	やや粗
15	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト+玉砂利(80:10:10)	微小玉砂利。炭化物微量	やや粗
16	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト+玉砂利	細砂微小	やや粗
第13調査区 土壌5					
1	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂(シルト質殆どなし)		やや粗
2	10YR4/2	灰黄褐	細砂 シルト質微量含有 炭化物3mm大1点		やや粗
3	10YR4/2	灰黄褐	細砂 ロームブロック1% 3mm大玉砂利。シルト質ややあり(5~10%)		やや密
4	10YR3/4	暗褐	細砂+シルト(シルト質3%くらい) 炭化物1%		やや粗
5	10YR4/2	灰黄褐	細砂+シルト(シルト質5%以下) ほほ細砂		やや粗
6	10YR4/2	灰黄褐	細砂+シルト(シルト微量) 殆ど砂		やや粗
第13調査区 土壌6					
1	10YR3/4+10YR4/3	暗褐+にぶい黄褐	細砂+シルト(50:50)+細砂。玉砂利1cm大0.5%		やや密
2	10YR3/4	暗褐	シルト+細砂(70:30) 木質部の腐植土か?		密 ハード
3	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂。玉砂利1cm大1%		やや粗
4	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト(80:20) 玉砂利微量		やや粗
5	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト(90:10) 玉砂利10%		やや粗
6	10YR3/4	暗褐+にぶい黄褐	シルト+細砂(70:30)+細砂(60:40)		やや密
7	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂		粗
8	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト 玉砂利3cm~5mm大15%		やや粗
9	10YR4/2	灰黄褐	細砂		粗
10	10YR4/2~10YR3/3	灰黄褐~暗褐	中間色 玉砂利10%		やや粗
第13調査区 土壌7					
1	10YR4/2	灰黄褐	細砂+シルト やや粗い。細砂主体(95%くらい)		粗
2	10YR4/2	灰黄褐	細砂~粗砂 IV層の粒子とほぼ同じ		粗
3	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂~粗砂 IV層の粒子とほぼ同じ		粗
4	2.5Y4/2	暗灰黄	細砂~粗砂 IV層の粒子とほぼ同じ		粗
5	10YR4/2	灰黄褐	細砂~粗砂+シルト		粗
6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	細砂~粗砂 IV層の粒子と同じ		粗
7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	細砂~粗砂 IV層の粒子と同じ		粗
8	2.5Y4/2	暗灰黄	細砂~粗砂 IV層の粒子とほぼ同じ		粗
第13調査区 土壌8					
ア	10YR4/2	灰黄褐	細砂。炭化物1~3% シルト質(5~10%)		やや密
イ	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト 炭化物3%		やや密
ウ	10YR4/2	灰黄褐	細砂+シルト(シルト質5~10%) 5mm大ロームブロック10%		やや粗
第13調査区 土壌9					
1	10YR3/4	暗褐	シルト+細砂(60:40) シルト主体		ハード
2	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト(90:10)		粗
3	10YR4/4	褐	細砂+シルト(90:10)		粗
4	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト(95:5)		粗
5	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト(95:5)		粗
第13調査区 土壌10					
1	10YR4/2	灰黄褐	細砂+シルト(95:5) 玉砂利1%		やや粗
2	10YR4/2	灰黄褐	細砂+シルト(90:10)		やや粗
3	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト(90:10)		やや粗
4	10YR3/2	黒褐	細砂+シルト(85:15) 4よりやや暗い		やや粗
5	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト(80:20) 炭化物1%		やや粗
6	10YR3/3	暗褐	細砂+シルト(80:20)		粗
7	10YR3/2	黒褐	細砂 シルト		粗
第13調査区 土壌11					
土壌11-1	10YR3/4	暗褐	細砂 玉砂利15%		粗
P-a	10YR3/2	黒褐	細砂+シルト 玉砂利1% シルト:細砂(60:40)		やや粗
第13調査区 土壌12					
1	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト(90:10)		粗
2	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト(90:10)		粗
3	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト(95:5) 殆ど細砂		粗
4	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト(80:20)		粗
5	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト(80:20)		粗
6	10YR4/3~10YR4/2	にぶい黄褐~灰黄褐	細砂+シルト(80:20) 5よりやや暗い		やや密
7	10YR3/4	暗褐	細砂+シルト(80:20)		やや粗
8	10YR3/4	暗褐	細砂+シルト(80:20)		やや粗
第13調査区 土壌14					
ア	10YR5/4	にぶい黄褐	細砂 やや粒粗い。IV層の砂。根多い		やや粗
イ	10YR4/3	にぶい黄褐	細砂+シルト(80:20) 草根多い		やや粗
ウ	10YR3/4	暗褐	細砂+シルト(30:70)		密
エ	10YR3/4	暗褐	細砂+シルト(80:20) イよりも暗褐腐植土少ない(シルト層細砂)がウよりも多い。炭化物3%		やや密
オ	10YR3/4	暗褐	細砂+シルト(90:10)		やや粗
カ					

表37 出土遺物観察表(陶磁器)

図版番号	種類	器種	胎調	胎土色調	備考	地区	層位	口径mm	器高mm	底径mm
第35図1	肥前	碗	青味白	白	二次被熱を受ける。	12	Pit30、Pit35	108		
第35図2	肥前	碗	青味白	白	外面に梅樹文。	12	II	(98)	47	(40)
第35図3	肥前	碗	緑味白	白	外面に丸文。	12	排土	(100)		
第35図4	肥前	碗	青味白	白	外面に芙蓉手山水文か。	13	I、II	(106)		
第35図5	肥前	広東碗	青味白	白	外面に湯立草花文。	12	Pit37、II	(112)	66	54
第35図6	肥前	碗	青味白	白		12	I	(104)	64.5	40
第35図7	肥前	碗	青味白	白	口縁部内面に青海波文。	13	II	(104)	60	42
第35図8	肥前	皿	青味白	白	鉛ガラスによる接合痕。「ヤマシチサマ」	13	II			
第35図9	肥前	皿	青味白	白		13	Pit53	(144)		
第35図10	肥前	皿	青味白	白	見込みに山水文。蛇の目凹型高台。	13	II	149	46	85
第35図11	肥前	蓋	青味白	白		9	II、トレンチ	93	28	
第35図12	肥前	コンブラ瓶	青味白	白		12	I	22		
第35図13	肥前	紅皿	白	白	壺付きに砂粒付着。	12	II	56	15	14
第36図14	不明	すり鉢	茶黒	うす黄茶	3cm当たり11株の御目。	13	土壌4、II	(334)		
第36図15	不明	不明	白	茶白	底面に「三拾五?入」	9	II			(75)
第36図16	近代瀬戸	碗	白	白	外面に湯巻き文	9	II	(84)	46	34
第36図17	近代瀬戸	碗	白	白		9	I、II、排土	(93)	46	36

2. 出土遺物の概要 今回の調査で出土した遺物は陶磁器が9416点、木製品が386点など総点数は9916点である。陶磁器の内訳は青磁1点、白磁1点、肥前系が1537点、唐津系が444点、近世の瀬戸と思われるものが267点、近代以降と思われるものが7166点である。ただし、これらの中には産地、時期を比定しきれなかったものも多く、ある程度数量は流動的にならざるを得ないことを付け加えたい。

第35図8は肥前系の皿である。江戸時代末期～明治時代初期のものであろうか。底面は蛇の目凹型高台である。釉の掻き取りをした部分に屋号で「全(やましち)様」とあり、破断面には鉛ガラスによる接合痕が認められる。焼継の際に職人が持ち主の屋号を入れたものと考えられる。

第36図15は産地不明の水差し様の容器である。底面は無釉であるがそこに墨書による文字が書か

れている。ほぼ中央に位置するのは先に書かれた何らかの文字を線を引いて消したものと思われる。その右側には「三拾五?入」と書かれており、内面には赤褐色の付着物がある。遺物の形態からすると何らかの液体の容器であることが考えられ、底面の墨書はその内容物と容量が書かれていたと推測できる。

木製品は主に第6調査区以前の調査区で出土している。杭や板材などの完成品の他に未成品や製材の際に出る木屑と考えるものなどが多く含まれている。これらの多くはKo-d降下以前の層位であるII3層からの出土である。

第37図32は桶の側板である。内側下部に底板がはまると考えられる窪みがある。しかし外面には留め具でかした痕跡がないので、桶として組み立てるまでには至っていないと考えられる。

(三浦英俊)

表38 出土遺物観察表(銅製品他)

図版番号	器種	備考	地区	層位	長さmm	厚さmm	幅mm	重さg
第36図18	皿	容量約25cc。	12	I	83	15	54.5	43.4
第36図19	簞		12	Pit58	11.4	3	7	4.6
第36図20	銅釘		12	土壇1	27.5	4	4	3.3
第36図21	銅釘		12	II	26.5	2.5	3.5	1.2
第36図22	銅釘		12	土壇3	21	3	3	1.2
第36図23	煙管	雁首部。火皿の後方に打撃痕多数あり。	12	II	48.5	13	13.5	11.9
第36図24	煙管	雁首部。火皿の後方に打撃痕多数あり。羅字が一部残る。	12	I	52	10	11.5	11.3
第36図25	煙管	雁首部。火皿の後方に打撃痕多数あり。	12	I	49	11	11	8.6
第36図26	煙管	雁首部。火皿の後方に打撃痕多数あり。	12	II	38.5	10.5	11.5	8.9
第37図31	板材	片方の端部に緋い漆がつく。	3	II	506	7	160	
第37図32	桶・側板	組立途中のものか。	4	II3	408	12	69	
第37図33	板材	板材の端部を切り落としたものか。	4	II3	20	11	105	
第37図34	晝板?	製材途中のものか。	4	II3	124	6	50	
第37図35	不明	何らかの部材、あるいは木屑か。	3	II	39	13	37	
第38図36	杭	先端部、後端部に穿孔あり。	4	II3	833	35	53	
第38図37	杭		4	II3	628	55	55	
第38図38	杭	全体が炭化する。	6	II2	513	47	56	
第38図39	杭	木の枝を払い、先端を斜めに切り落として製材する。	3	II	337	36	30	
第38図40	杭	木の枝を払い、先端を斜めに切り落として製材する。	1	II3	223	21	21	
第38図41	杭?	杭の先端部分か。	3	II	182	56	50	
第38図42	樽栓?	あるいは杭の先端部か。	7	II	130	29	32	
第38図43	杭?	杭の先端部分か。	1	II3	78	39	46	
第38図44	網浮子?	端部に穿孔2ヶ所あり。釘を2箇所に打ち付ける。	2	II	256	12	60	
第38図45	網浮子	西端部に穿孔あり。	6	II2	385	15	50	

表39 出土遺物集計表(陶磁器他)

地区	層位	青磁	白磁	肥前	唐津	近世瀬戸・美濃	近代以降	土器	石器	ガラス	硯	陶垂	銅製品	木製品	不明	合計
1	遺構外													58		58
2	遺構外													19		19
3	遺構外			12	141	1	54							101	1	310
	排土	1		2			17	1	1	1						23
4	遺構外													103		103
5	遺構外													81		81
6	遺構外							52						17		69
7	遺構外			1				21						6		28
	排土							2								2
8	遺構外				1			10								11
	排土							4								4
9	遺構外			269	105	80	1113		2		1	5	12			1587
	遺構内			7	3	5	14						1			30
	排土			21	5	2	226									254
10	遺構外			65	11	8	249					1	2		5	341
	遺構内			1			2									3
	排土			112	8	3	35									158
11	遺構外			123	32	11	1068					1				1241
	遺構内			2	1		53						1			58
	排土			22	2	1	213									239
12	遺構外			441	63	31	2180						21		15	2751
	遺構内			107	17	7	282	3		6		2	4		4	432
	排土			74	1	8	396	1							1	481
13	遺構外			253	49	106	1012					1			10	1431
	遺構内			25	3		75						2			105
	排土				2	4	88						1			95
14	遺構外			1												1
合計		1	1	1537	444	267	7166	5	3	7	1	10	44		44	9838

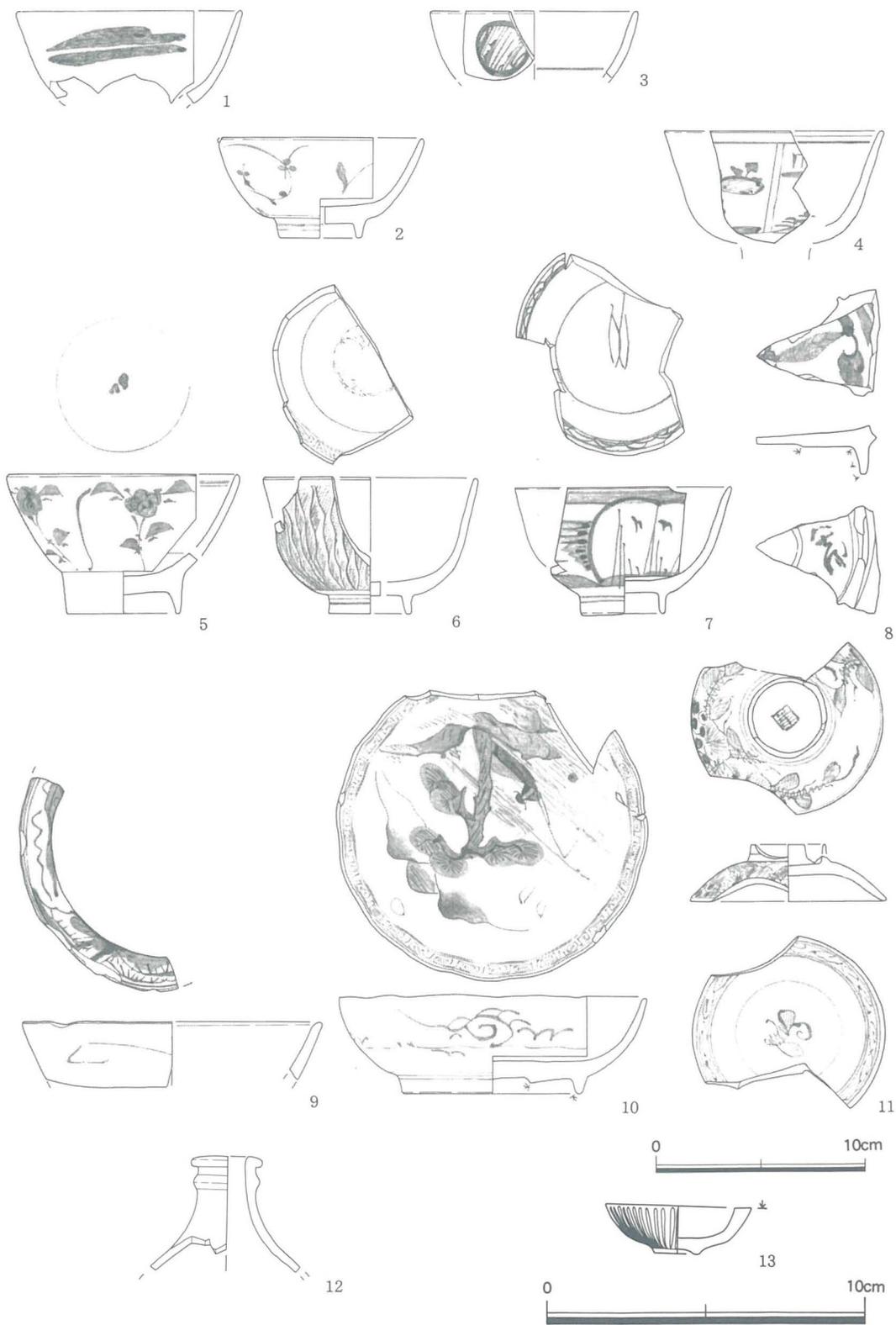
385



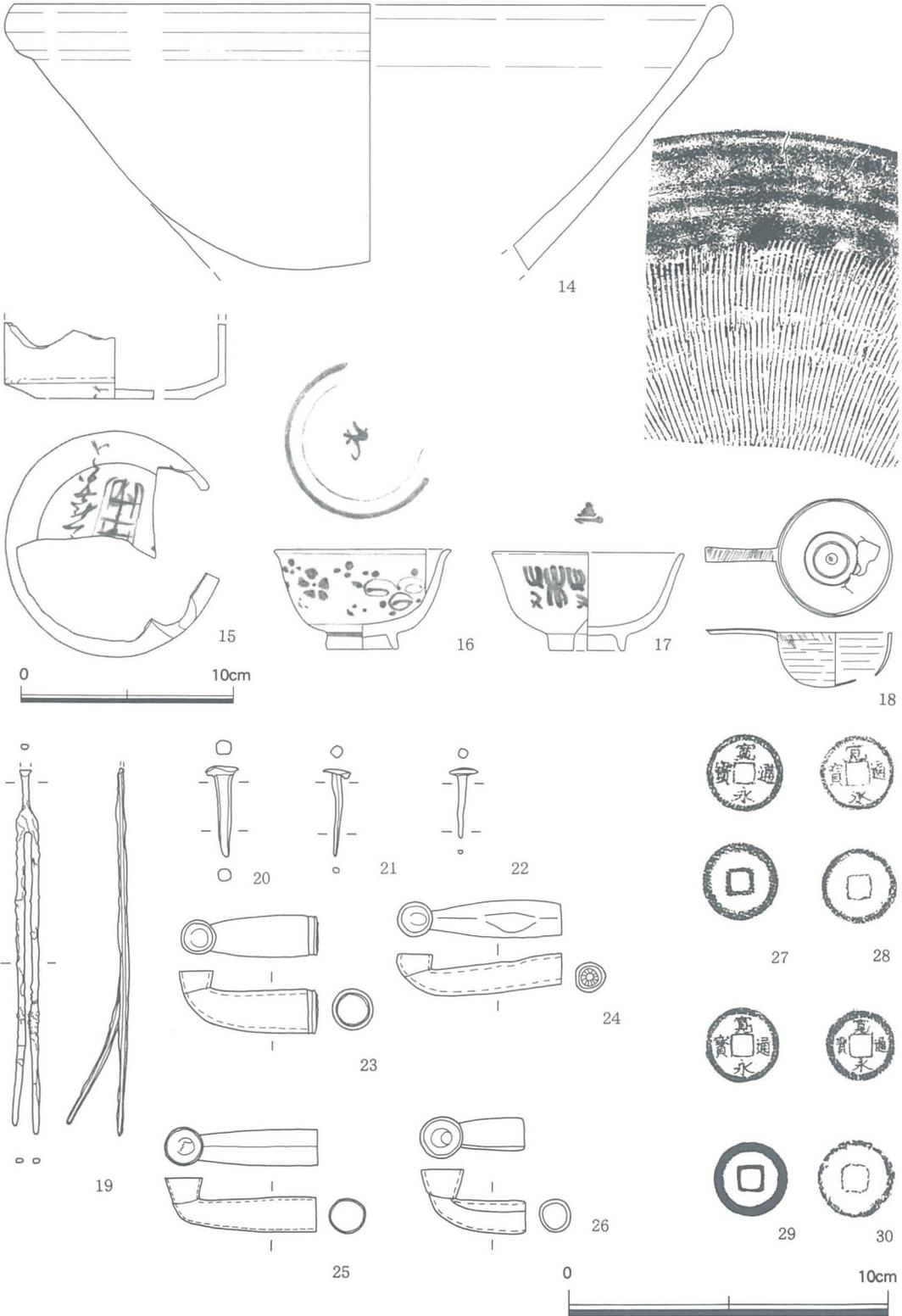
表40 遺構土壌選別表

(単位：g)		5区		9区		11区					12区				
区別	種類	溝	土壌1	土壌2	炭化物範囲	土壌1	土壌2	土壌3	土壌4	土壌5	炭範囲	土壌1	土壌3	土壌4	土壌5
植物性遺物	木炭				12.1	0.3	1.3	3.1							
	植物				0.01						0.01				
	米				0.7			0.8				0.5			
	クルミ				0.1						0.01				0.01
	小豆				0.1	0.01		0.01				0.7	6.8	0.1	0.01
	ぶどう				0.4										
	茅材				1.2	13.6	1.9		1.4			0.7			
	炭化樹皮	1.2			13.6	1.9		1.4				0.7			
不明種子	0.1	0.2	0.7	1.0	0.1		0.2	0.6			0.8	0.6	1.2	0.1	
木片				41.0							94.1		0.1		
動物性遺物	魚骨(椎骨・大)				0.7										
	魚骨(椎骨・小)				1.8						0.2			0.01	
	魚骨(耳骨)				0.2										
	歯・爪				0.4										
	不明骨(小)		1.4		3.2			0.01	0.3		1.2	1.9	1.8	0.1	0.1
貝				23.8				33.9	67.2		15.6	0.5		6.9	
その他	不明溶解物(粒状)		2.0	0.1							0.0	13.6	16.2	0.0	1.2
	不明溶解物(繊維状)														
	鍛造剥片														0.6
	磁着石			0.6	0.01							8.6	1.1		
	焼土塊				1.8							3.5			
	錆	8.3			3.7							254.3			
	玉砂利	55.8			87.5	14.9	93.1	115.7		14.4	26.4	153.4	115.7	60.2	3.3
	不明炭化物		1.2	2.1	5.4				0.6		0.2	6.1	2.2	0.01	107.2
	炭	0.7	36.4	51.9	657.3	161.7	5.6	20.5	82.8	1.0	17.3	265.6	94.8	31.7	
	鉄製品			81.6	156.6	57.1	2.2	17.1	54.4	1.1	17.7	3.2	13.5	59.8	22.8
	銅製品		1.1	6.7	1.3	1.6			0.7				0.01	1.2	
	銅銭		3.7										0.1	2.7	
	玉		2個	1個	2個								3個	5個	1個
	土器				4.3		6.0				0.5				
	軽石				5.7				2.3						
	ガラス		0.9												
	石炭				20.0										
	鉛				0.5										
	漆				0.3	0.01								0.01	
	イカ針											2.7			
採取土量(kg)		18.20	27.30	133.75	216.30	99.05	12.15	39.79	142.55		77.25	273.80	149.45	29.55	83.40

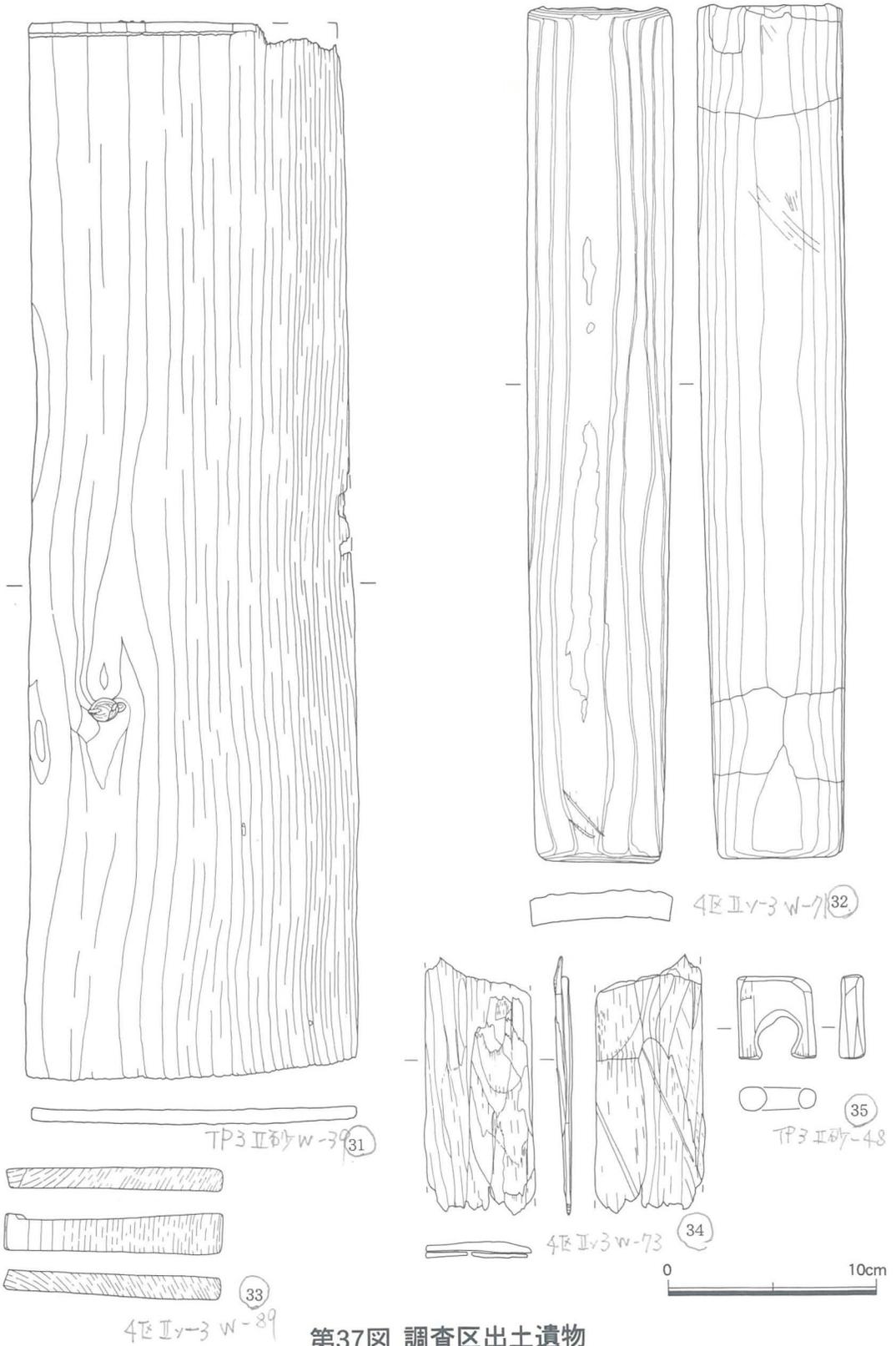
(単位：g)		12区		13区												
区別	種類	土壌6	土壌9	土壌1	土壌2	土壌3	土壌5	土壌6	土壌7	土壌8	土壌9	土壌10	土壌11	土壌12	土壌13	顔料範囲
植物性遺物	木炭		0.6	2.1	0.8					1.9						
	植物					0.01									0.01	
	米		0.7													
	クルミ		0.7													
	小豆		2.2	0.1							0.01				0.01	
	ぶどう		0.1	0.01	0.3		0.8	0.1	0.01		0.01	0.1		0.01		
	茅材											0.01		0.01		
	炭化樹皮												0.01			
不明種子	0.1	0.0	0.2	0.5	0.2	0.01	0.1			0.01		0.1		0.02		
木片																
動物性遺物	魚骨(椎骨・大)															
	魚骨(椎骨・小)			0.1	1.0											
	魚骨(耳骨)															
	歯・爪															
	不明骨(小)	0.4	0.01		1.2	0.1	0.01			0.01	0.01					
貝		1.0	6.2	12.9		1.2				0.01						
その他	不明溶解物(粒状)	20.2	1.6	0.01	3.5	0.2	3.4	0.7			0.01	0.1	0.01	0.4	1.1	
	不明溶解物(繊維状)													1.0		
	鍛造剥片	14.0				0.4										
	磁着石		6.9													
	焼土塊			1.7												
	スラッグ		2.6		12.5					2.0						
	錆		53.7	246.5	61.3			329.8	50.0	14.7	41.1	20.3	21.9	11.2		
	玉砂利	0.4			1.1	1.1	0.1									0.7
	不明炭化物	167.0	40.3	108.8		71.5	8.9	31.3	3.0	13.4	6.6	19.7	4.1	7.0	1.6	
	炭		8.9	6.8	134.0	31.1	38.7	8.3	46.1	1.5	20.9	6.0	19.0	4.9	2.0	1.0
	鉄製品		1.0		0.7	0.1				0.01	0.01					
	銅製品						0.2									
	銅銭				0.01											
	玉															
	土器		0.7		0.1	2.0							0.7		0.01	
	軽石				6.1							1.8		0.7		
	鉛				10.5											
漆				0.01					0.01							
顔料															0.6	
採取土量(kg)		34.90	40.95	79.20	163.95	161.55	72.55	64.65	35.85	33.90	88.95	62.80	13.20	50.30	6.05	6.01



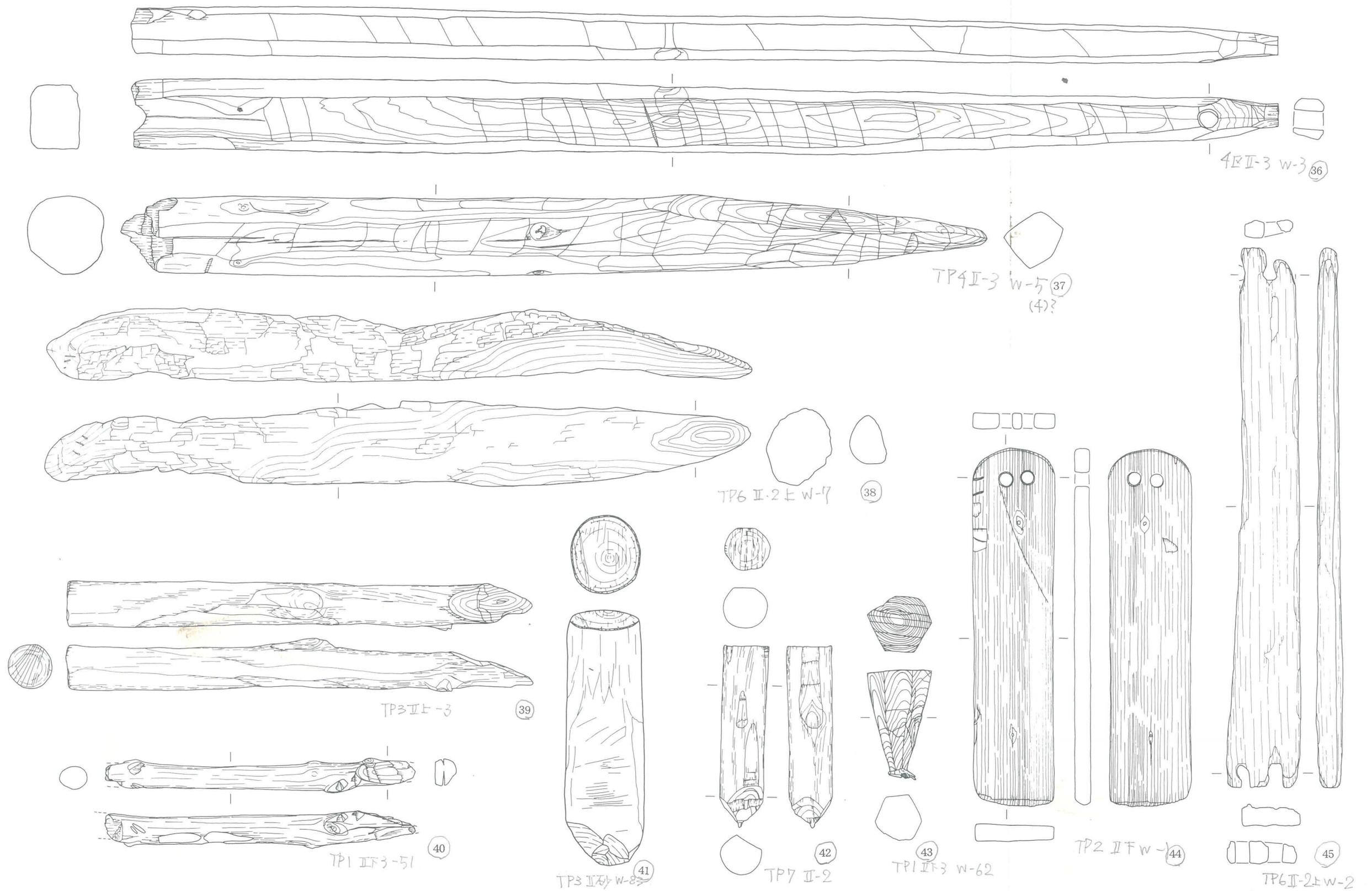
第35図 調査区出土遺物



第36図 調査区出土遺物



第37図 調査区出土遺物



第38图 調査区出土遺物

0 10cm

表41 出土遺物集計表（銅銭）

銭種	初鋳年	調査区				総計
		9	11	12	13	
寛永通宝（古）	1637	2		1	1	4
寛永通宝（新）	1697	8	3	9	3	23
不明	不明	1		2	1	4
総計		11	3	12	5	31

表42 出土遺物観察表（銅銭）

図版番号	器種	初鋳年	地区	層位	備考
第36図27	寛永通宝（古）	1637	9	II	
第36図28	寛永通宝（新）	1697	9	II	
第36図29	寛永通宝（新）	1697	13	Pit34	背面に元の字
第36図30	寛永通宝（新）	1697	9	I	

### Ⅲ まとめ

上ノ国町字向浜地区は「Ⅰ 調査の概要」でも触れた通り天ノ川河口の左岸に位置し、対岸には多数の中世、近世遺物を包含する字上ノ国地区や国指定史跡上之国勝山館跡、国指定史跡上之国花沢館をのぞむ。また北東には洲崎館跡と考えられる砂丘が隣接している。また松前から江差へ抜ける福山街道沿いに位置する。

字向浜地区の集落としての成立について詳しいことは伝えられてはいないが、集落のほぼ中央にある川裾神社が天保2年（1831年）の創立と伝えられる。

『続上ノ国村史』によれば明治時代、天ノ川の上流の字湯ノ岱地区にあった御料林からの払下材、官行造材や多量の薪が切り出されて天ノ川を下り江差や松前などに売りだされていた。それらの材木は天ノ川の河口に位置する向浜地区に土場と呼ばれる場所を設けて一度集め、それから売りに出された。そのため向浜地区は湯ノ岱地区から材木などを流送し売りに出す杓夫たちが滞在したので杓夫たち相手の酒屋や飲み屋などが繁盛したという。こうした様子は木古内～江差間の鉄道が開通する昭和始め頃まで続いた。

今回の調査で出土した遺物の中でもっとも時代が遡る遺物は第14調査区で出土した白磁の皿と第3調査区で出土した青磁の碗が1片ずつであるが、この2片のみ突出して時代が古く、これは洲崎館跡と結びつけて考えるべきであろう。

また第6調査区以前で出土した木製品はKo-dよりも下の層位からの出土であり、確実に江戸時代初期以前のものである。木製品については前述の通り未成品や木屑が含まれており、例えば加工場のようなものの存在が考えられるが、後述するように目名川の流が停滞したと考えられるⅡ2層以後は木製品の出土量が減少することから上流から流れ着いた可能性も考えられるだろう。

向浜地区の東の範囲で海側の調査を行う機会が得られなかったのにわかに判断することはできないが洲崎館に関連している可能性もある。しかし目名川の河口を塞ぐような形に位置するため護

岸工事が完了するまで何度も洪水に襲われたという当地区において恒常的に生活が営まれていたかは疑問である。

それら以外で時代が遡る遺物は第9調査区～第13調査区で出土する18世紀台の肥前系の陶磁器である。初期伊万里や胎土目、砂目を残す唐津の皿など16世紀後葉から17世紀台の遺物はほとんど出土していない。18世紀台の遺物が陶磁器全体に占める割合は非常に少ないが、恐らくこのころから人が住み始めたと考えられる。19世紀後半以降の遺物は非常に多くなっており、往時のにぎわいを感じさせる。

第4調査区、第5調査区では浅い溝跡を検出した。溝が作られるまでは砂と粘土が交互に重なっており、目名川の流れによってこのような層位が形成されたと考えられる。しかし溝が作られてからは砂が堆積することが無くなり、粘土のみとなる。また木製品も溝跡の残る層より上の層ではほとんど出土していない。恐らくはKo-dが降下した1640年以前に作られたこの溝跡が当地点における目名川の流れに何らかの影響を与えたために川の流が停滞し、砂の堆積が無くなったと考えられる。この浅い溝跡のみでは目名川の流れを変化させることは不可能であると思われるが、柵列なども検出されず具体的に何があったかは不明である。

字向浜地区における今年度の調査において、洲崎館と字向浜地区の関連性については薄いと言わざるを得ない結果となった。洲崎館跡については前掲の報告をご覧いただき、将来の分布調査等の調査により実像をつかんでいきたいと考えている。また今回の分布調査では明治時代に最盛期を迎えた集落の成立の様子についてその一端を垣間見るようになった。わずか150～100年程度前の出来事ではあるが、不明な点も多く興味は尽きない。函館市の五稜郭など近代遺跡の調査も増えつつあり、当地点で行われた分布調査で得られた資料が今後の近代遺跡の調査の参考になりうるように検討と資料整理を進めていきたい。（三浦英俊）

# 報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはつかつちょうさじぎょうほうこくしよ							
書名	町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅳ							
副書名								
巻次	4							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	齊藤邦典 三浦英俊							
編集機関	上ノ国町教育委員会							
所在地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 TEL 01395-5-2230							
発行年月日	西暦 2001年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
洲崎館跡	かみくにおちょう あざきたむら 上ノ国町 字北村82-1ほか	013625	C-02-25			平成11年7月9日～ 10月26日 平成12年7月9日～ 10月26日	430㎡	町内遺跡 発掘事業
比石館跡	かみくにおちょう あざなでの 上ノ国町 字館野1ほか	013625	C-02-8			平成12年7月27日～ 10月2日	150㎡	町内遺跡 発掘事業
あざ 字 向 浜	かみくにおちょう あざむかいほま 上ノ国町 字向浜12ほか	013625				平成12年5月10日～ 7月6日	300㎡	町内遺跡 発掘事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
洲崎館跡	遺物包含地	擦文 中世 近世	柱穴 土壇 竪穴建物跡	土器・土師器 陶磁器 青磁・白磁・青花 珠洲・瀬戸美濃・肥前 唐津・備前 鉄製品 釘・鍋 銅製品 煙管 銅銭				
比石館跡	遺物包含地	中世 近世	柱穴 土壇 土葬墓 火葬墓 礎石建物跡 空壕跡	土器・石器 陶磁器 青磁・青花 瀬戸美濃・唐津・肥前 鉄製品 釘 銅銭				
字向浜地区	遺物包含地	近世 近代	柱穴 土壇	陶磁器 肥前・唐津 木製品				

# 圖 版





洲崎館跡遠景



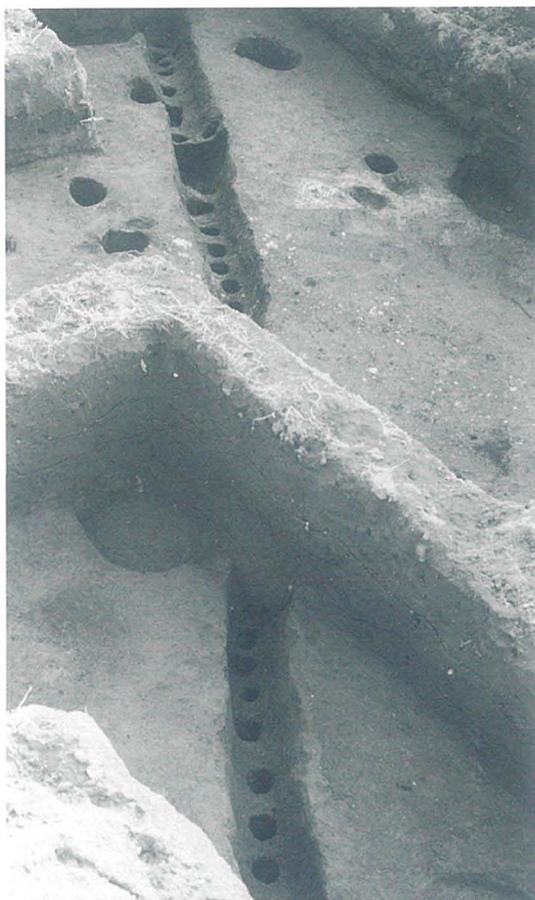
洲崎館跡近景



砂館神社本殿



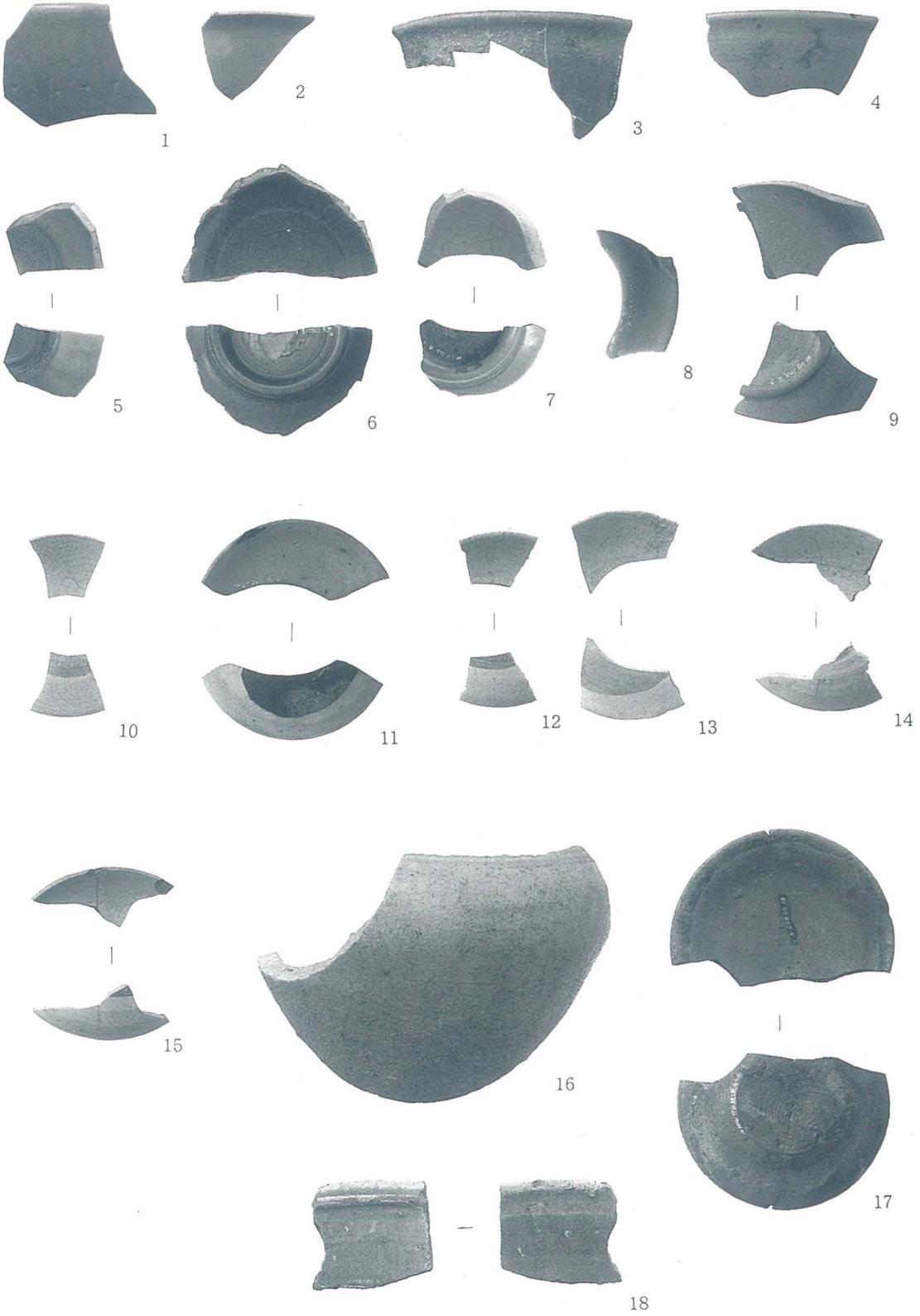
第50調査区 竪穴建物跡



第52調査区 溝跡



第50調査区 銅銭出土状況





—



19



—



20



—



22



—



21



24



25



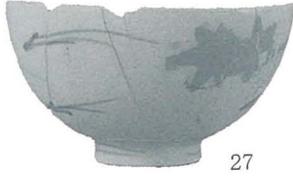
|



23



26



27



28



30



34



32



33



35



29



36



37



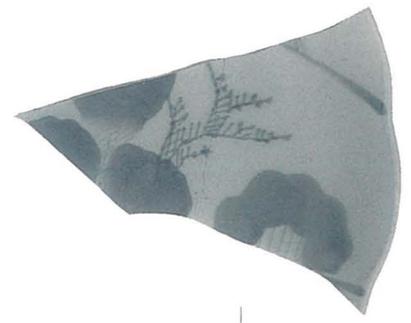
38



39



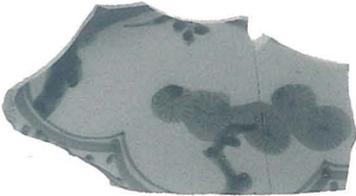
40



42

43

44



45

46



49



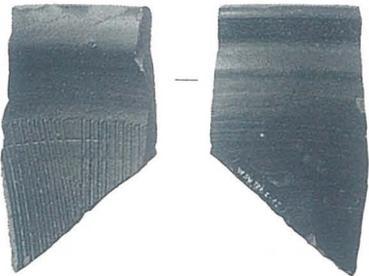
50



47



48



51



52



53





54



55



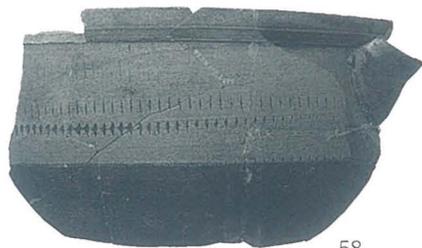
56



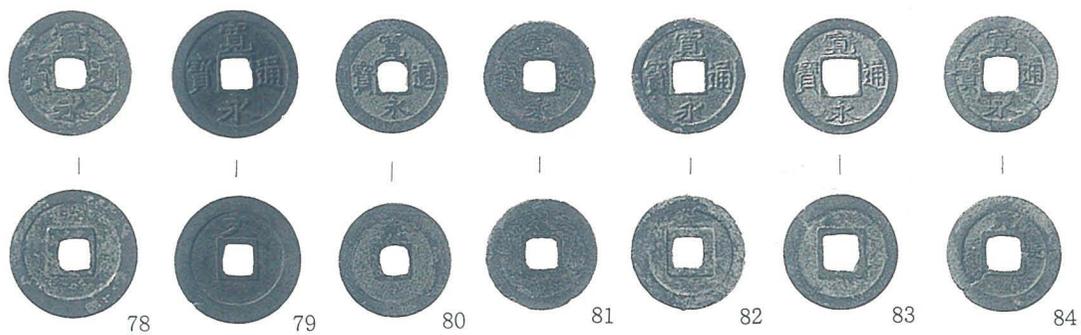
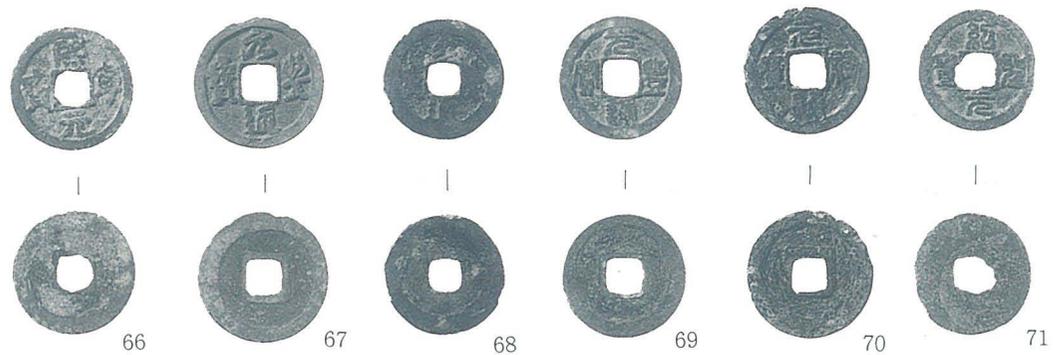
57



59

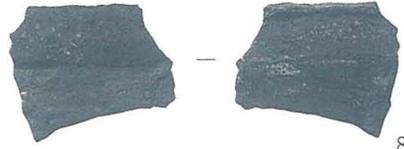


58





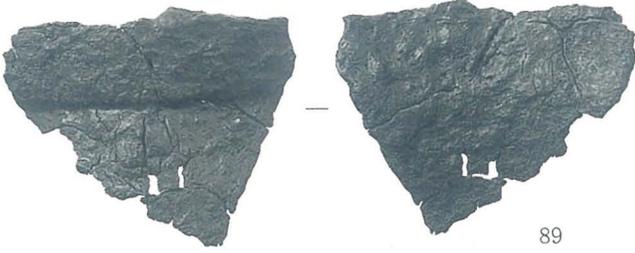
85



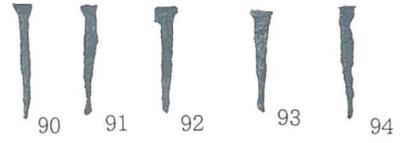
87



88



89



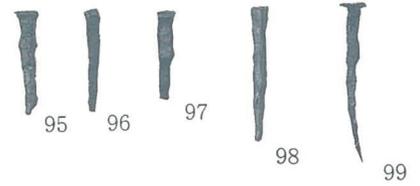
90

91

92

93

94



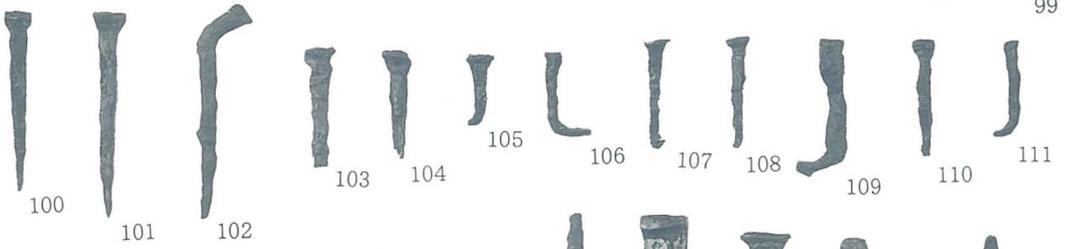
95

96

97

98

99



100

101

102

103

104

105

106

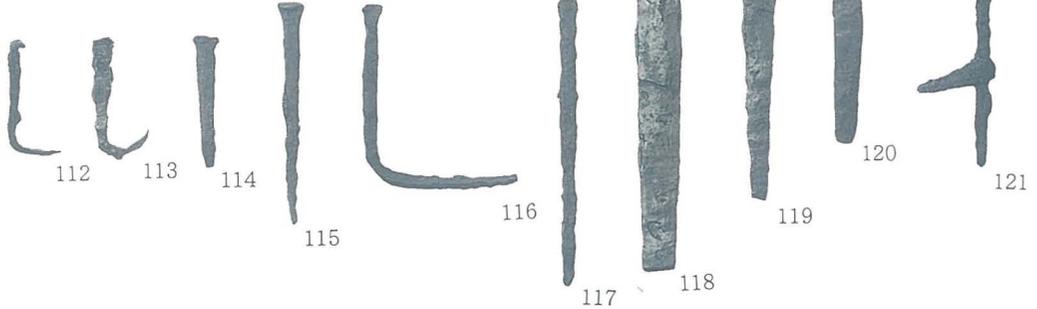
107

108

109

110

111



112

113

114

115

116

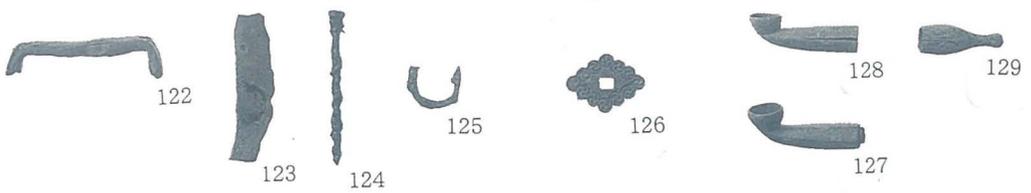
117

118

119

120

121



122

123

124

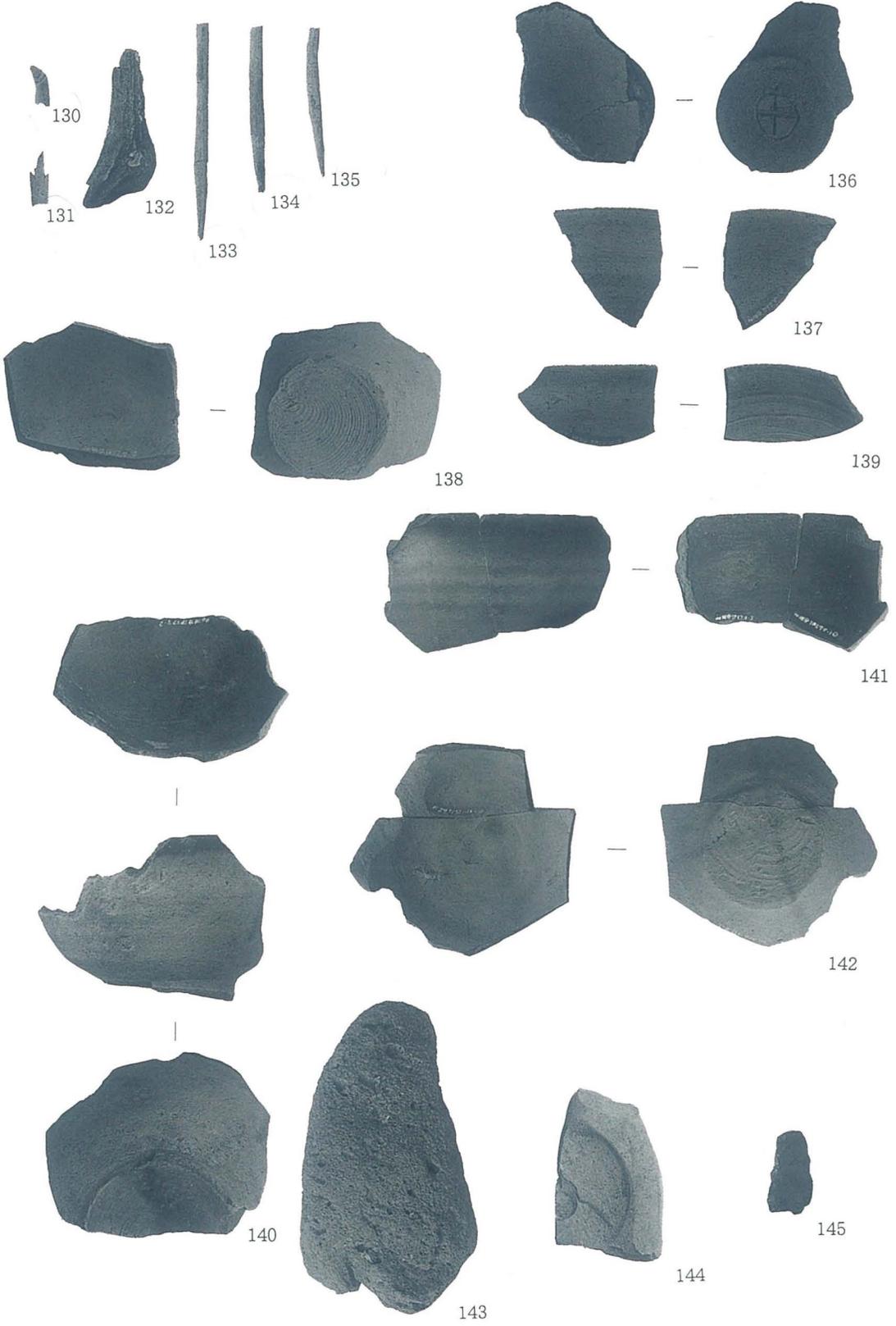
125

126

127

128

129





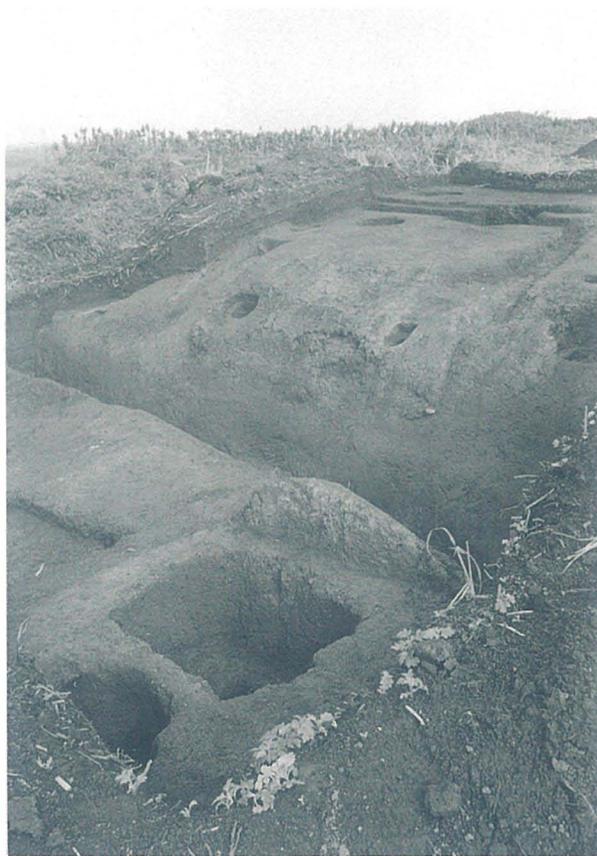
比石館跡



館神社



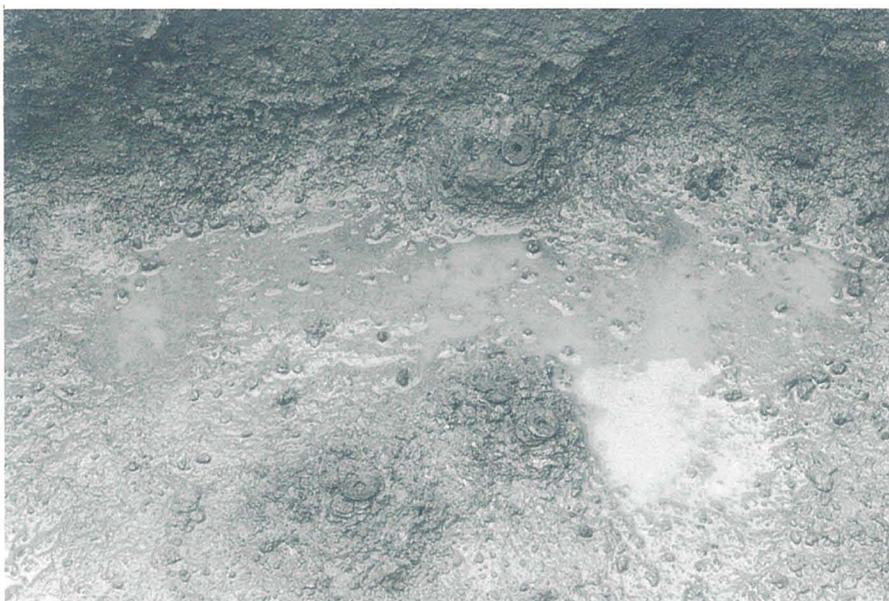
比石館跡 推定堀跡の現況



第14調査区 空壕跡



第5調査区 土壙2



第5調査区 土壙2遺物出土状況



第5調査区 土壙3検出状況



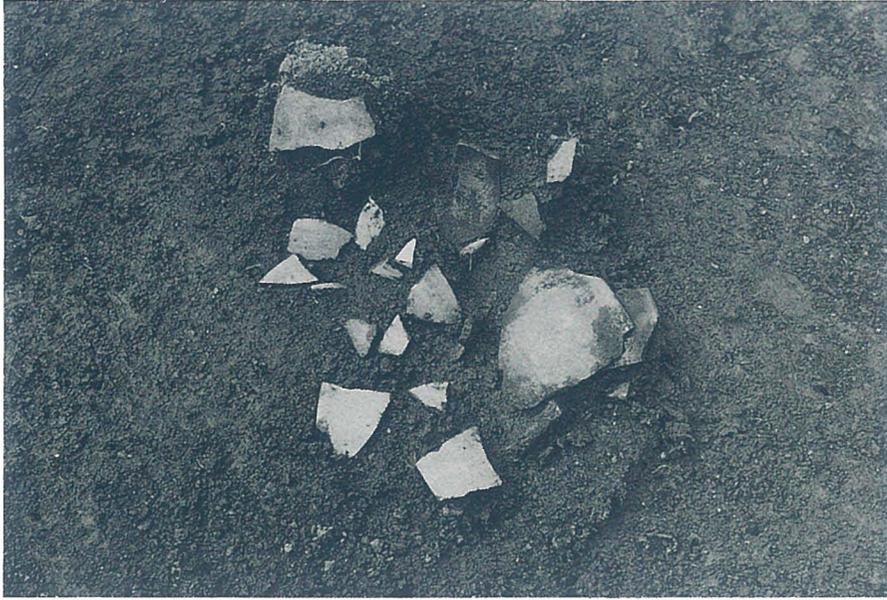
第5調査区 土壌3遺物、焼骨検出状況



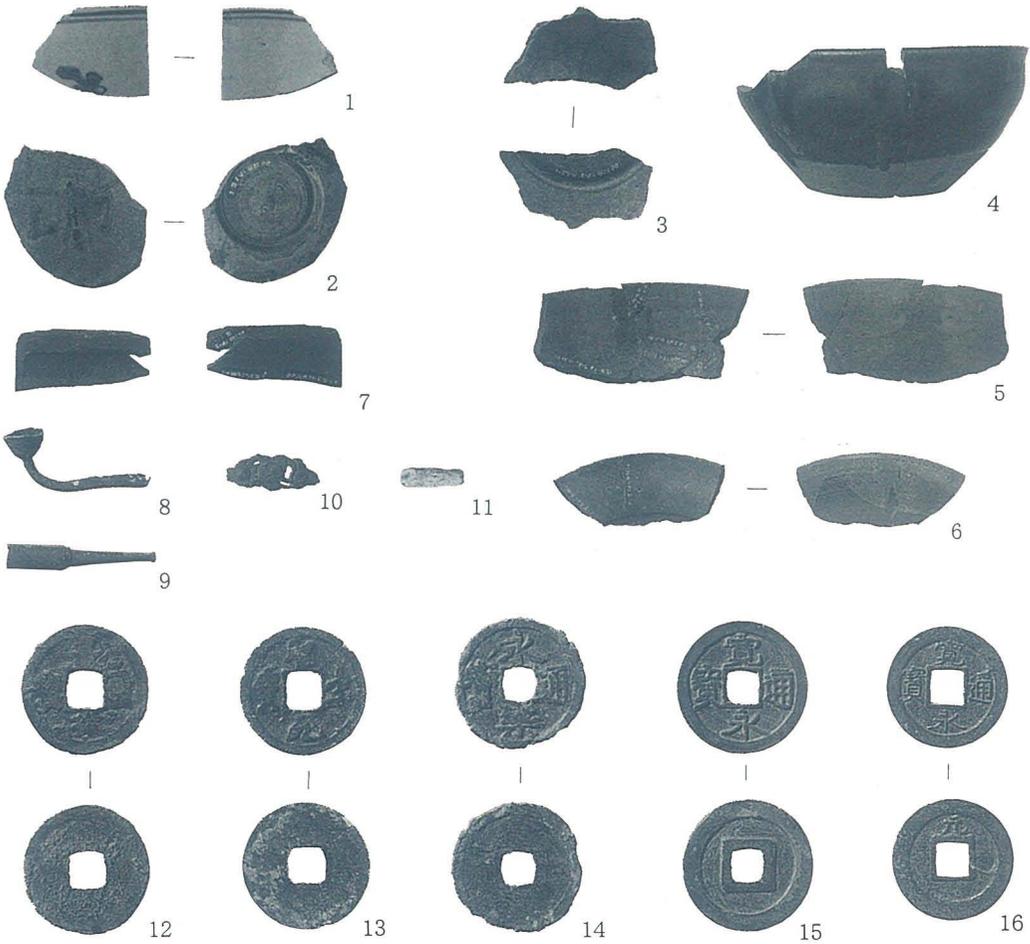
第5調査区 礎石建物跡



第7調査区 土壌1



第15調査区 遺物出土状況





字向浜地区遠景



第4調査区 木製品出土状況



第12調査区 遺構検出状況



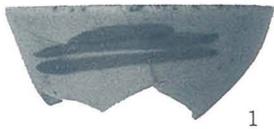
第13調査区 土壙3



第12調査区 土壙1



第13調査区 漆塗膜検出状況



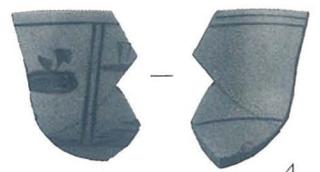
1



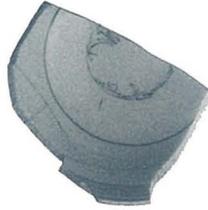
2



3



4



5



6



7



8



9



12



13



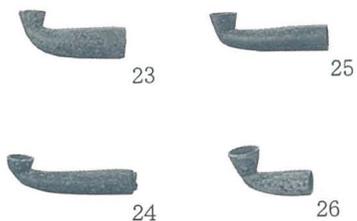
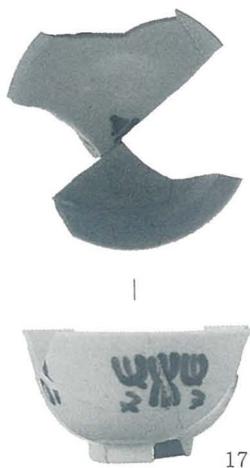
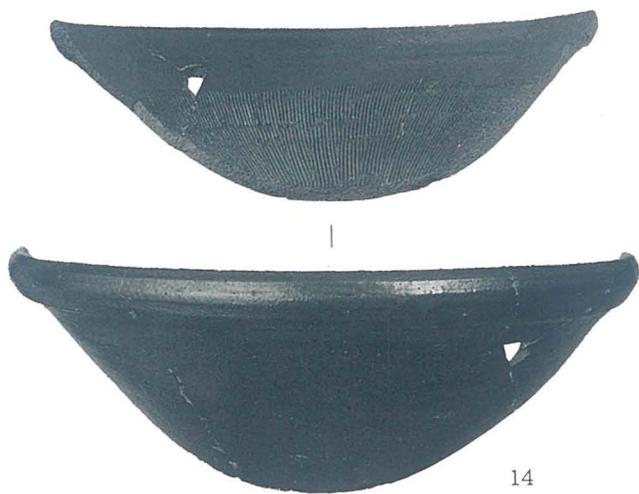
10



11



15





31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45

TP3 II-37  
TP1 53244

---

## 町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅳ

洲崎館跡内外分布調査  
比石館跡内外分布調査  
字向浜地区分布調査

発行 上ノ国町教育委員会

北海道桧山郡上ノ国町字大留100

印刷 平成13年3月27日

発行 平成13年3月30日

印刷所 (有)三和印刷

---





町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅳ 附図2 比石館跡内外分布調査 調査区位置図及び周辺地形図